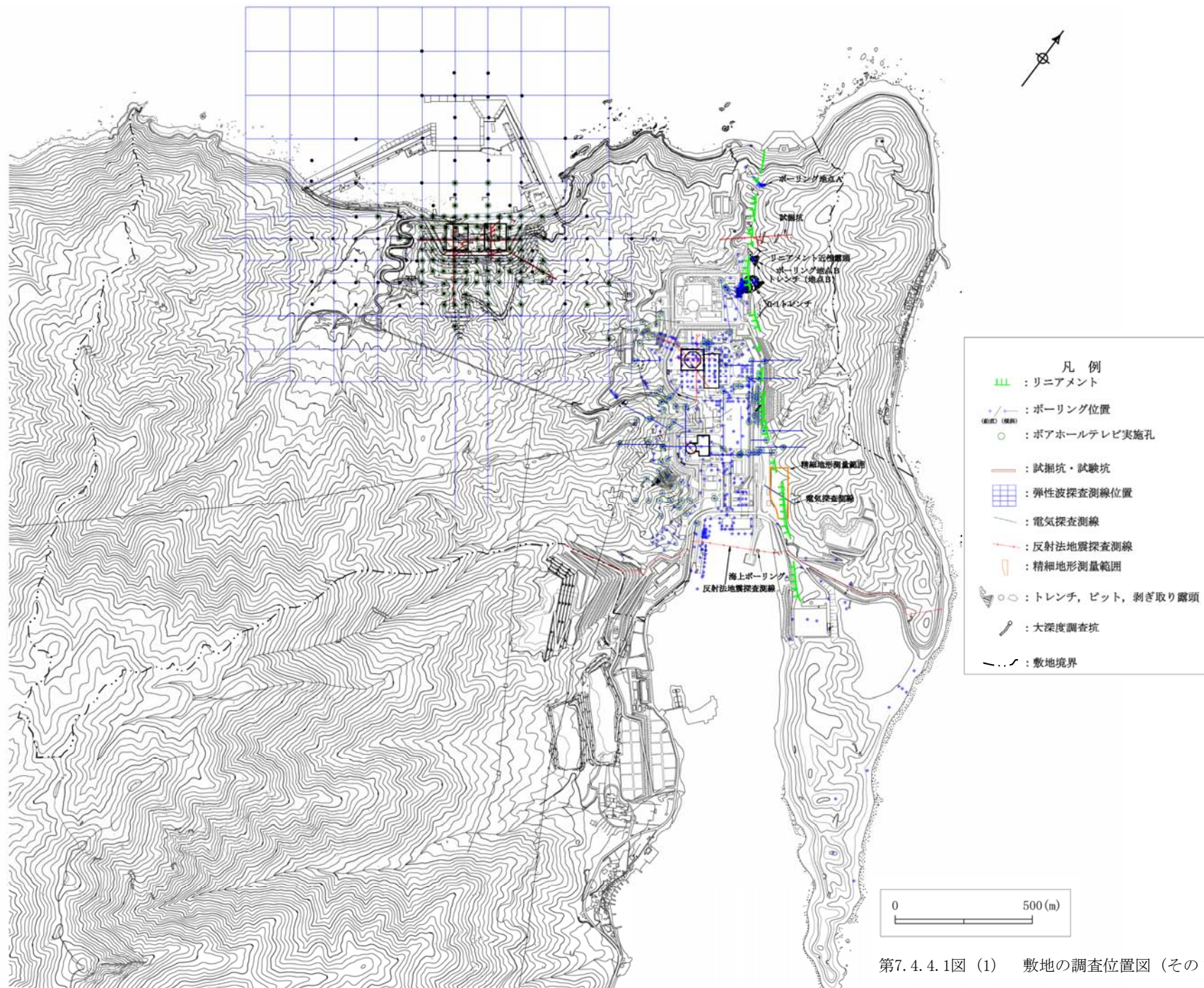
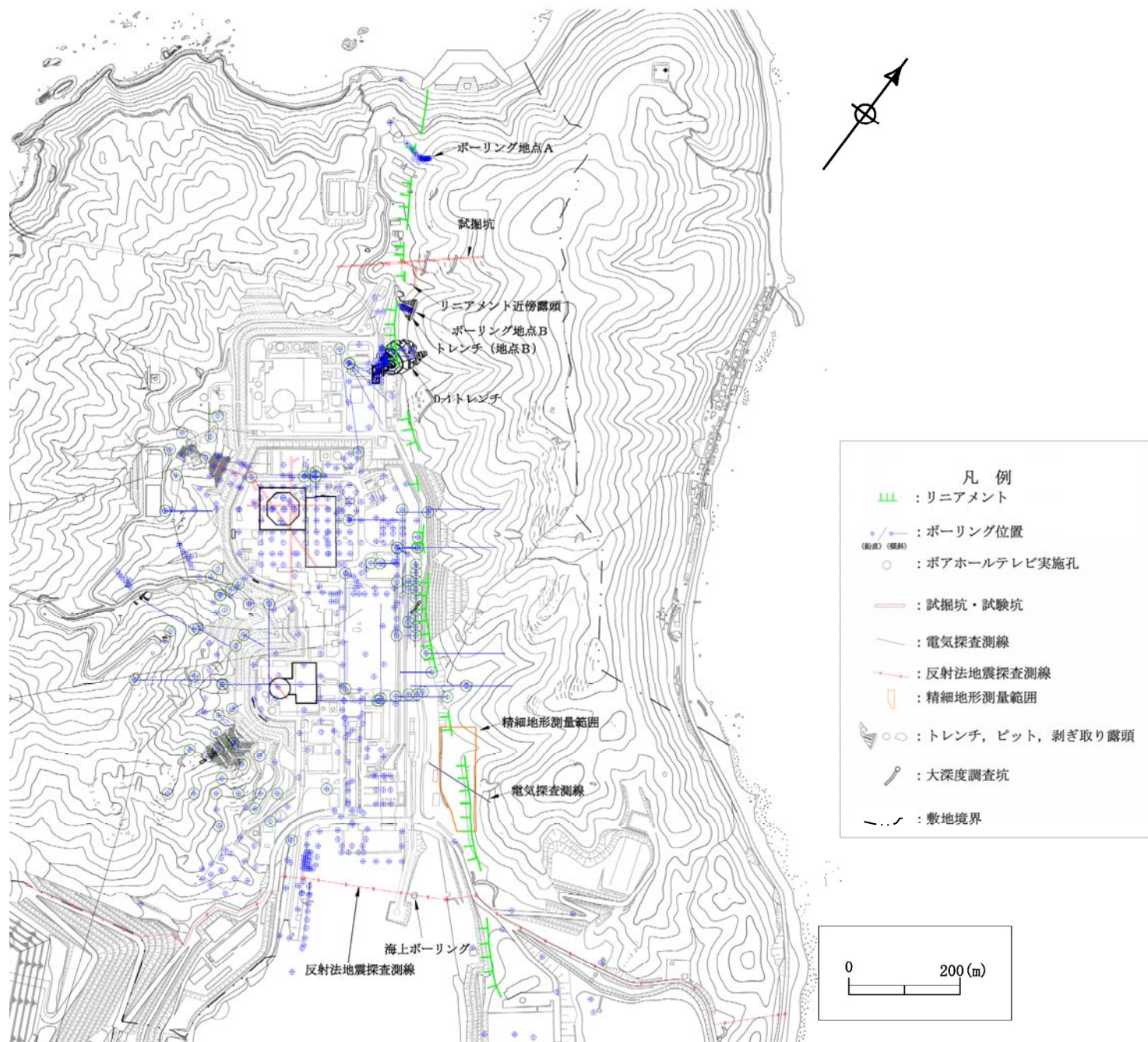
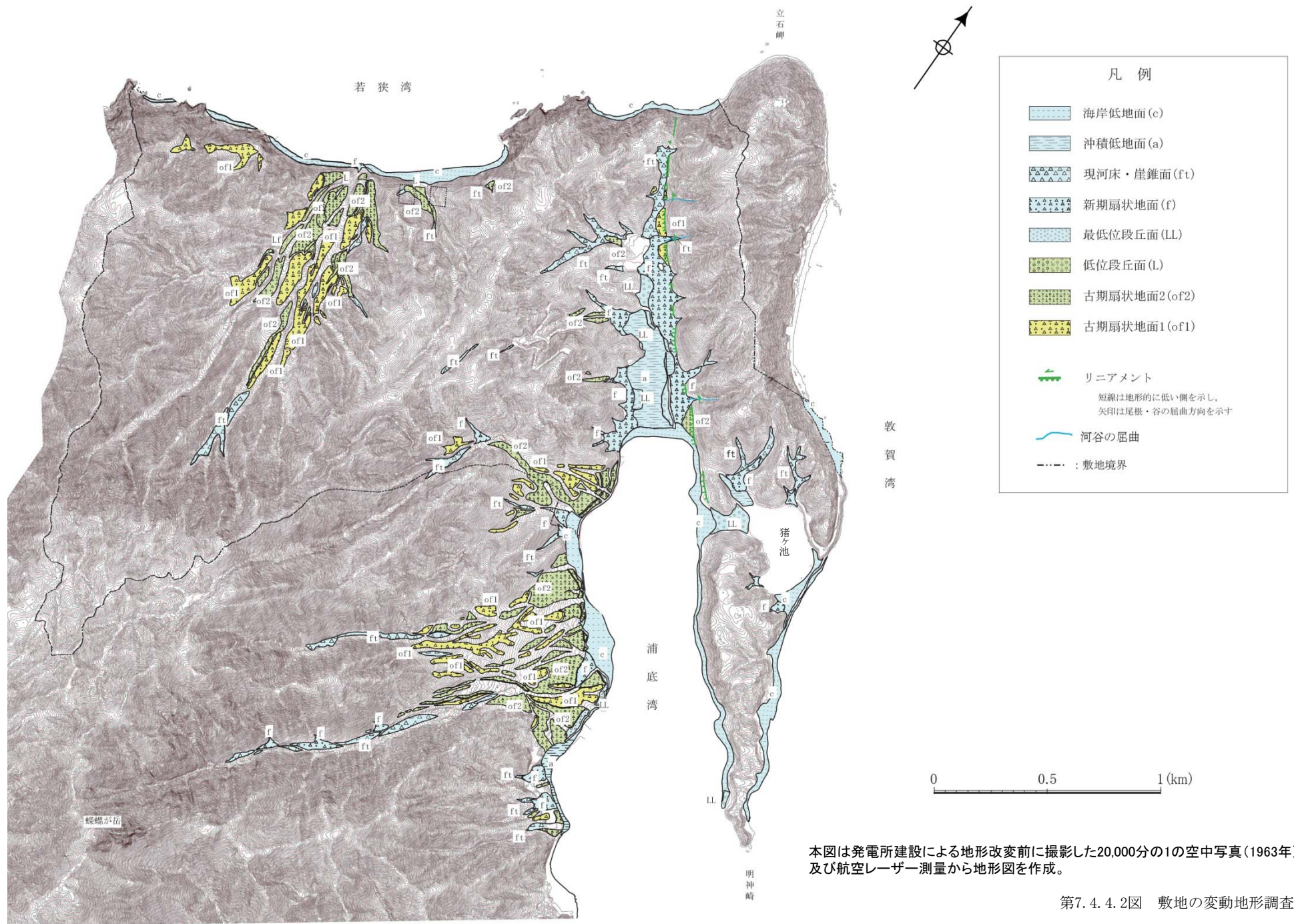




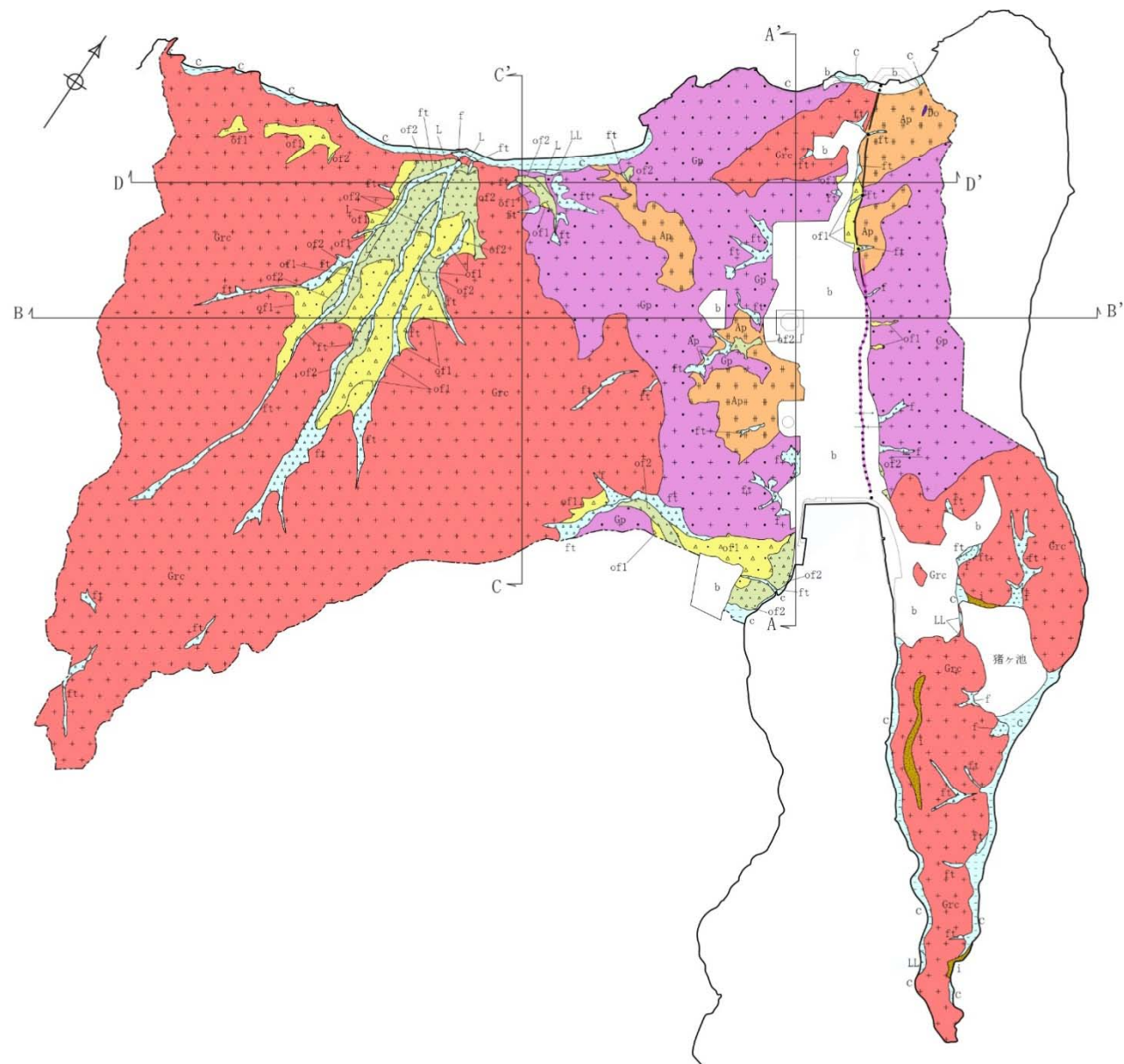
第7.4.4.1図 (1) 敷地の調査位置図 (その1)



第7.4.4.1図 (2) 敷地の調査位置図 (その2)

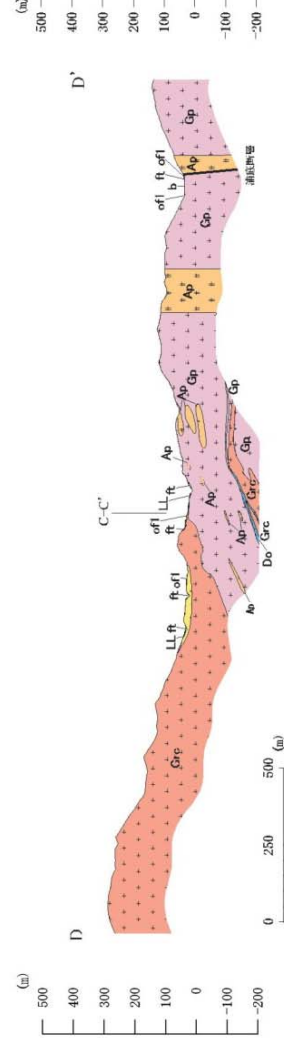
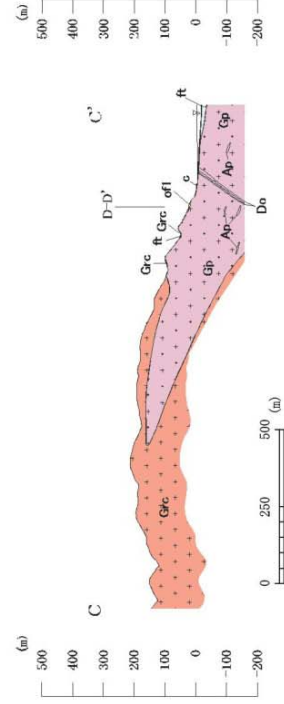
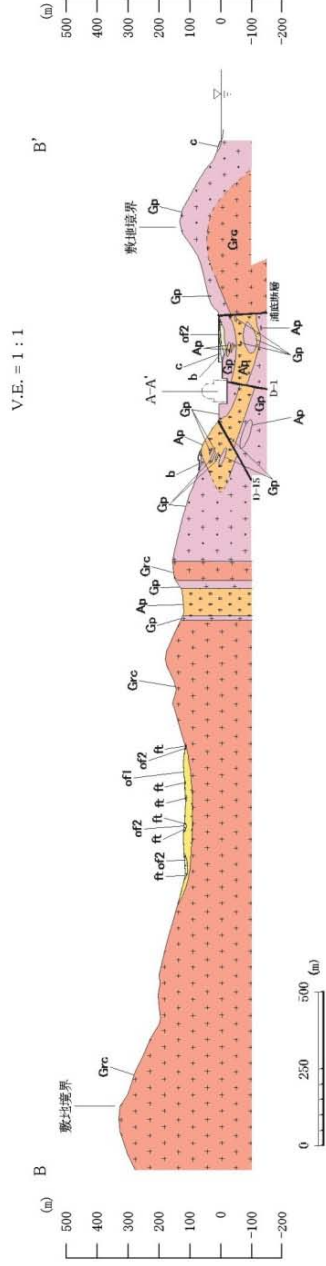
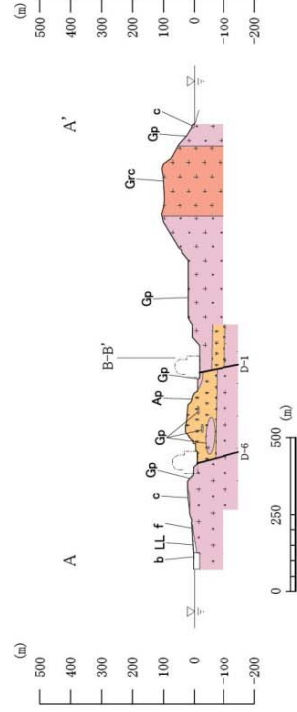
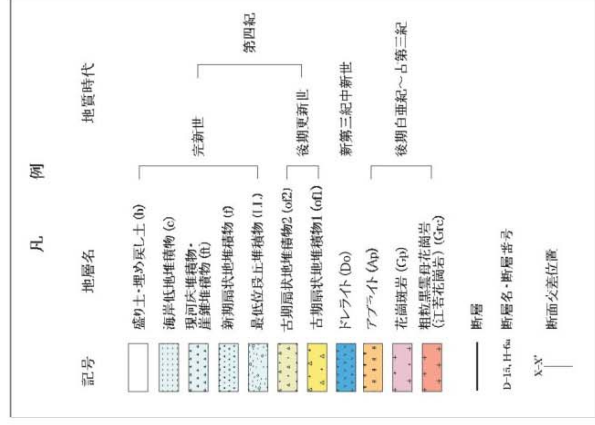


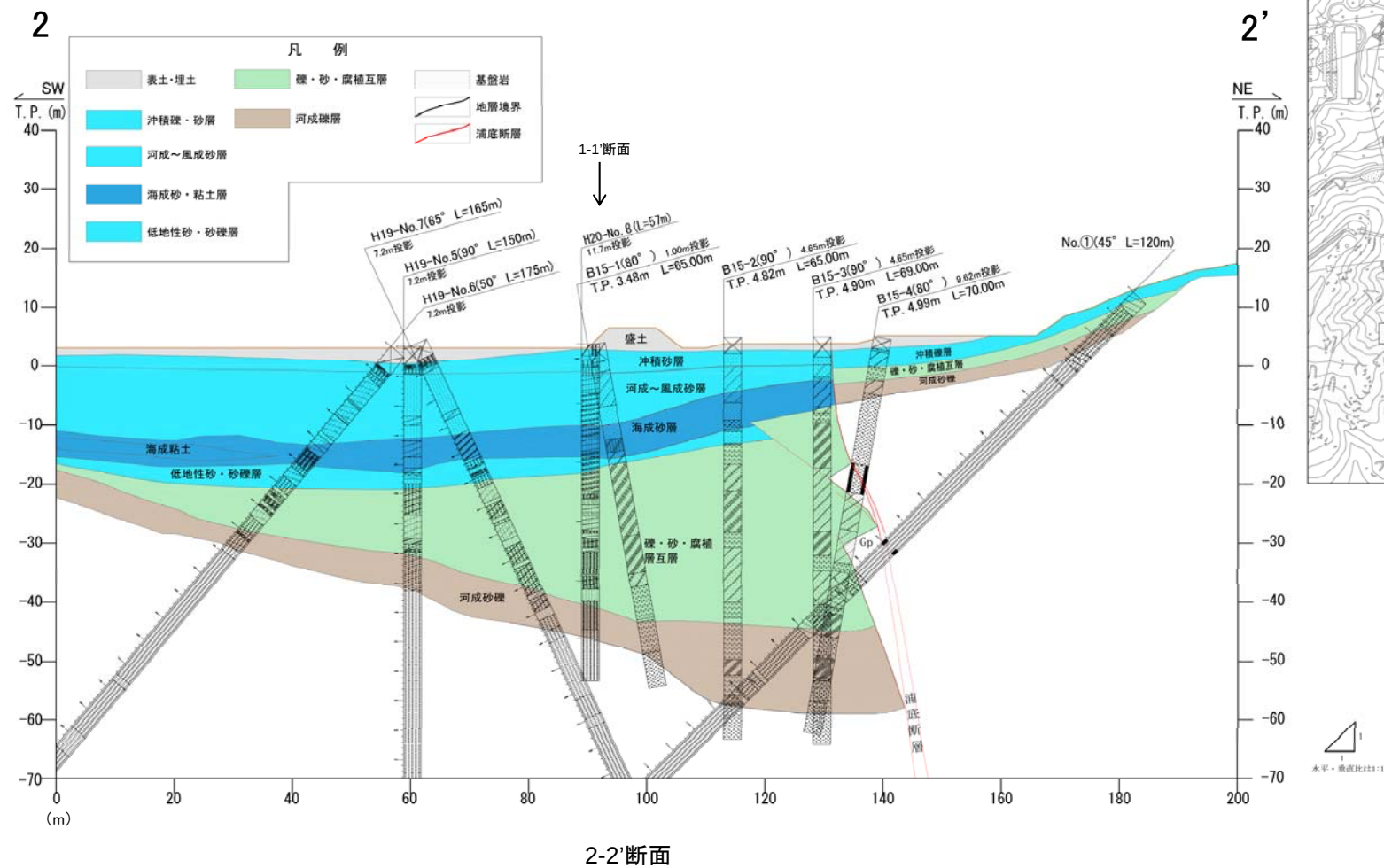
第7.4.4.2図 敷地の変動地形調査結果



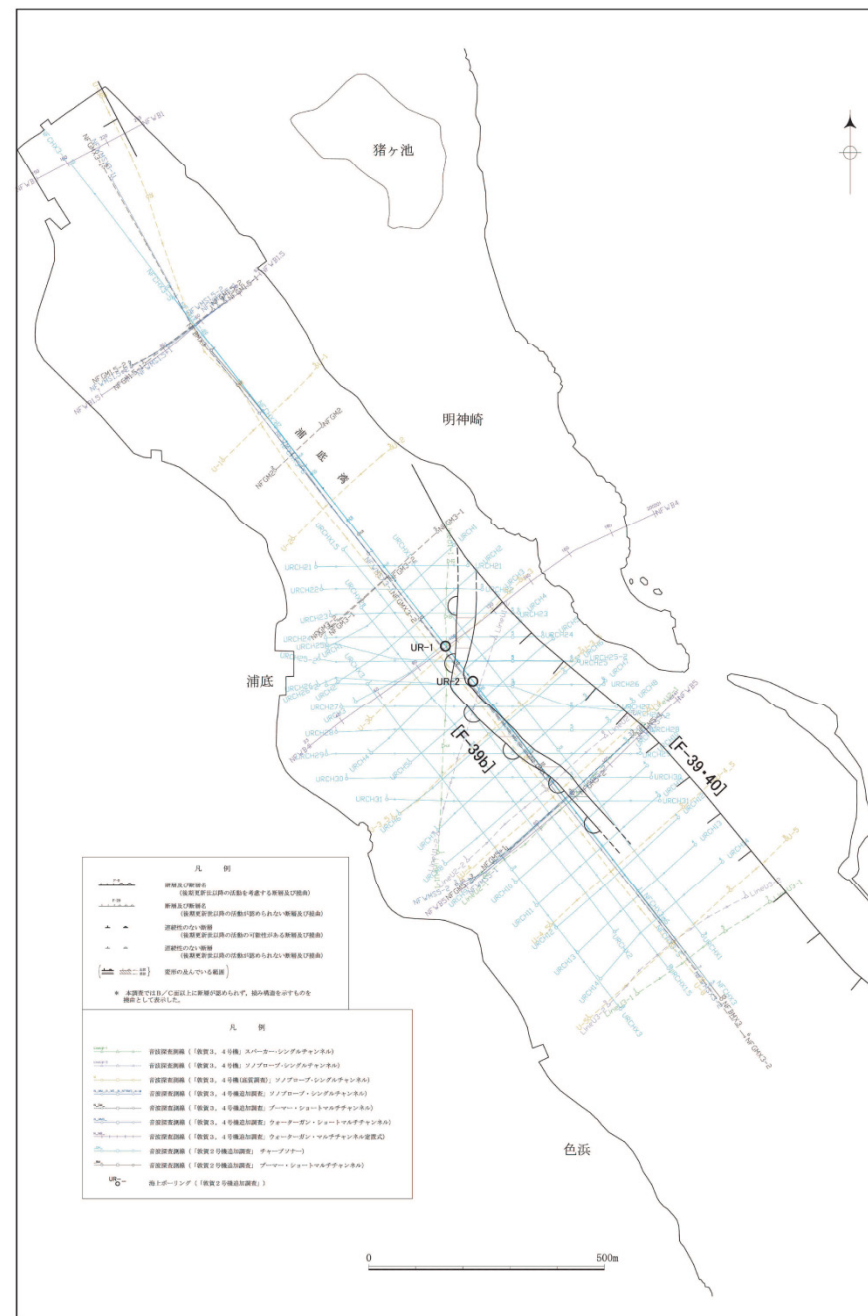
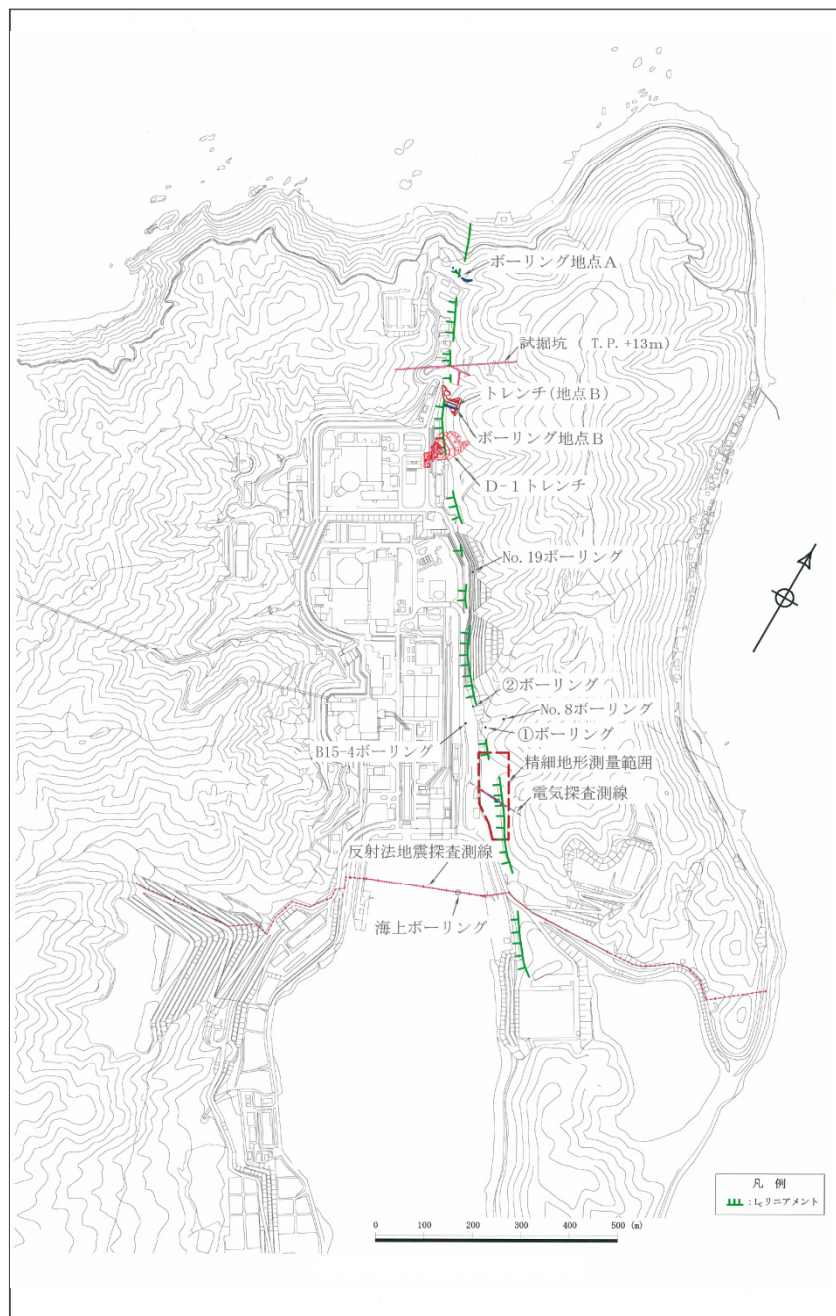
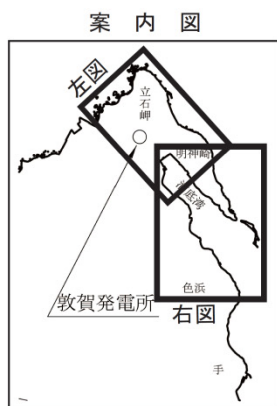
凡 例		
第 四 紀	完 新 世	盛土・埋め戻し土 (b)
		海岸低地堆積物 (c)
		現河床堆積物・崖錐堆積物 (ft)
		新期扇状地堆積物 (f)
		最低位段丘堆積物 (LL)
	後期更新世	低位段丘堆積物 (L) 古期扇状地堆積物2 (of2) 古期扇状地堆積物1 (of1)
新 第 三 紀	中期更新世	猪ヶ池層 (i)
	中新世	ドレライト (Do)
後期白亜紀 古第三紀		アブライト (Ap) 花崗斑岩 (Gp) 黒雲母花崗岩 (Grc)
断層		(実在) (伏在)
		敷地境界

第7.4.4.3図 敷地の地質平面図

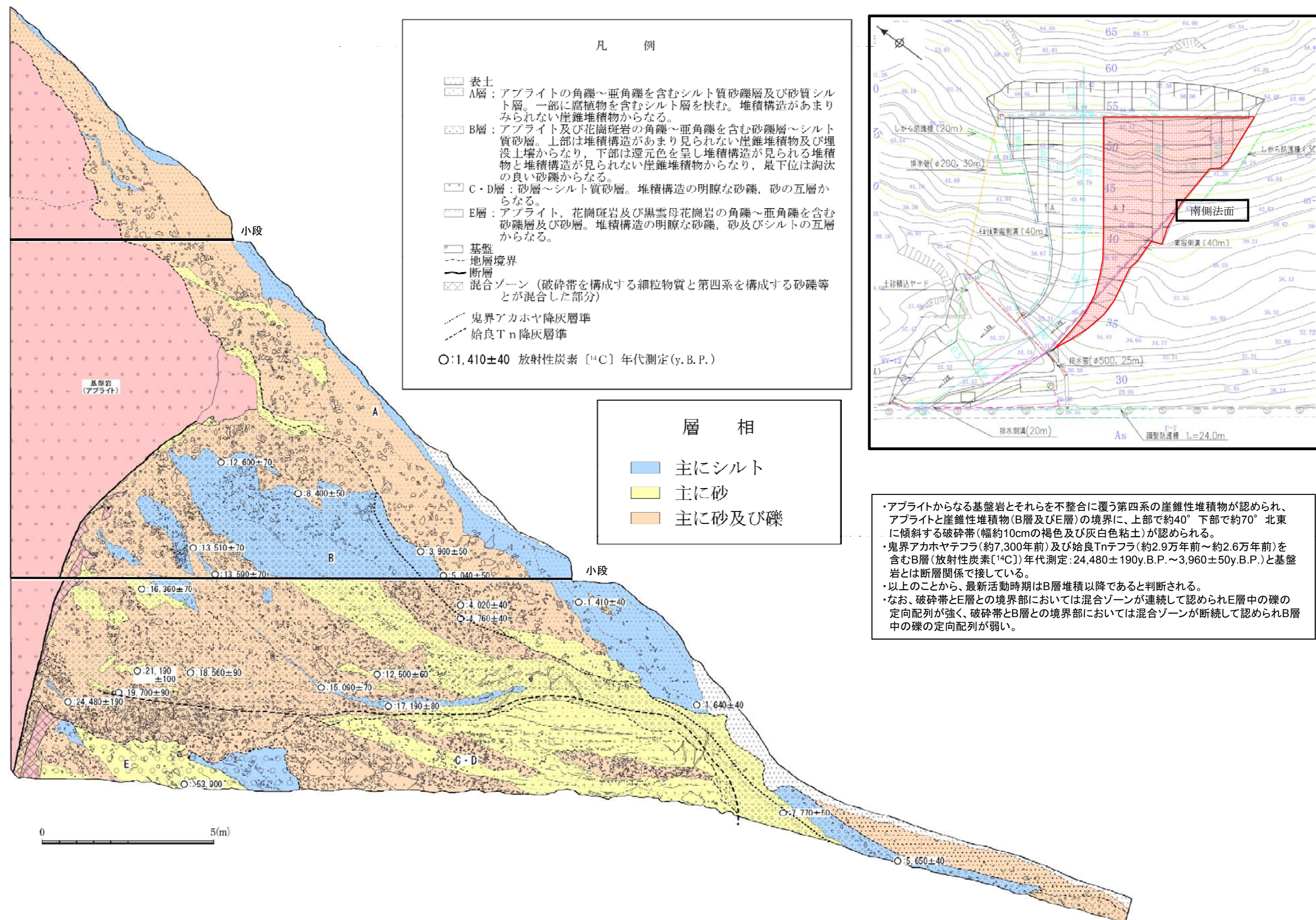




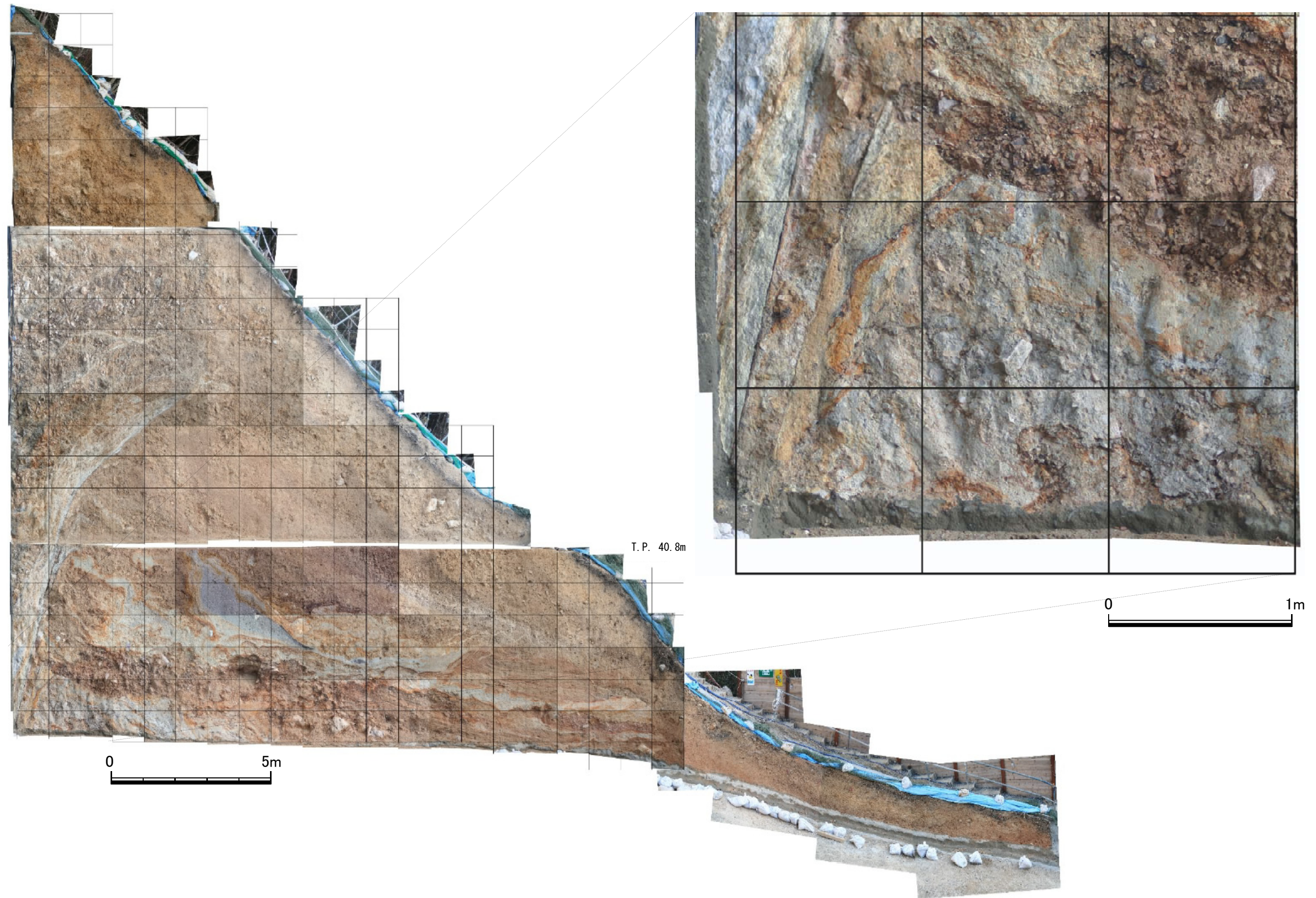
第7.4.4.4図 (3) 敷地の地質断面図 (その3)



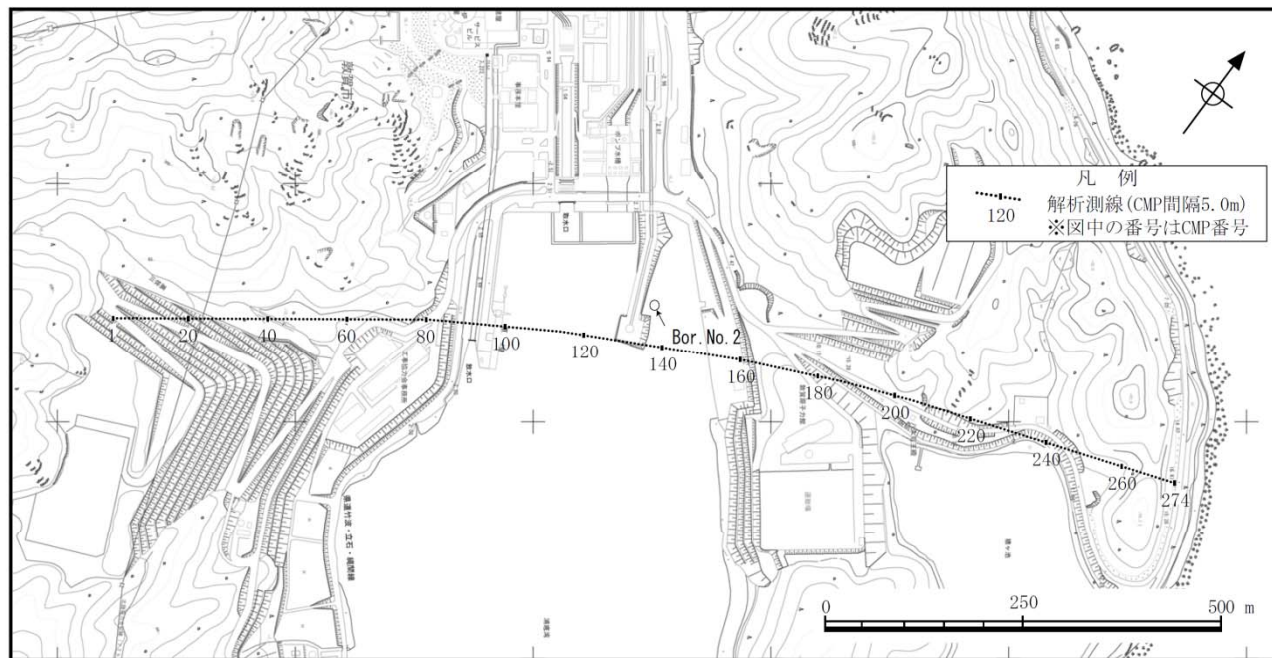
第7.4.4.5図 浦底断層 調査位置図



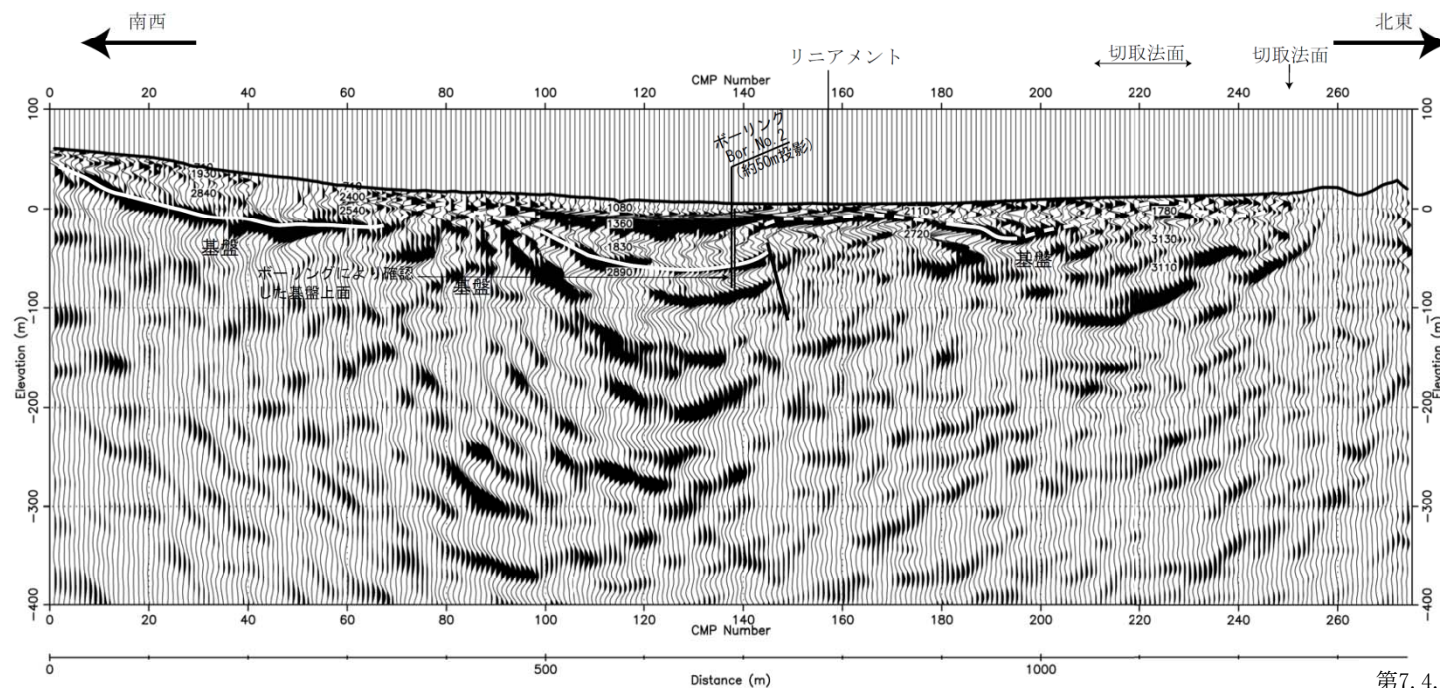
第7.4.4.6図 (1) 浦底断層 トレンチ調査結果 (B地点) (その1)



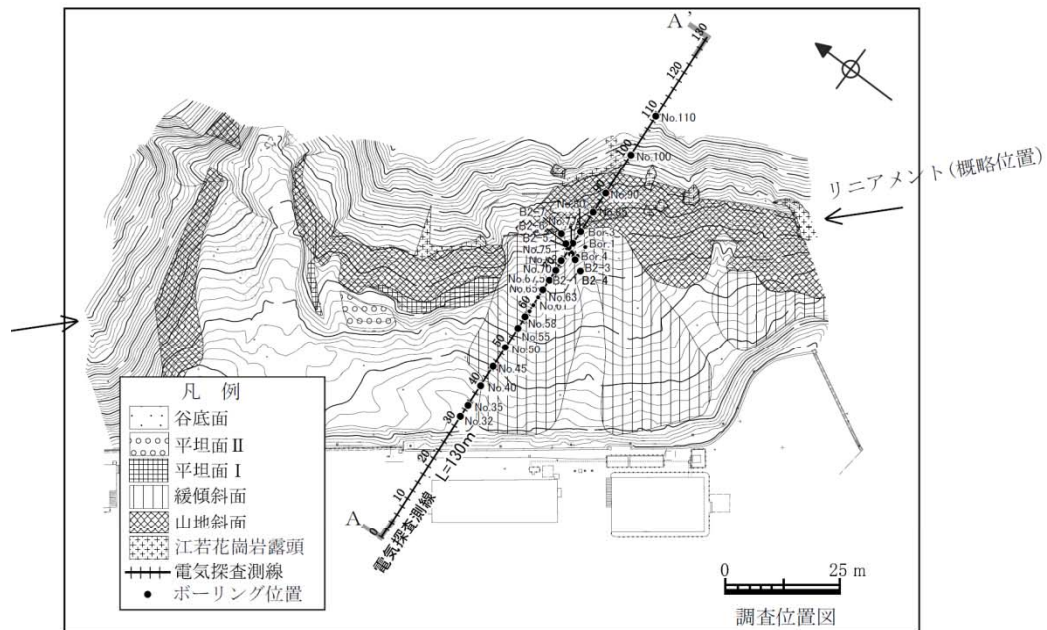
第7.4.4.6図 (2) 浦底断層 トレンチ調査結果 (B地点) (その2)



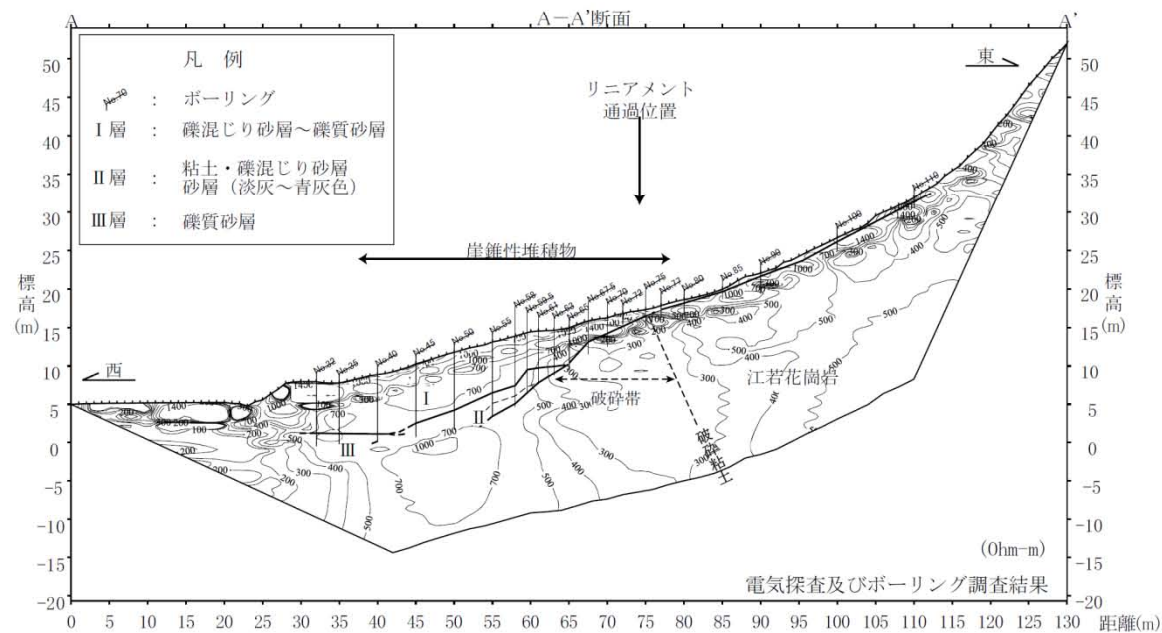
- ・ CMP番号145付近を境に基盤上面における鉛直変位量は40m程度の北東上がりの断層が推定される。
- ・ 一方、リニアメントの南方延長部に位置するCMP番号160付近では、基盤上面と考えられる反射面が連続しており、断層は推定されない。



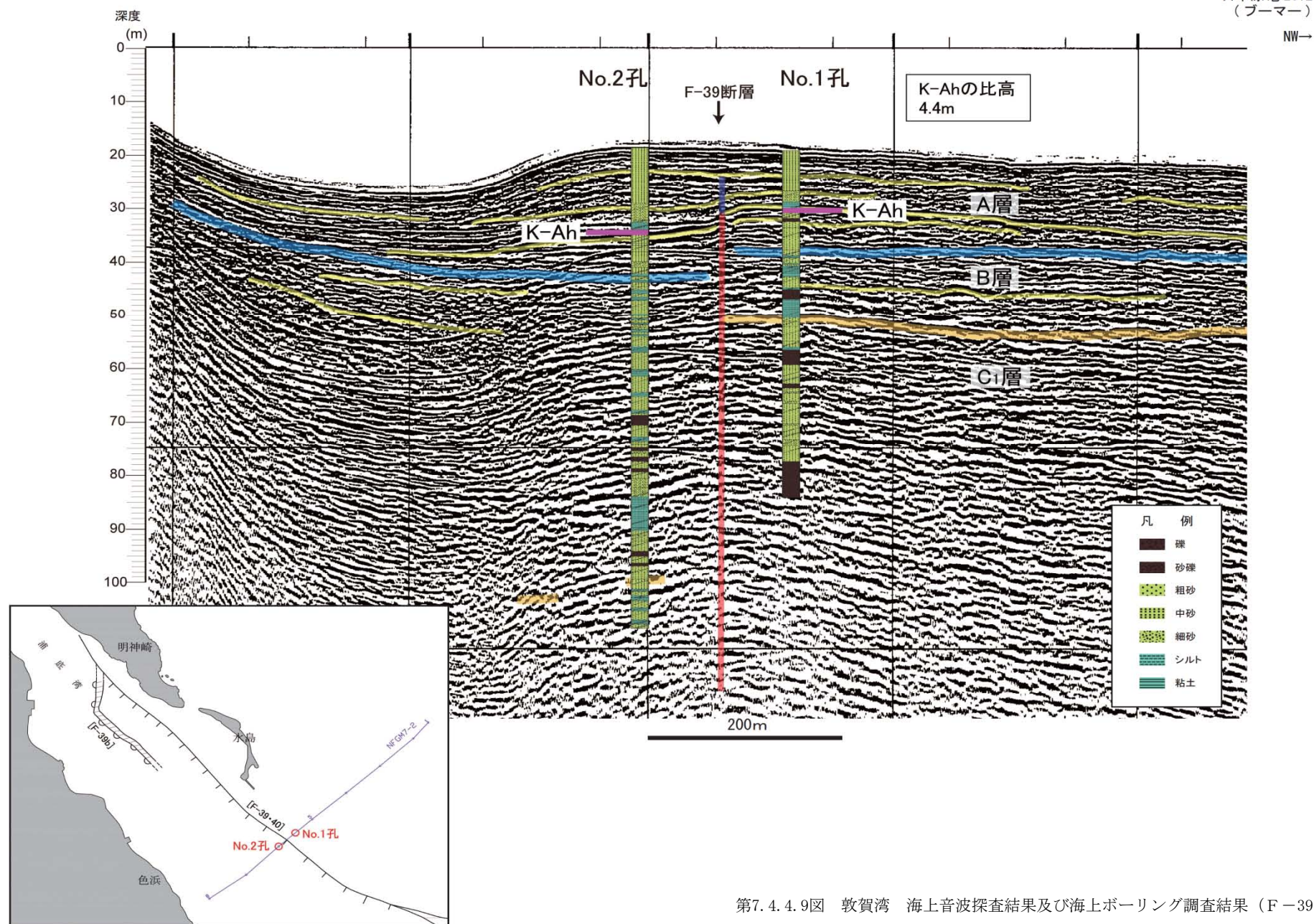
第7.4.4.7図 浦底断層 反射法地震探査結果



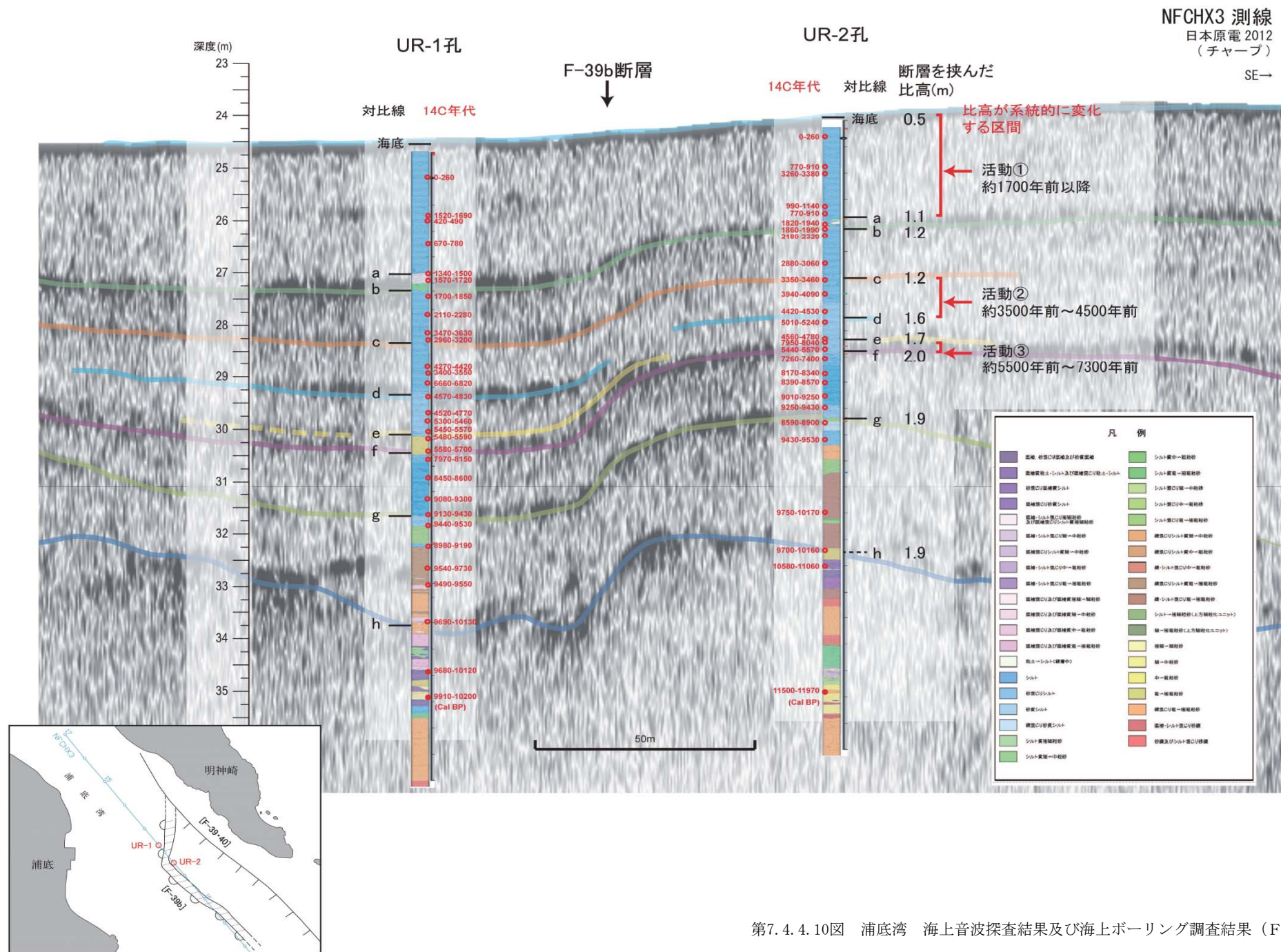
- ・ 電気探査の結果、測線距離0m～40m付近では低比抵抗の範囲が、測線距離40m～60m付近ではやや高比抵抗の範囲が認められる。また、リニアメント付近（測線距離60m～85m付近）に周囲と比較し低比抵抗部が認められる。
- ・ ボーリング調査（打ち込み式）によると、江若花崗岩の上面及び扇状地堆積物（鬼界アカホヤテフラ及び始良Tnテフラ起源の火山ガラスを検出）には有意な変位・変形は認められない。
- ・ リニアメント付近において、江若花崗岩の中に幅約10cm程度の白色粘土からなる破砕帯が認められるが、走向がNNE-SWでありリニアメントの走向と異なる。
- ・ 以上のことから、本地点ではリニアメントに対応する破砕帯は存在しないものと判断される。



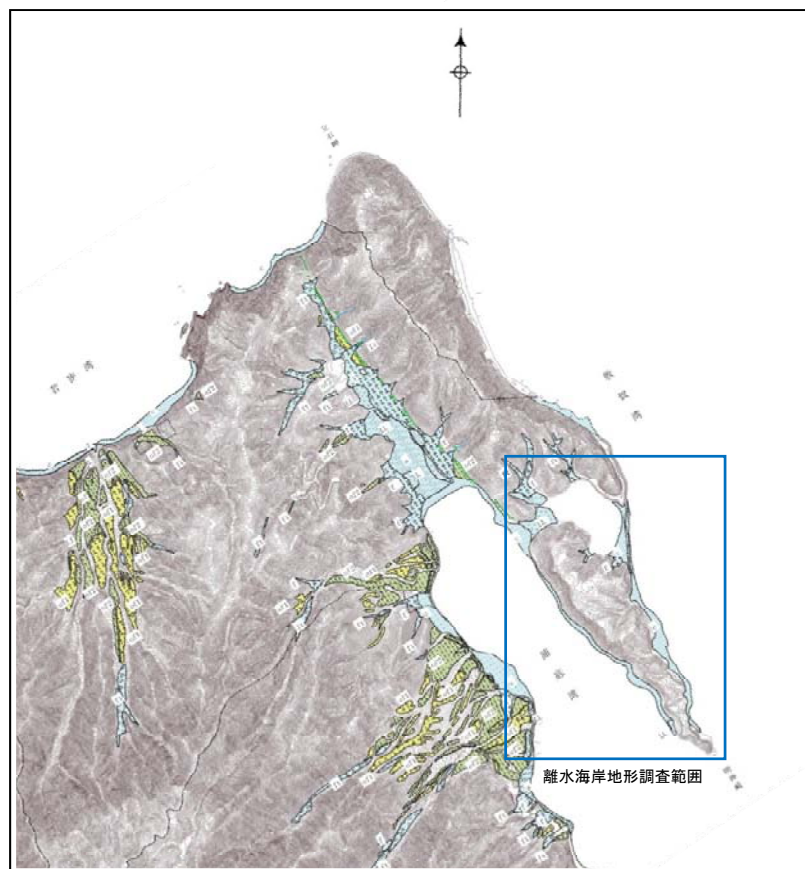
第7.4.4.8図 浦底断層 電気探査結果



第7.4.4.9図 軟賀湾 海上音波探査結果及び海上ボーリング調査結果 (F-39・40)



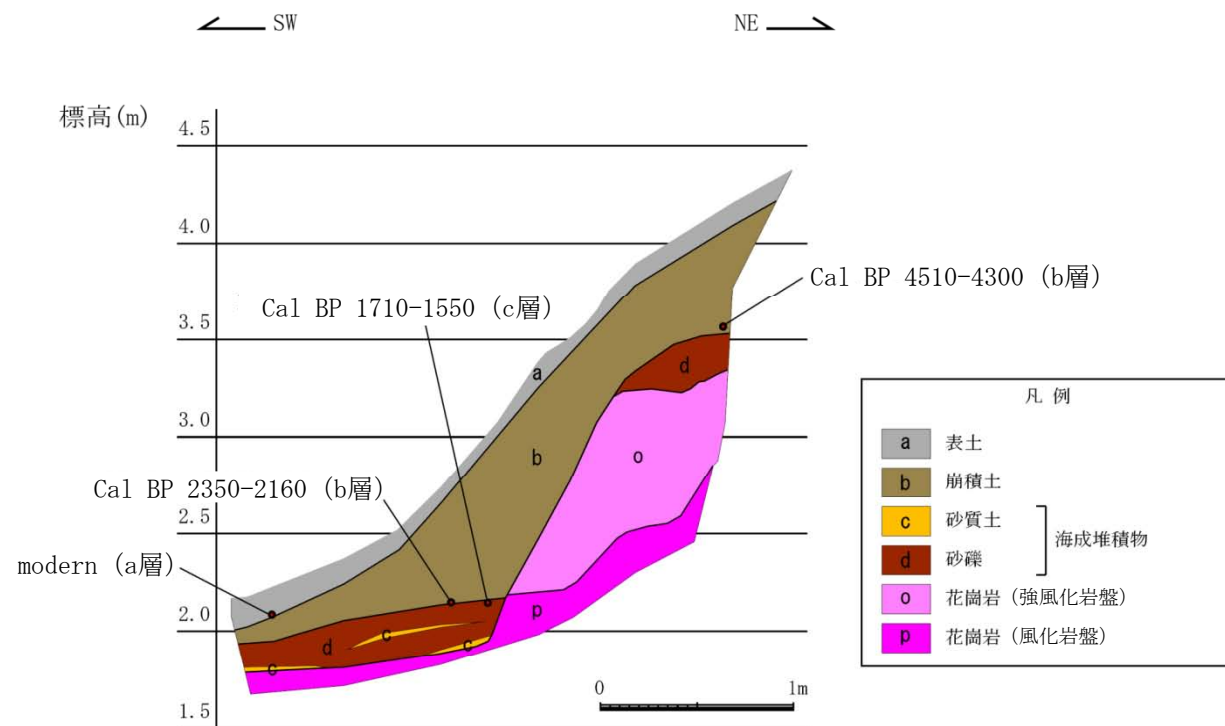
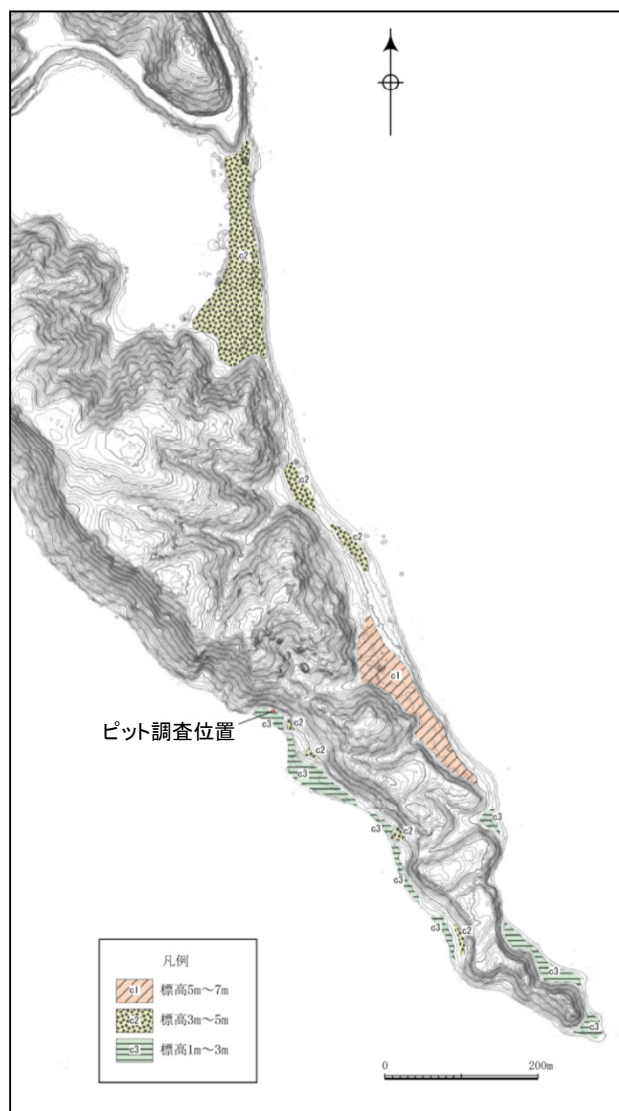
第7.4.4.10図 浦底湾 海上音波探査結果及び海上ボーリング調査結果 (F-39b)



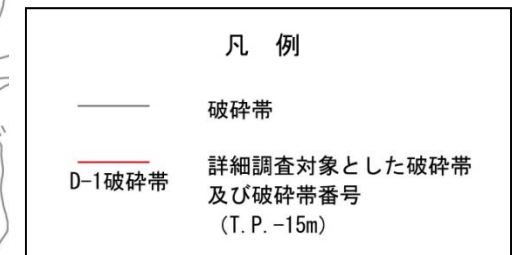
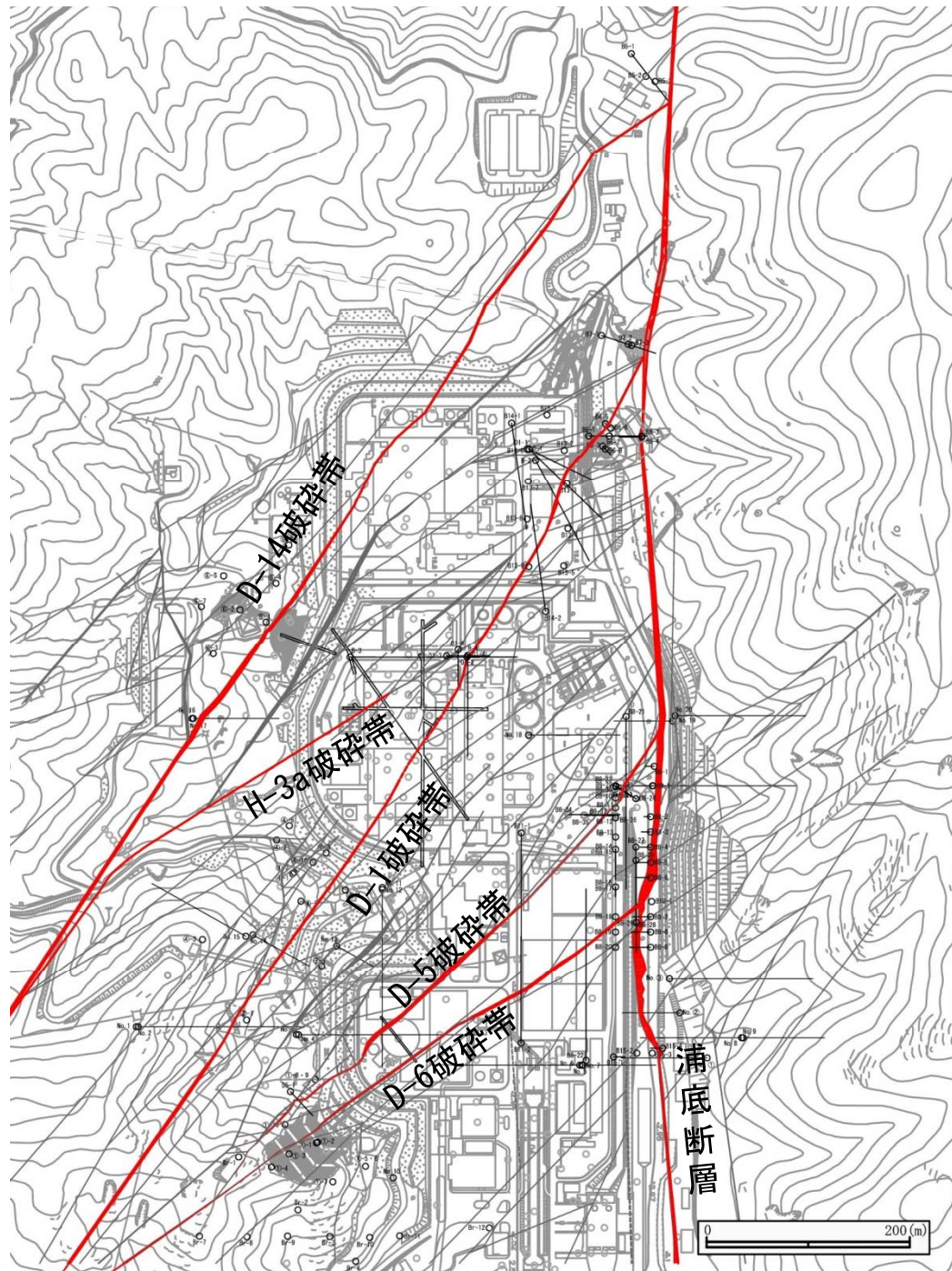
調査位置図



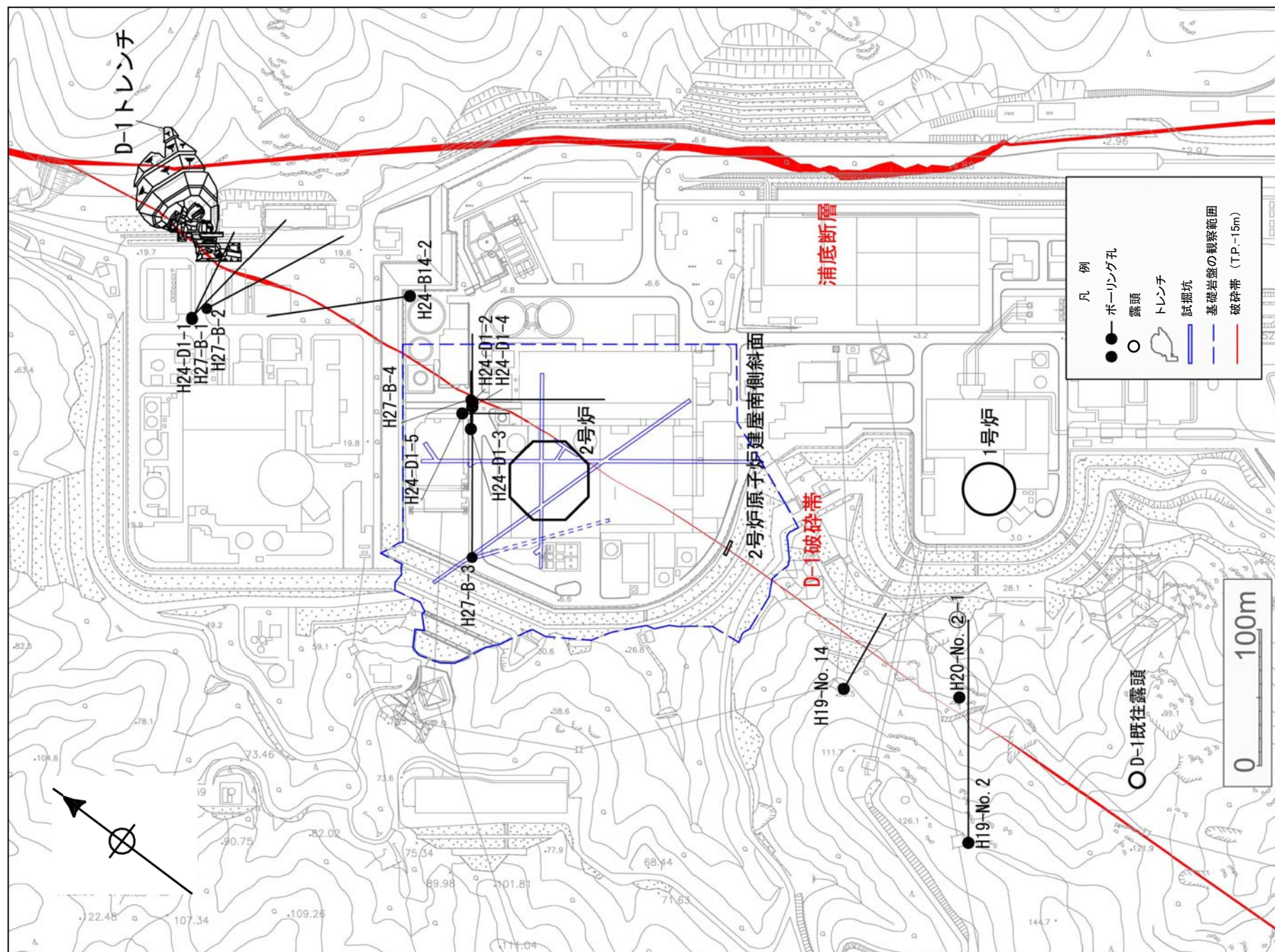
第7.4.4.11図 明神崎付近 離水海岸地形調査結果



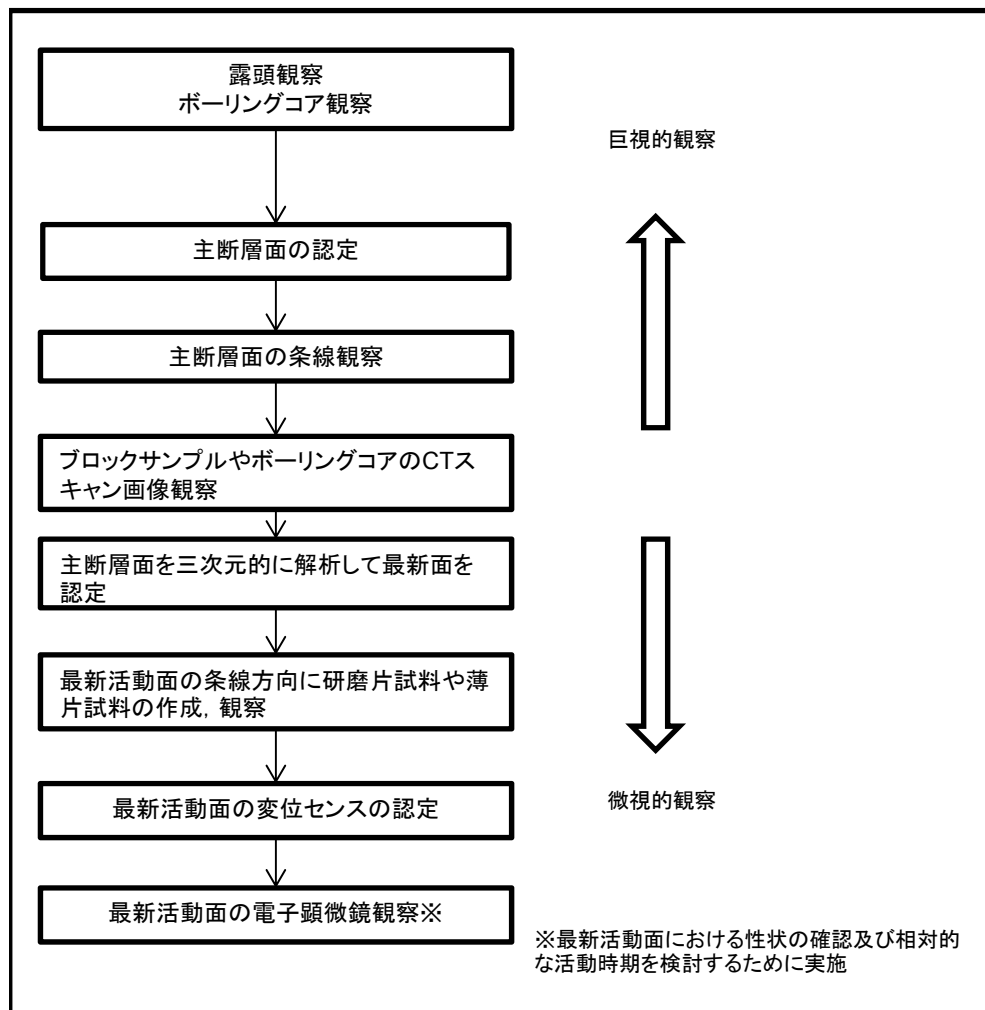
第7.4.4.12図 明神崎付近 ピット調査結果



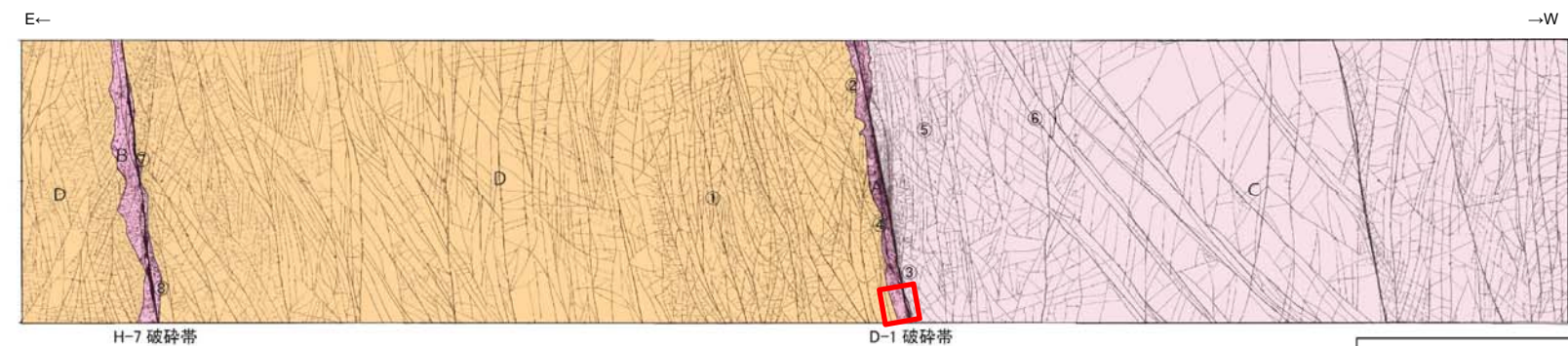
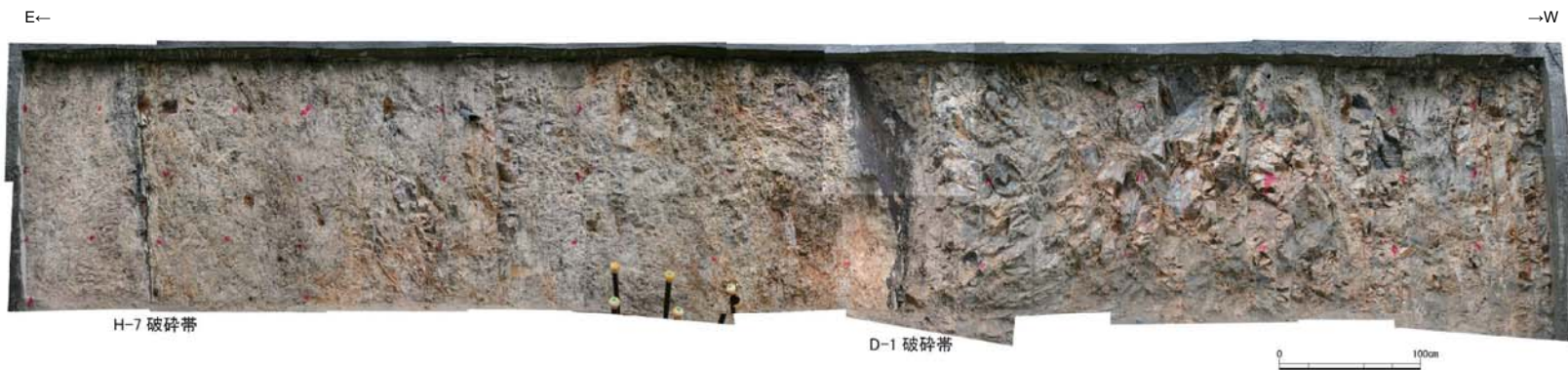
第7.4.4.13図 敷地の破碎帯分布図



第7.4.4.14図 (1) D-1 破砕帯 調査位置図 (その1)



	最新活動面認定にあたっての判断指標 (数字は最新活動面判断の優先順位)
露頭観察, ボーリングコア観察	①他の構造を切っている ②破砕部内において直線性・連続性が相対的に高い ③断層ガウジなど比較的軟質な破砕部を伴う
CTスキャン画像観察	①三次元的に他の構造を切っている ②三次元的に直線性・連続性が相対的に高い
薄片観察	①直線性・連続性が相対的に高い ②周囲より細粒化が進んだ破砕部



断層の走向傾斜

- ⑦ fN1° E76° W
⑧ fN9° E74° W
⑦～⑧ H-7 破砕帯

・断層ガウジ 幅 0.1～1.0 cm 程度
(暗褐色粘土からなる)
・カクレーサイト 幅 10～15 cm 程度

断層の走向傾斜

- ① jN7° E73° W
② fN16° E63° W
③ fN22° E65° W
④ fN20° E63° W
②～④ D-1 破砕帯

・断層ガウジ 幅 0.5～3 cm 程度
断層ガウジには面構造が発達している。
(暗褐色粘土 幅 0.2～1.0 cm,
礫混じり粘土 幅 0～3 cm)
・カクレーサイト 幅 5～20 cm 程度
・高角度(L75°)の条線が観察される

- ⑤ jN3° E74° W
⑥ jN48° W69° W
j: 節理面

f: せん断面
※走向は偏角未補正である。

A: D-1 破砕帯カクレーサイト: 黒褐色～浅黄橙色 (10YR3/1 ～ 10YR8/3)。

礫混じりシルト質砂状でやや固結している。
厚さ 2 ～ 3mm の暗褐色 (7.5Y3/3) を呈すガウジを含む。

B: H-7 破砕帯カクレーサイト: 黒褐色～灰白色 (2.5Y3/1 ～ 2.5Y8/1)。

礫混じり砂質シルト粘土状でやや軟質である。
厚さ 3 ～ 20mm の黒褐色 (7.5Y3/1) を呈すガウジを含む。

C: アプライト: 灰白色～浅黄橙色 (2.5Y7/1 ～ 10YR8/3)。

やや軟質で変質を受けているが西側ほど新鮮で硬質である。

D: アプライト: 灰白色～浅黄橙色 (2.5Y7/1 ～ 7.5YR8/3)。

弱風化を受けた細角礫主体であり、細かい割れ目が発達する。

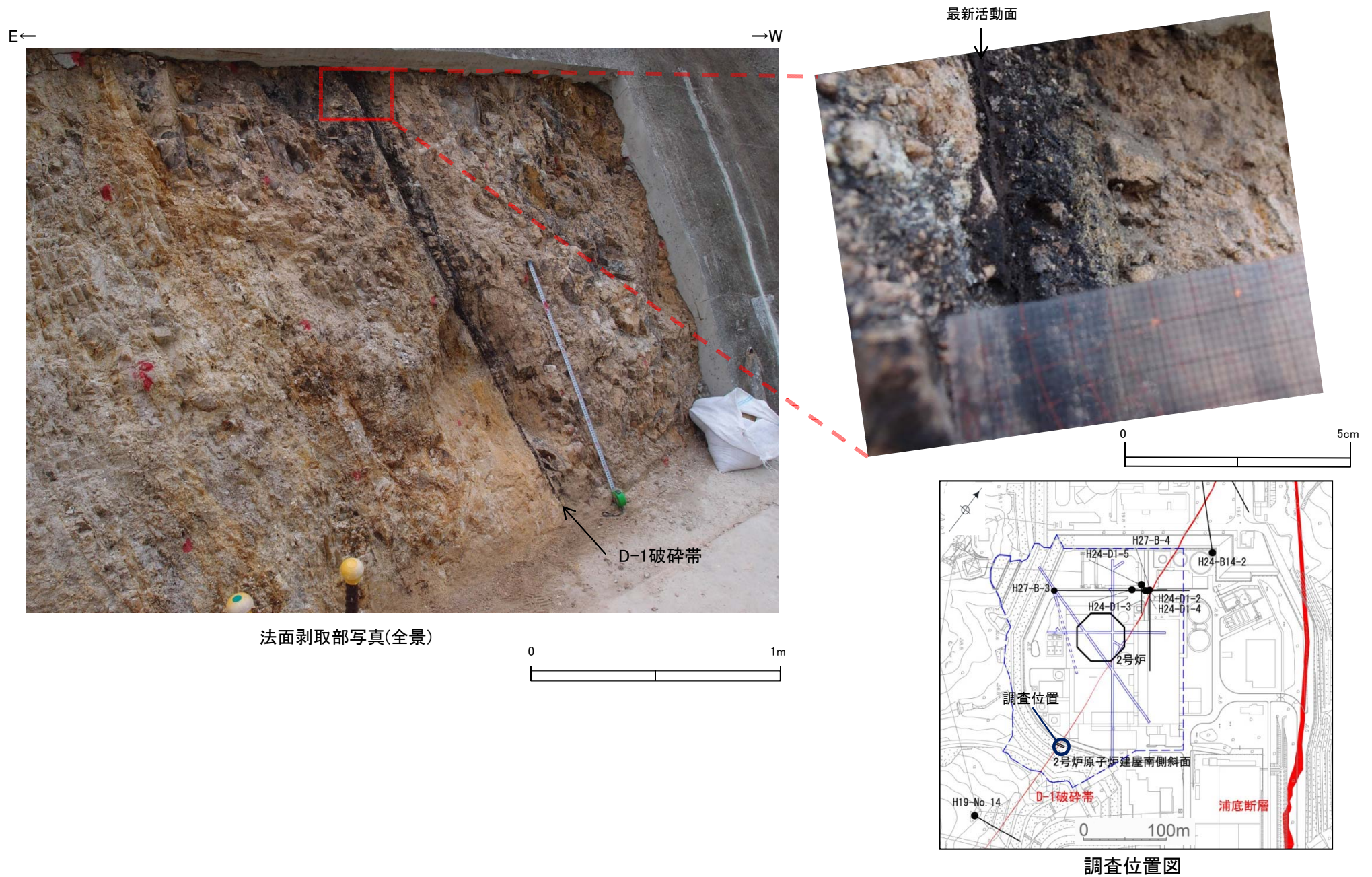
0 100cm

□ 薄片用、SEM 用試料採取位置

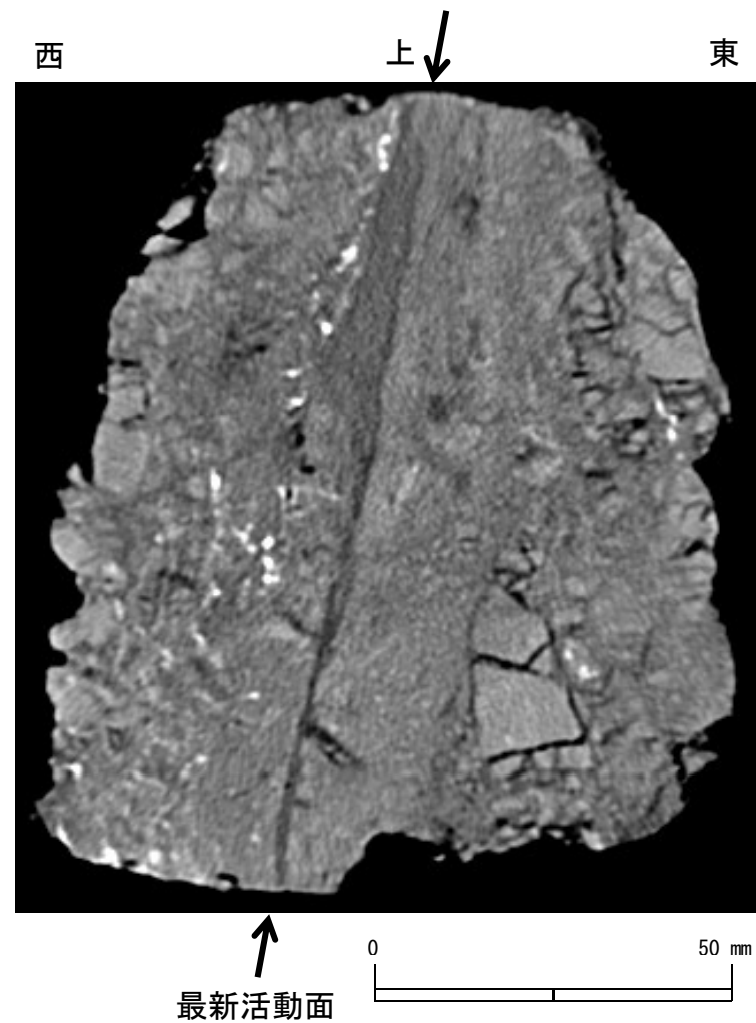
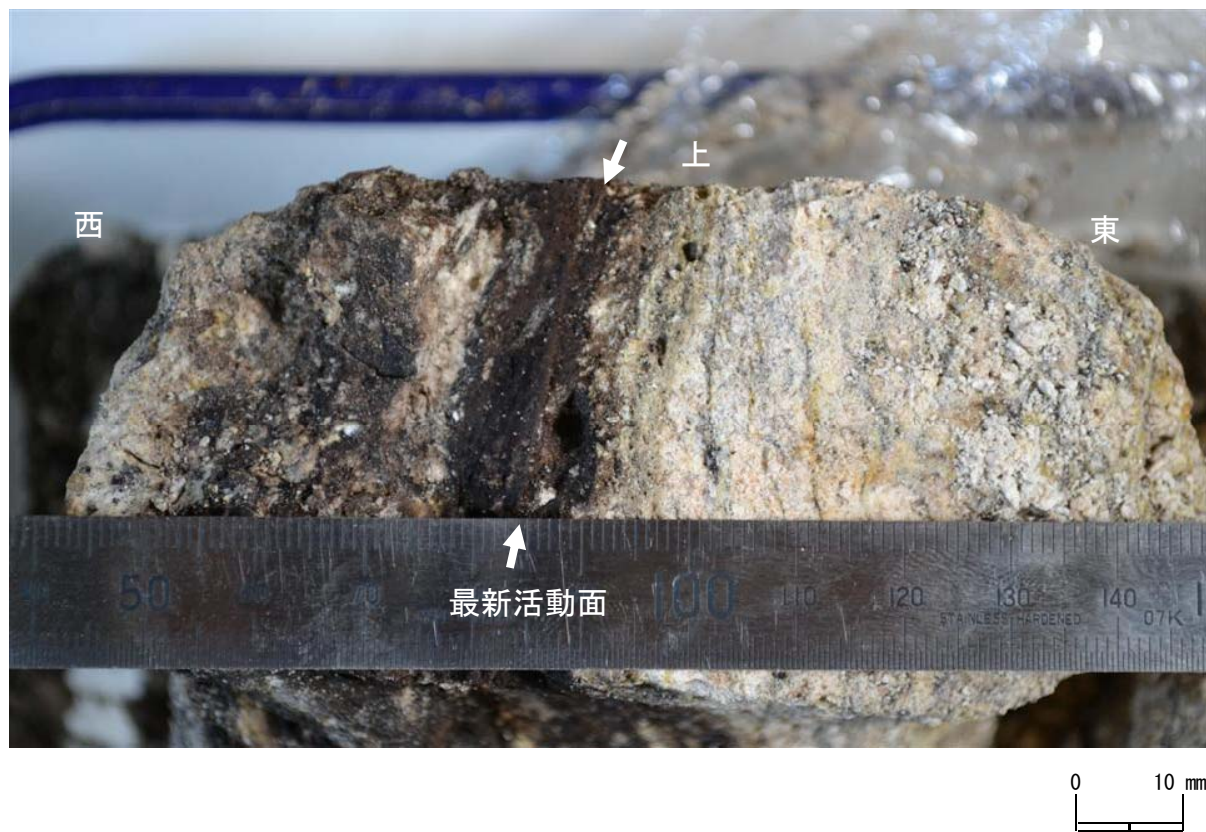
凡例

- アプライト
□ アプライト(変質部)
□ カクレーサイト

第7.4.4.16図 (1) D-1 破砕帯 剥ぎ取り調査結果 (2号炉原子炉建屋南側斜面) (その1)



第7.4.4.16図 (2) D-1 破碎帯 剥ぎ取り調査結果 (2号炉原子炉建屋南側斜面) (その2)



第7.4.4.17図 D-1 破碎帯 ブロックサンプル及びC T画像 (2号炉原子炉建屋南側斜面)

E←

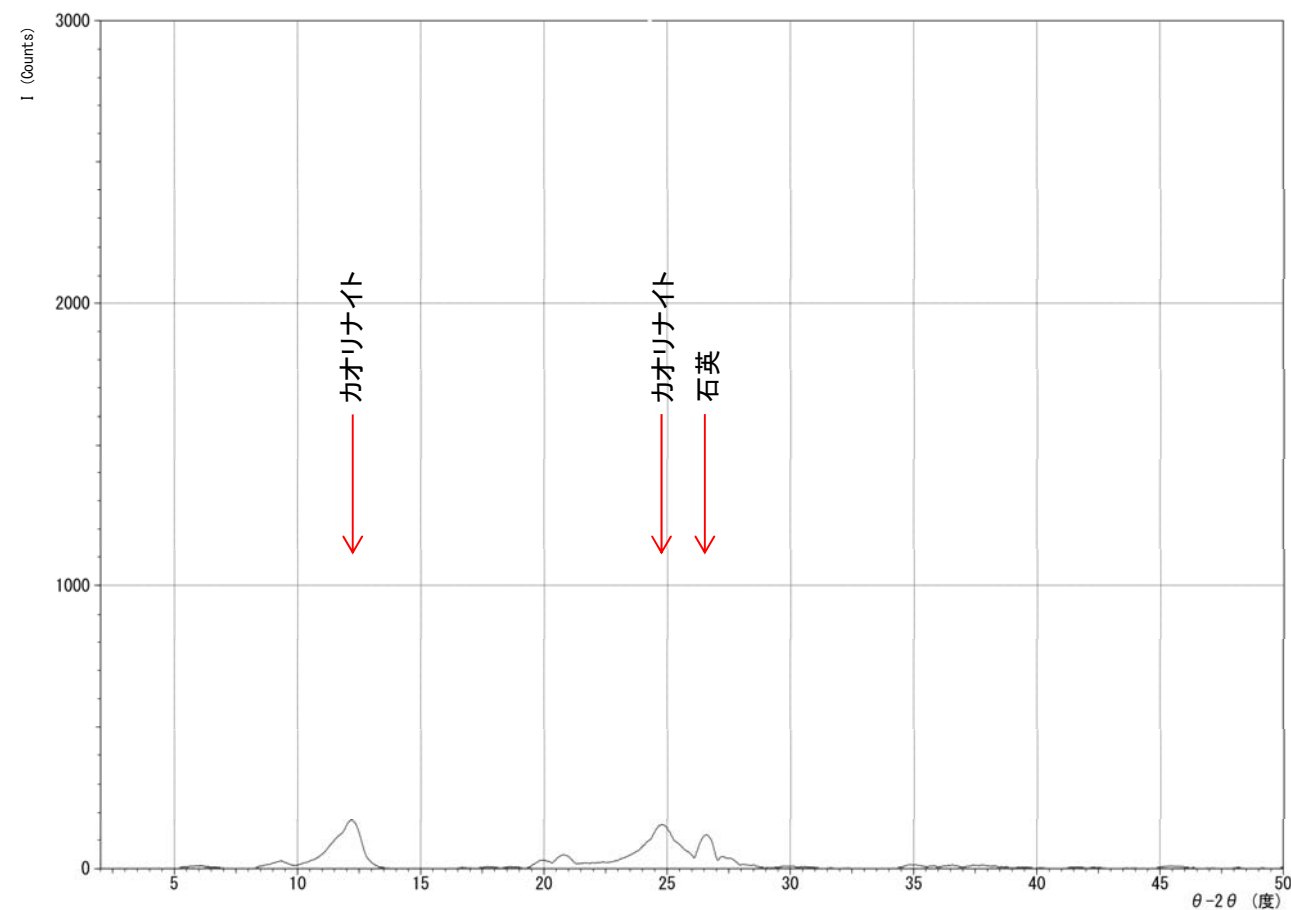
→W



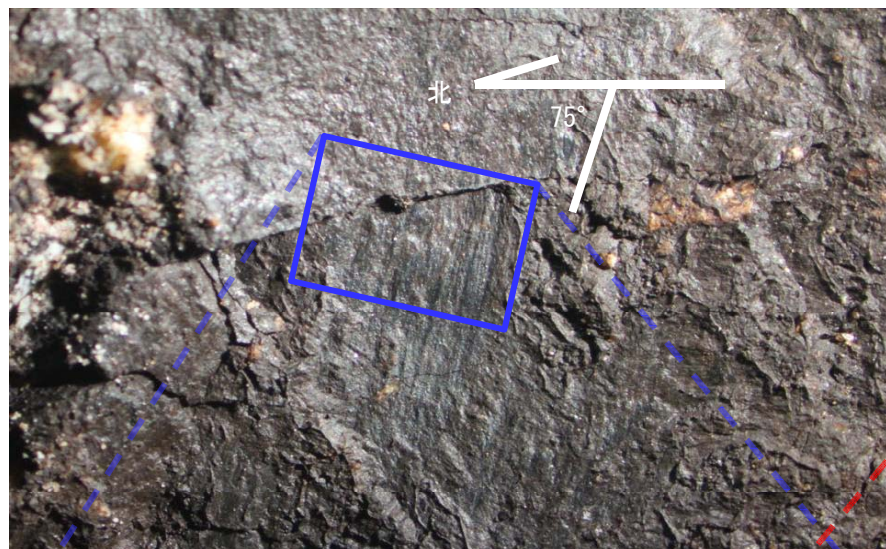
凡 例



試料採取位置



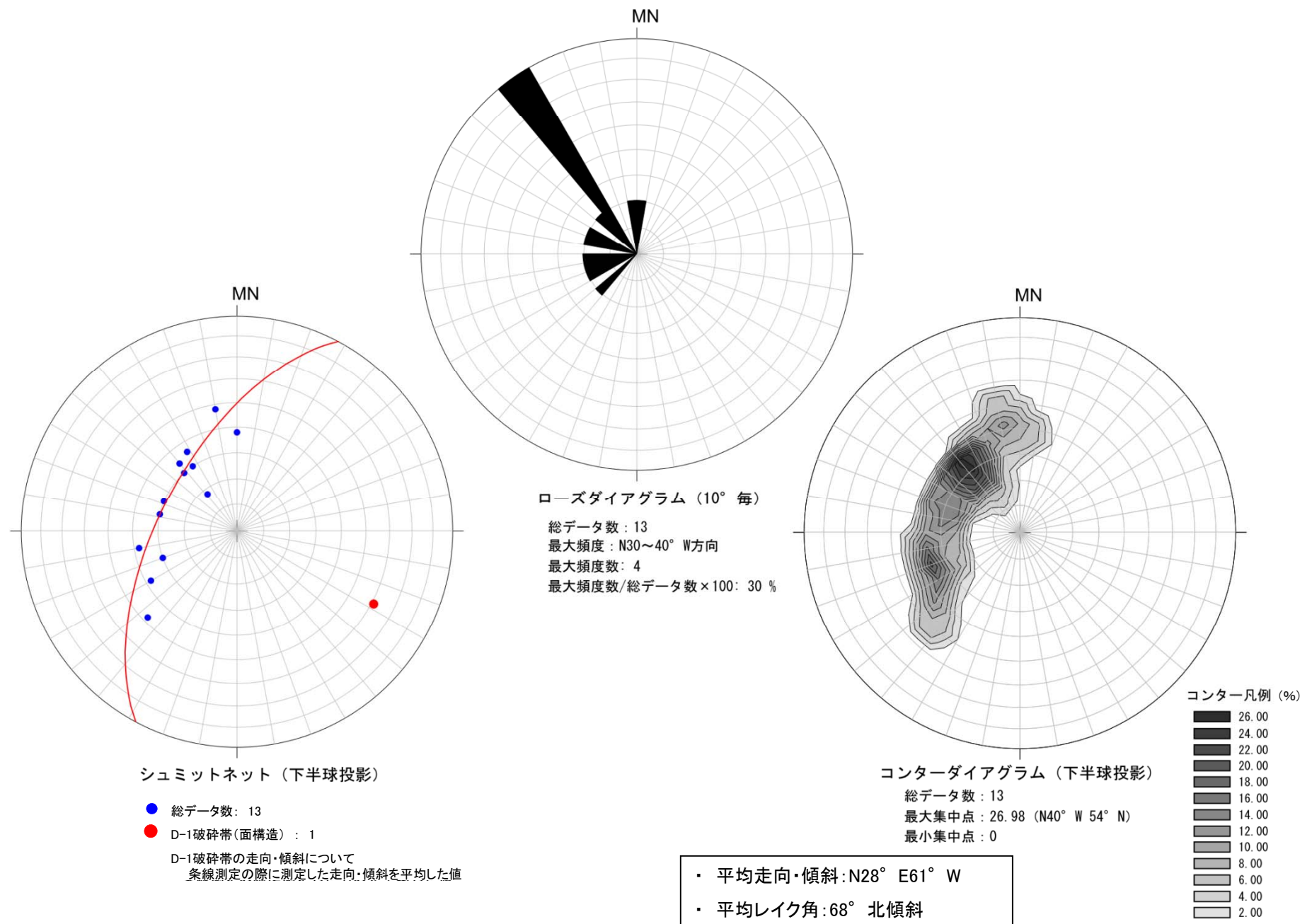
第7.4.4.18図 D-1 破碎帯 X線回折分析結果 (2号炉原子炉建屋南側斜面)



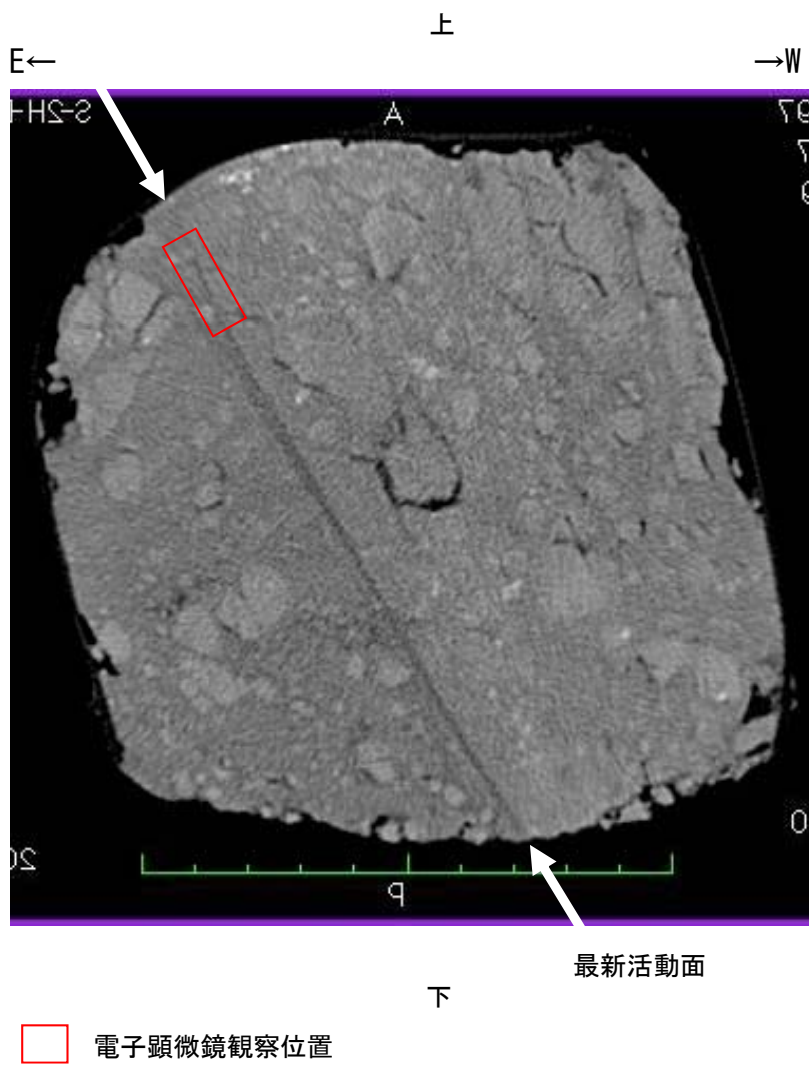
下盤側の最新活動面。高角度 (L75°) の条線が観察される。



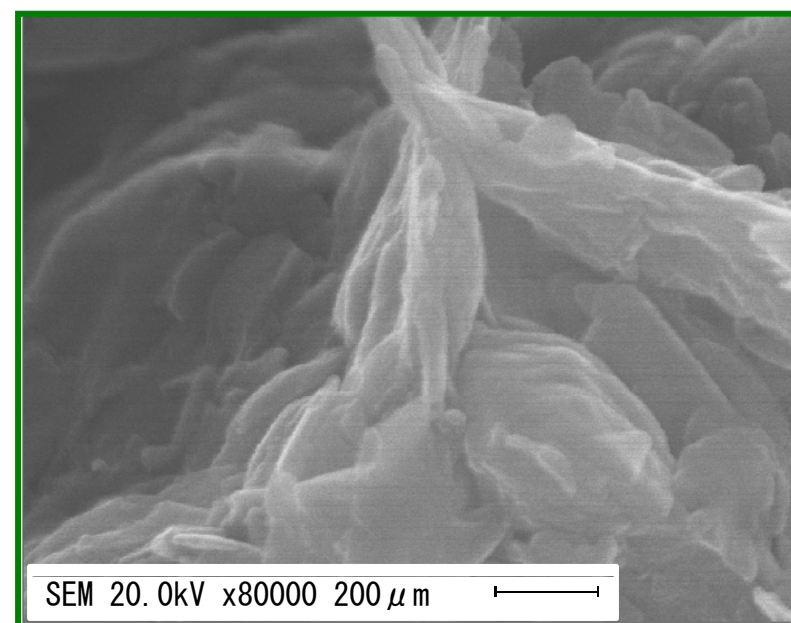
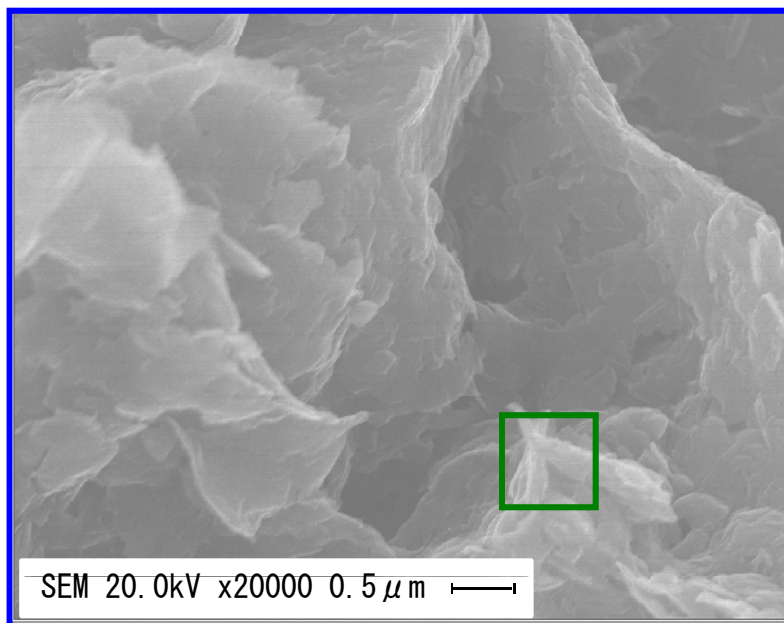
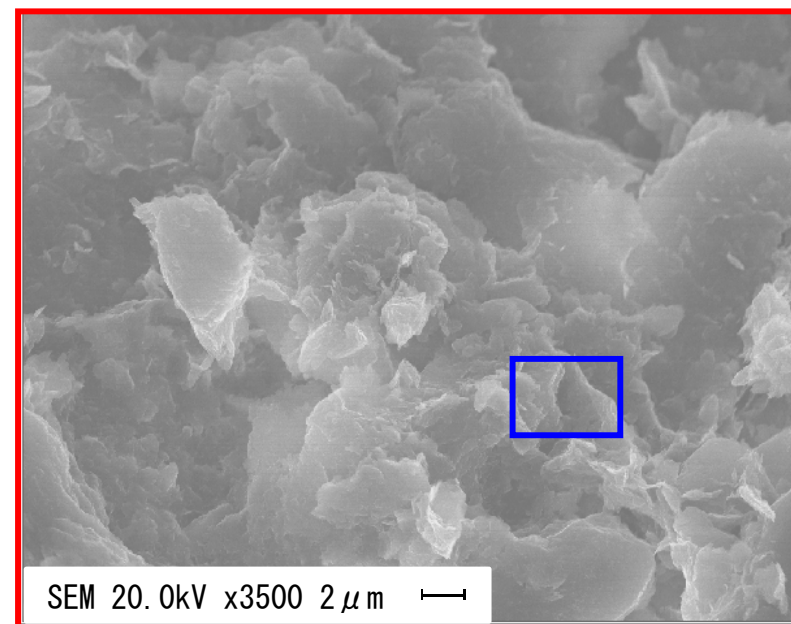
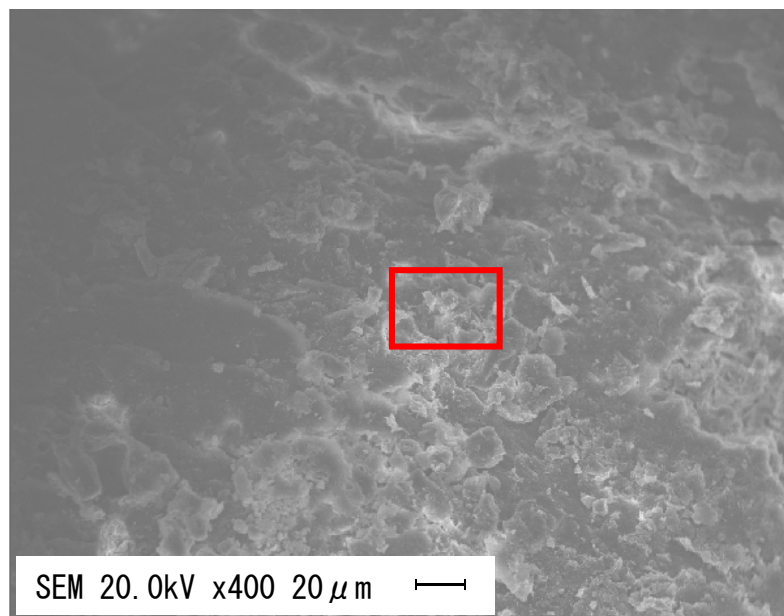
第7.4.4.19図 (1) D-1 破碎帯 条線観察結果 (2号炉原子炉建屋南側斜面) (その1)



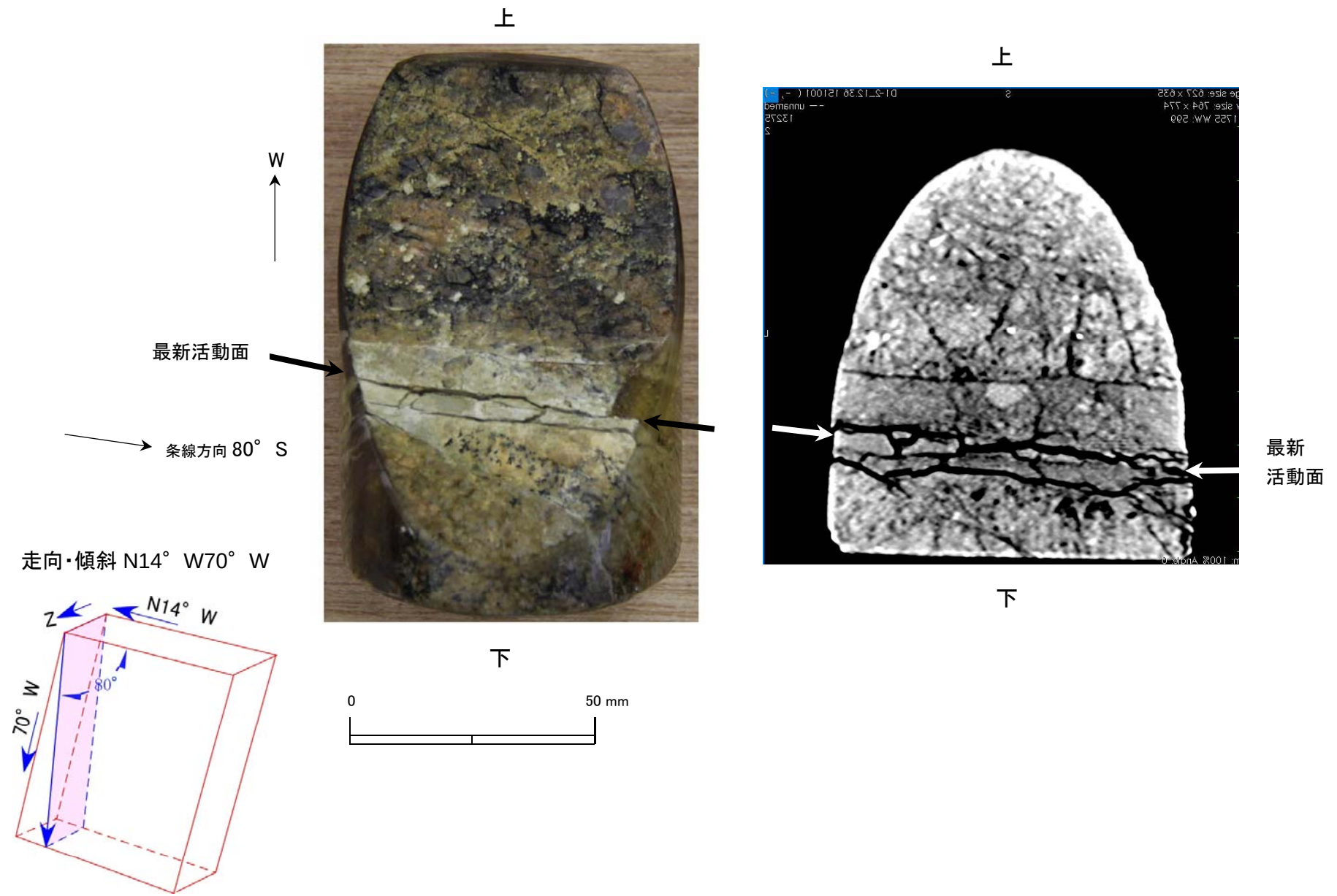
第7.4.4.19図 (2) D-1 破砕帯 条線観察結果 (2号炉原子炉建屋南側斜面) (その2)



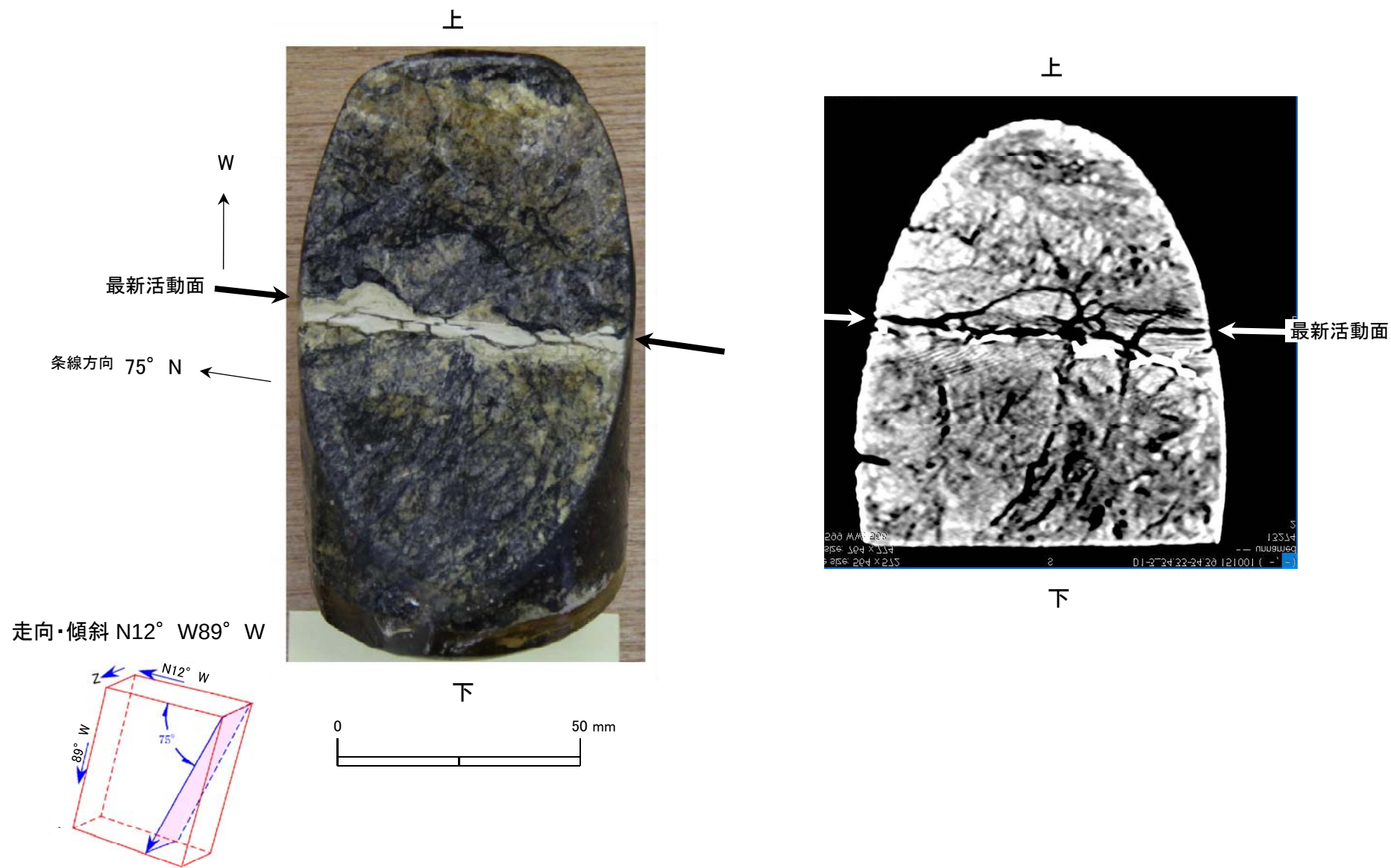
第7.4.4.21図 (1) D-1 破碎帯 電子顕微鏡観察結果 (2号炉原子炉建屋南側斜面) (その1)



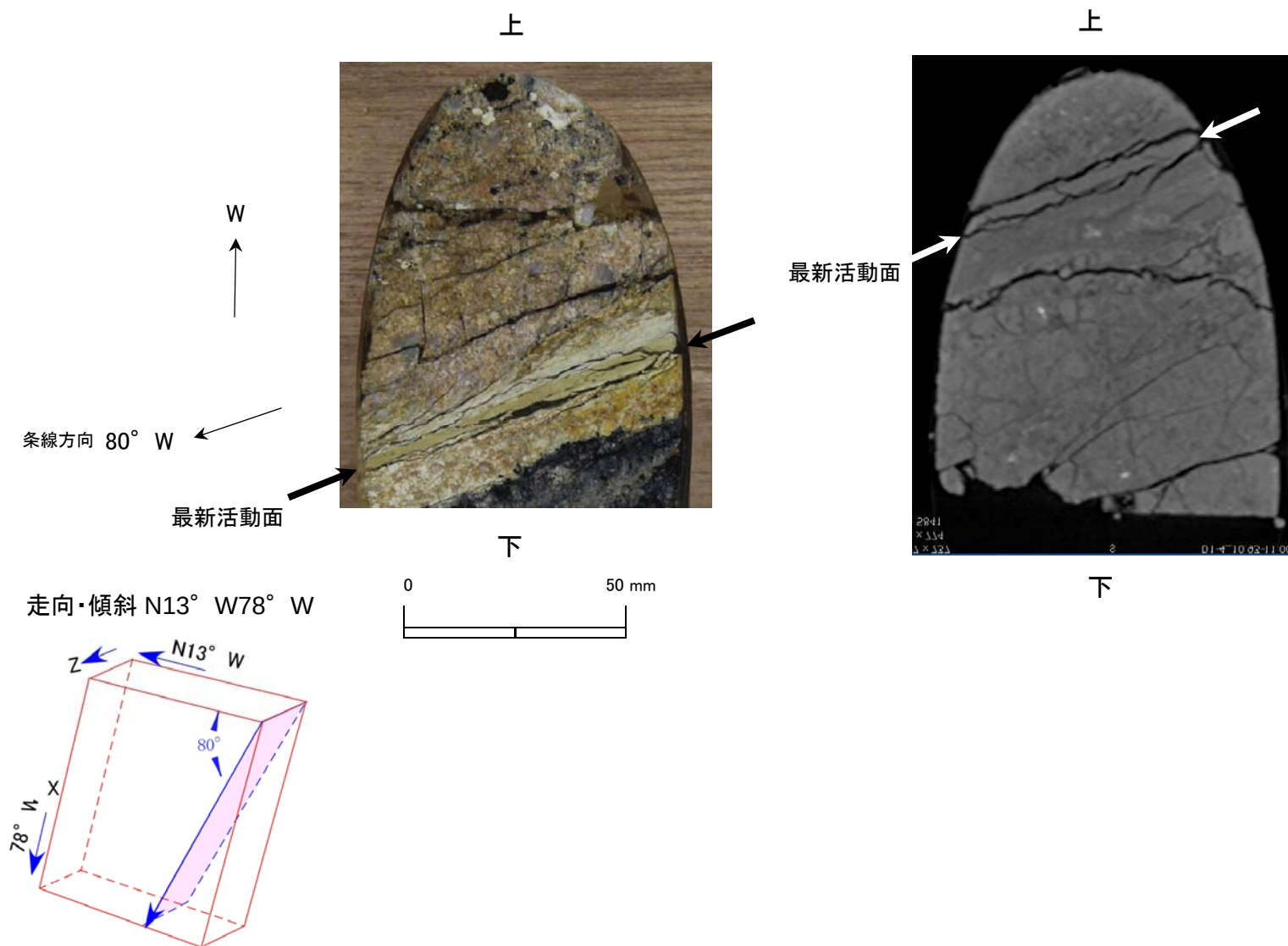
第7.4.4.21図(2) D-1 破碎帯 電子顕微鏡観察結果(2号炉原子炉建屋南側斜面)(その2)



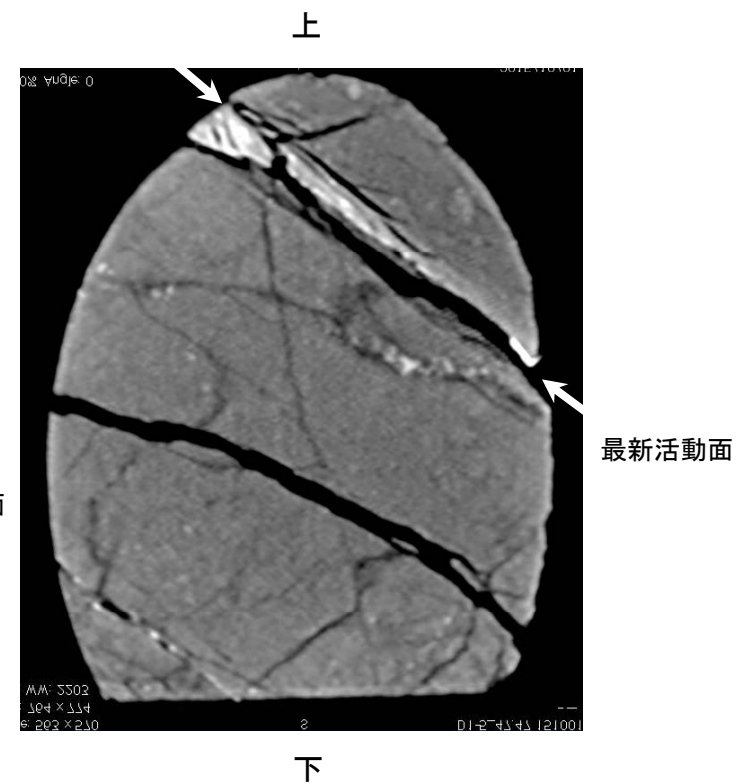
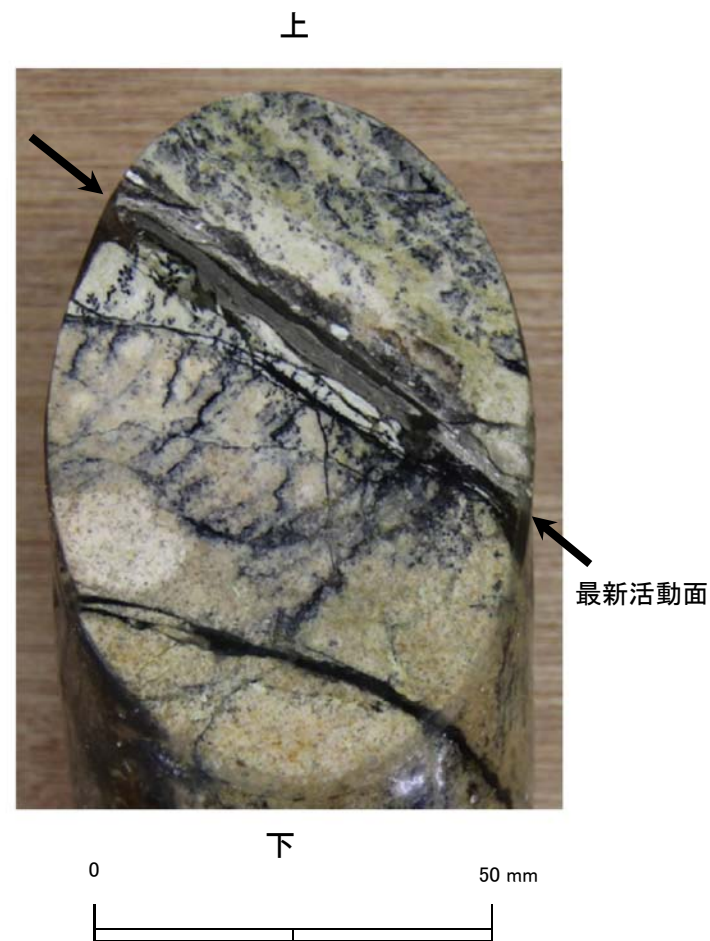
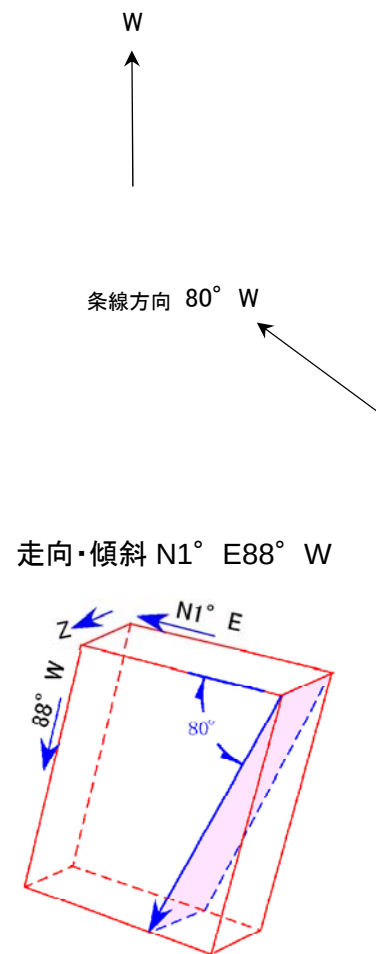
第7. 4. 4. 22図 (1) D-1 破碎帯 研磨片試料及びC T画像 (2号炉原子炉建屋付近) (H24-D1-2孔)



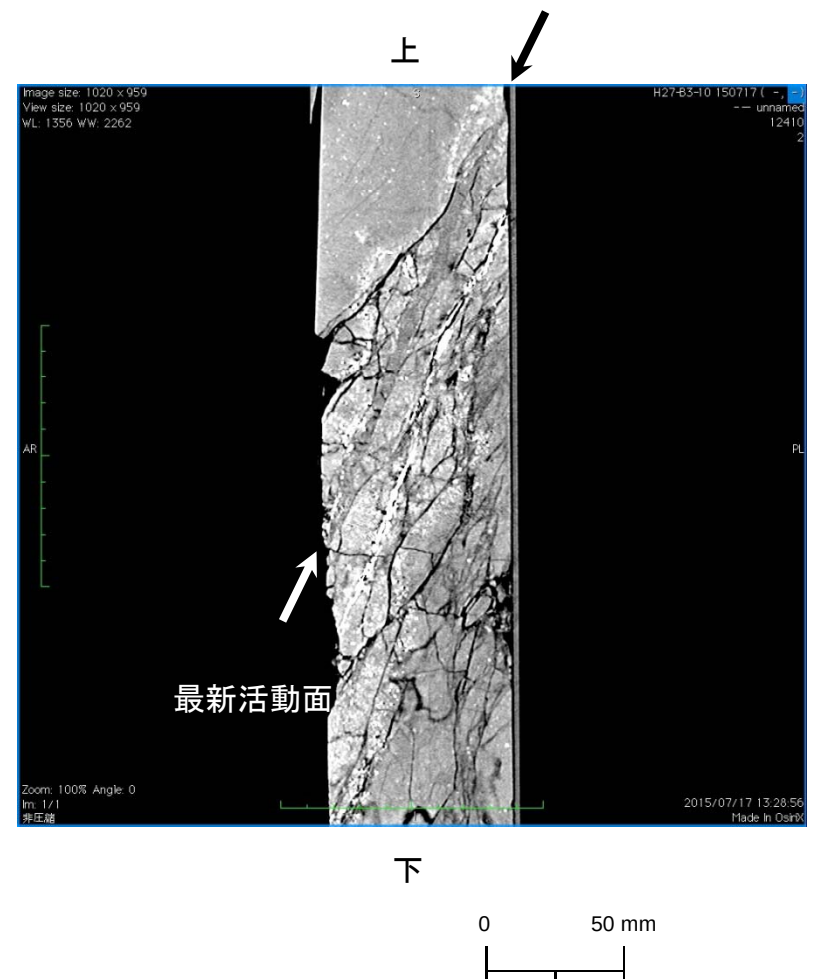
第7.4.4.22図 (2) D-1 破碎帯 研磨片試料及びCT画像 (2号炉原子炉建屋付近) (H24-D1-3孔)



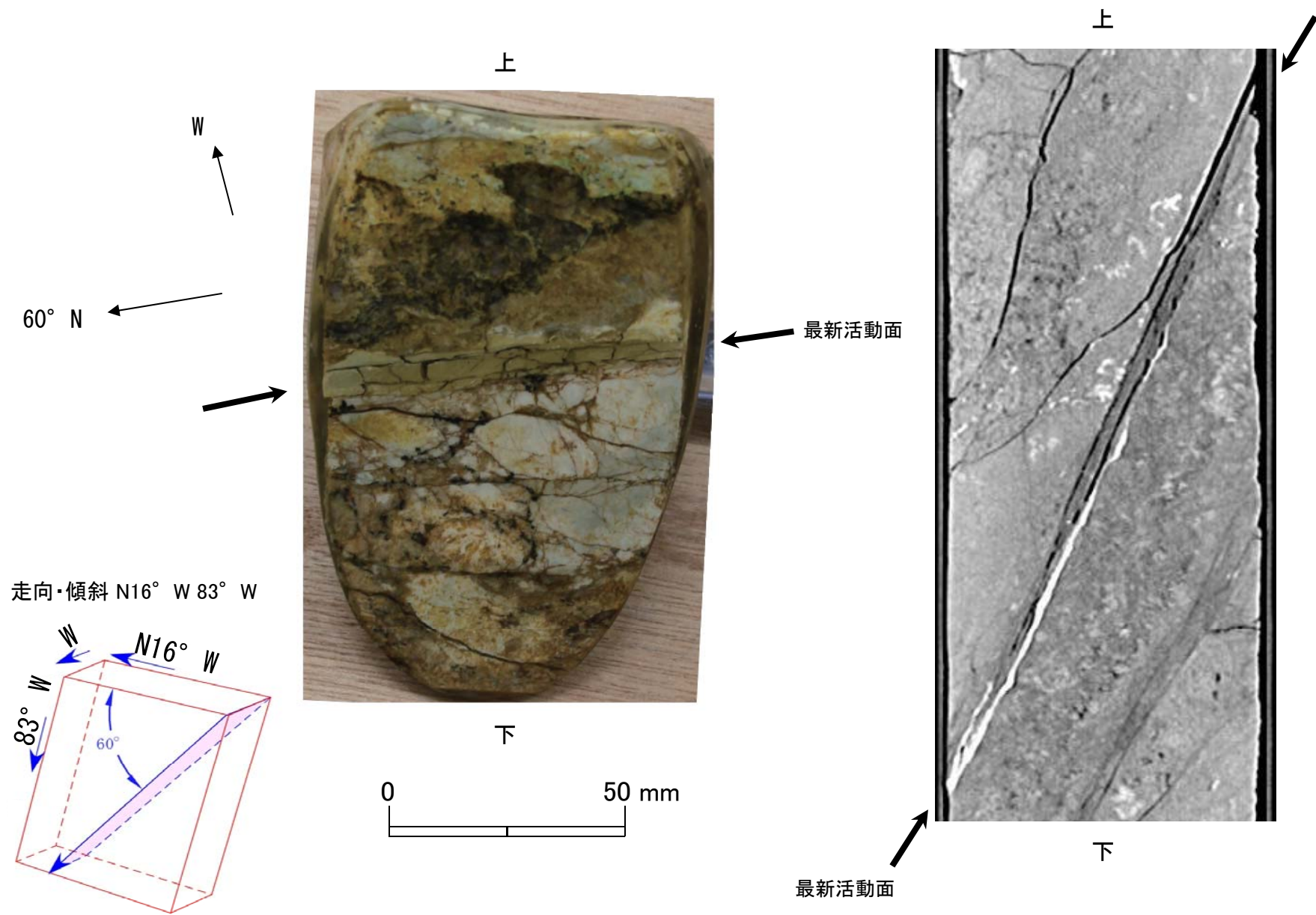
第7.4.4.22図 (3) D-1 破碎帯 研磨片試料及びCT画像 (2号炉原子炉建屋付近) (H24-D1-4孔)



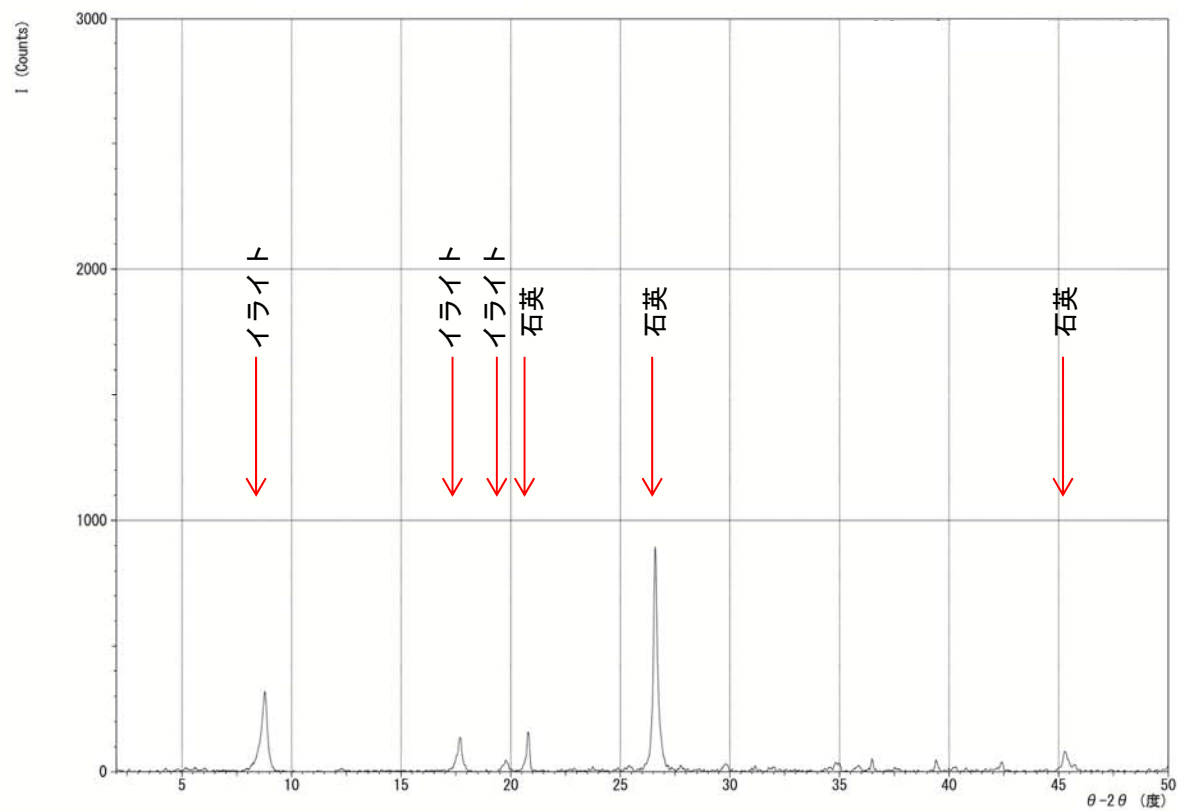
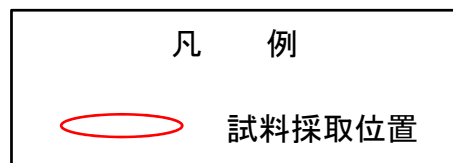
第7. 4. 4. 22図 (4) D-1 破碎帯 研磨片試料及びC T画像 (2号炉原子炉建屋付近) (H24-D1-5孔)



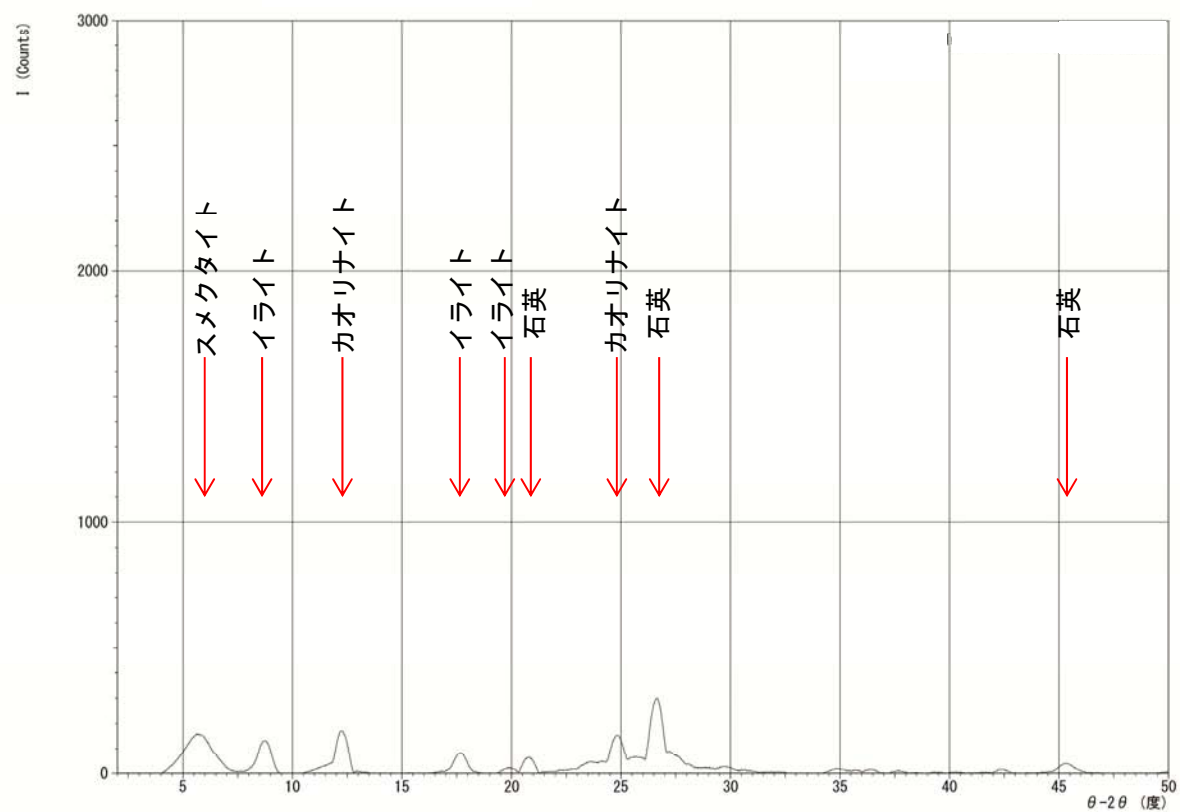
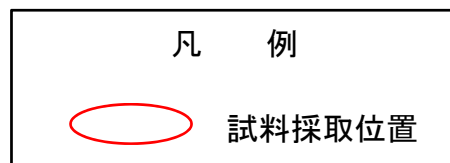
第7. 4. 4. 22図 (5) D-1 破碎帯 研磨片試料及びC T画像 (2号炉原子炉建屋付近) (H27-B-3孔)
6-7-4-740



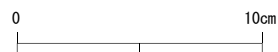
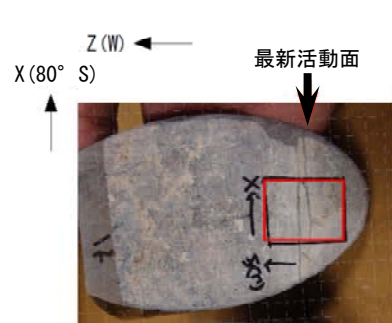
第7. 4. 4. 22図 (6) D-1 破碎帯 研磨片試料及びC T画像 (2号炉原子炉建屋付近) (H27-B-4孔)



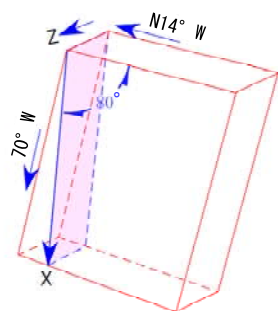
第7.4.4.23図 (1) D-1 破碎帯 X線回折分析結果 (2号炉原子炉建屋付近) (H27-B-3孔)



第7.4.4.23図 (2) D-1 破碎帯 X線回折分析結果 (2号炉原子炉建屋付近) (H27-B-4孔)



走向・傾斜 N14° W70° W



- ・断層ガウジ（最新活動面）
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.1mm～2mmの垂円～垂角礫状の石英、長石。カタクレーサイトのフラグメントからなる。基質には粘土鉱物を多く含む。P面から正断層の変位センスが判読される。フラグメントは円磨されている。
- ・カタクレーサイト1
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.1mm～3mmの花崗斑岩、石英、長石のフラグメントからなる。基質には粘土鉱物が少ない。
- ・カタクレーサイト2
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.1mm～2mmの花崗斑岩、石英、長石のフラグメントからなる。

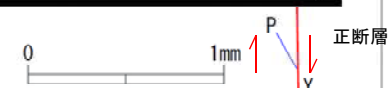
赤枠内の拡大



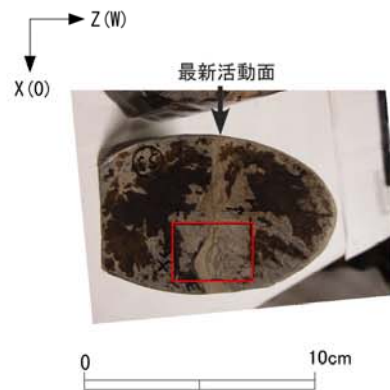
単ニコル



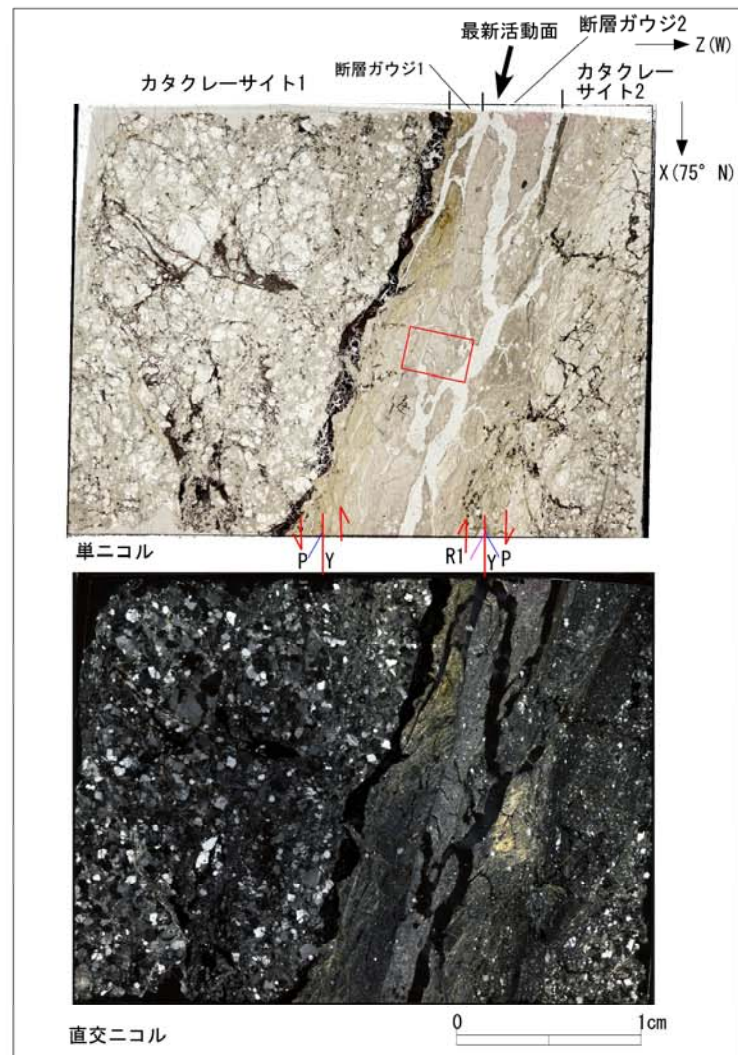
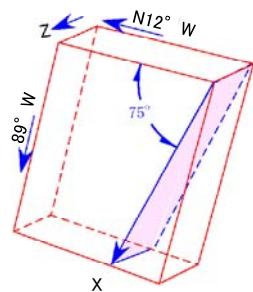
直交ニコル



第7. 4. 4. 24図 (1) D-1 破碎帯 薄片観察記録 (2号炉原子炉建屋付近) (H24-D1-2孔)



走向・傾斜N12° W89° W



赤枠内の拡大

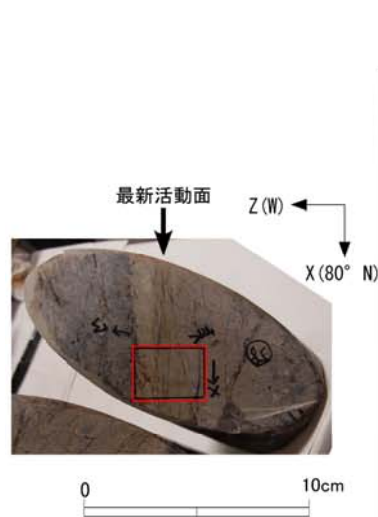


単ニコル

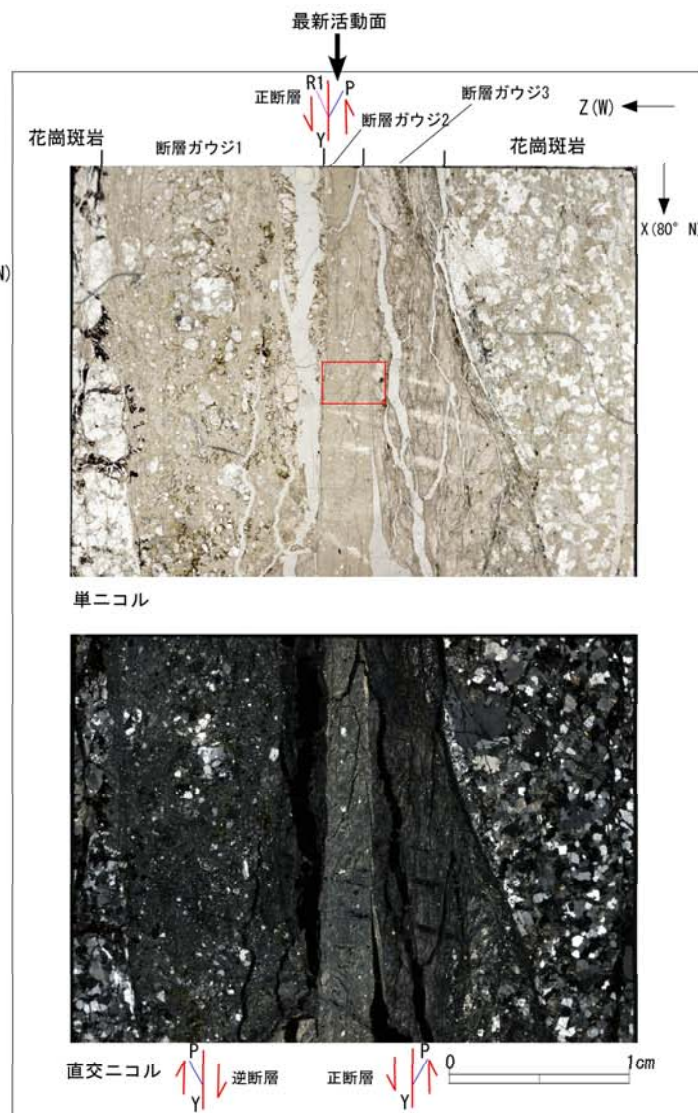
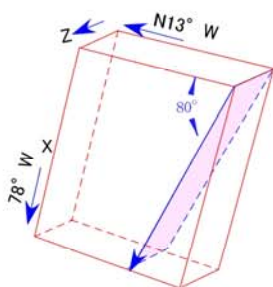


直交ニコル

- ・カタクレーサイト1
灰白色を呈し花崗岩組織を残すが径0.04mm～3mmの垂円～垂角礫状を呈する。
基質には粘土鉱物を含まない。
- ・断層ガウジ1
褐色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～0.3mmの垂円～垂角礫状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。
基質には粘土鉱物を含む。P面から逆断層の変位センスが判読される。
- ・断層ガウジ2（最新活動面）
褐色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～0.3mmの垂円～垂角礫状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。
基質には粘土鉱物を含む。フラグメントは0.3程度の円形度を示す。P面から正断層の変位センスが判読される。
- ・カタクレーサイト1
灰白色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～0.5mmの花崗斑岩、石英、長石のフラグメントからなる。
粘土鉱物は少ない。R1面及びP面から正断層の変位センスが判読される。



走向・傾斜 N13° W78° W



赤枠内の拡大

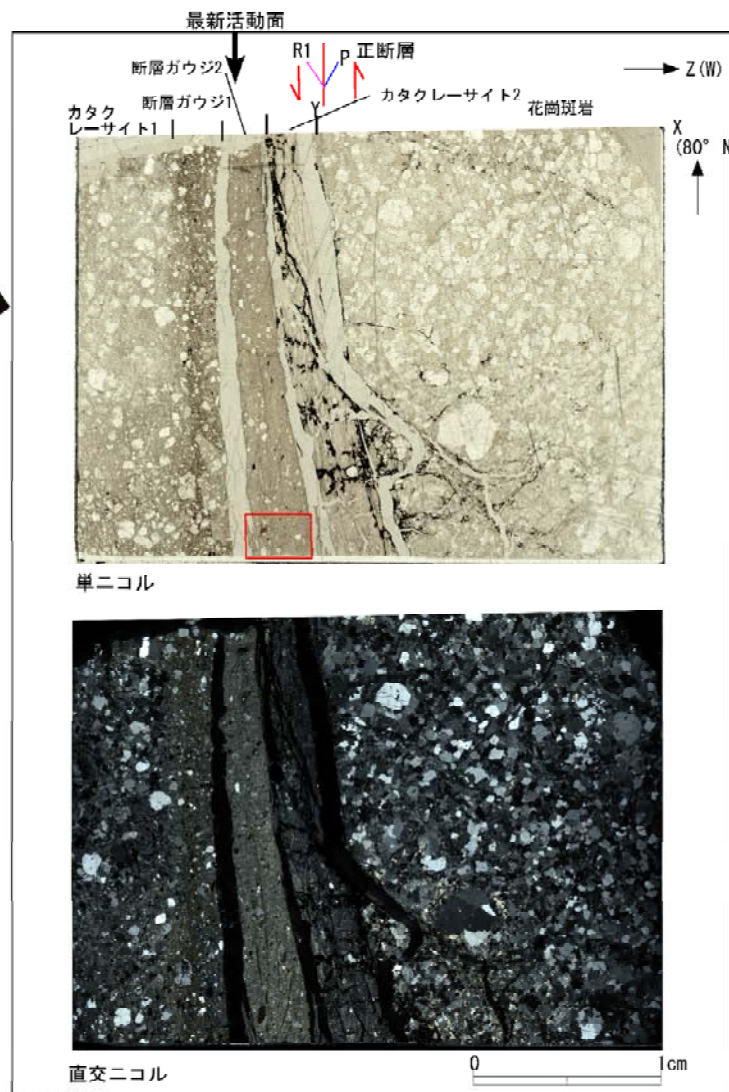
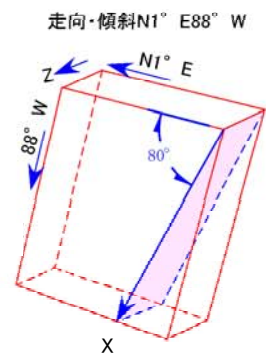
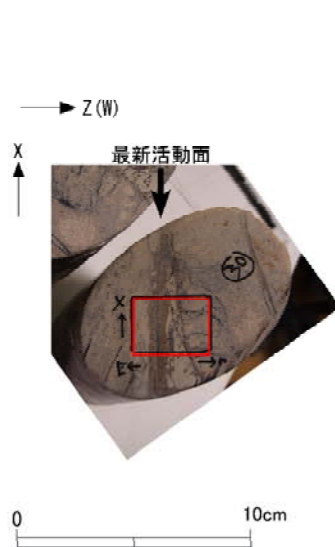


単ニコル

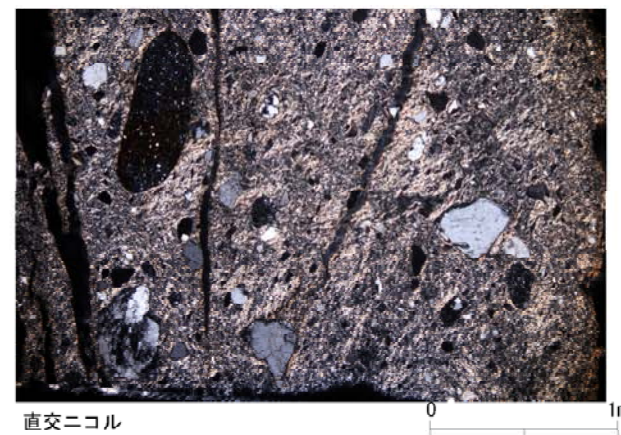
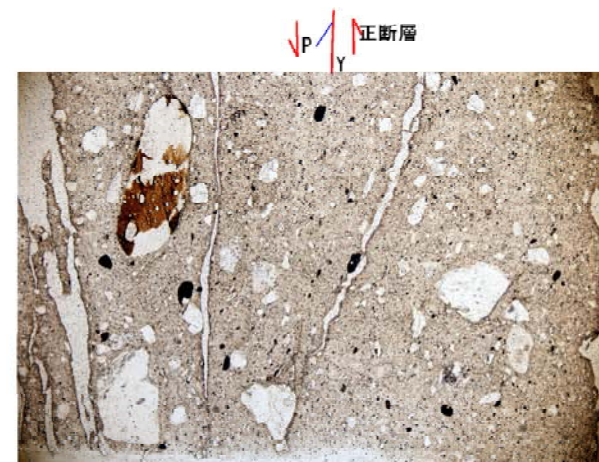


直交ニコル 正断層

- ・花崗斑岩
石英、カリ長石、斜長石からなる。破砕を受けている。
- ・断層ガウジ1
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～3mmの垂円～垂角礫状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。基質には粘土鉱物を多く含む。P面から逆断層の変位センスが判読される。フラグメントは円磨されている。
- ・断層ガウジ2(最新活動面)
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～0.3mmの垂円～垂角礫状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。基質には粘土鉱物を多く含む。P面から正断層の変位センスが判読される。フラグメントは円磨されている。
- ・断層ガウジ3
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～3mmの垂円～垂角礫状の花崗斑岩、石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。基質には粘土鉱物を多く含む。P面から正断層の変位センスが判読される。フラグメントはやや円磨されている。
- ・花崗斑岩
石英、カリ長石、斜長石からなる。亀裂が発達している。

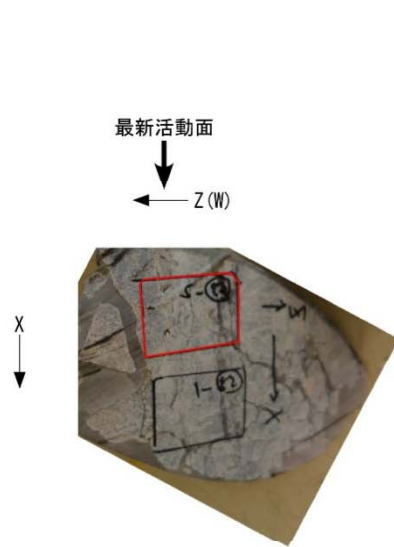


赤枠内の拡大

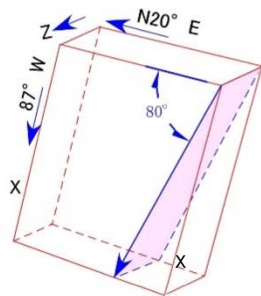


- 断層ガウジ1
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～3mmの垂円～垂円礫状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。基質には粘土鉱物を含む。フラグメントは角張っている。
- 断層ガウジ2(最新活動面)
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～2mmの垂円～垂角礫状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。基質には粘土鉱物を含む。フラグメントは約0.5と円磨されている。不明瞭であるがP面から正断層の変位センスが判読される。
- カタクレーサイト1
径0.01mm～2mmの花崗斑岩、石英、長石のフラグメントからなる。褐灰色を呈する基質には局所的に粘土鉱物が見られるが、全体に少ない。
- カタクレーサイト2
径0.01mm～2mmの花崗斑岩、石英、長石のフラグメントからなる。褐色を呈する基質には局所的に粘土鉱物が含まれるが、全体に少ない。
- 花崗斑岩
径0.1mm～2mmの石英、長石からなる。

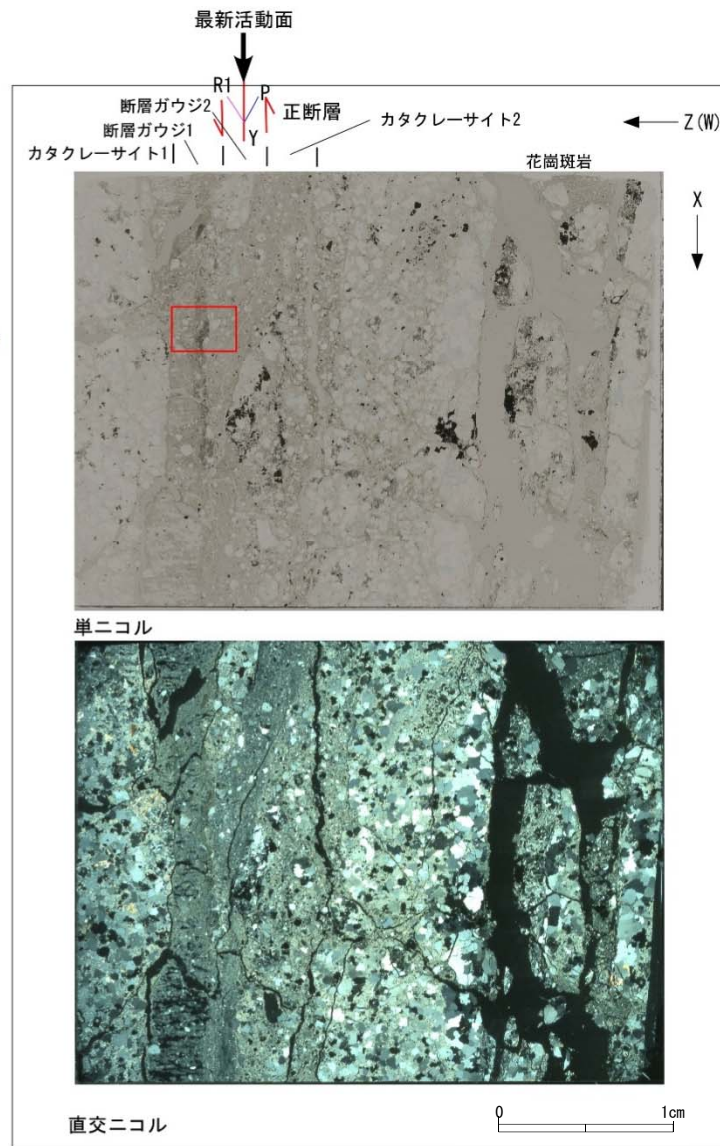
第7. 4. 4. 24図 (4) D-1 破砕帯 薄片観察記録 (2号炉原子炉建屋付近) (H24-D1-5孔)



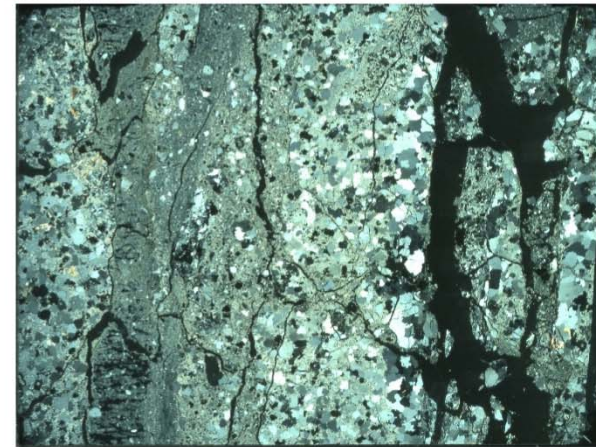
走向・傾斜N20° E87° W



0 10cm



単ニコル

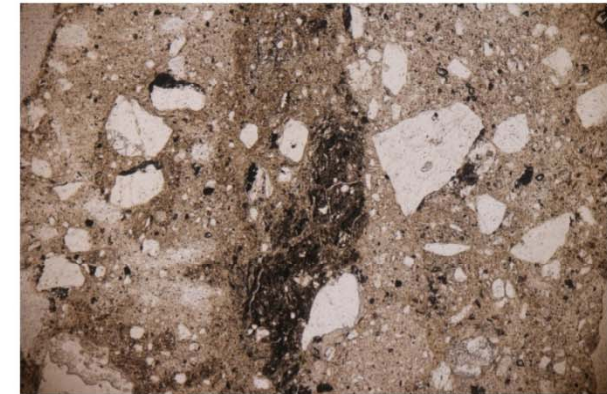


直交ニコル

0 1cm

- 断層ガウジ1
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～3mmの垂円～垂円礫状の石英、長石、カタクレサイトのフラグメントからなる。基質には粘土鉱物を含む。フラグメントは角張っている。
- 断層ガウジ2(最新活動面)
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～2mmの垂円～垂角礫状の石英、長石、カタクレサイトのフラグメントからなる。基質には粘土鉱物を含む。フラグメントは約0.5と円磨されている。不明瞭であるがP面から右ずれ正断層の変位センスが判読される。
- カタクレサイト1
径0.1mm～3mmの花崗斑岩、石英、長石のフラグメントからなる。褐灰色を呈する基質には局所的に粘土鉱物が見られるが、全体に少ない。
- カタクレサイト2
径0.01mm～2mmの花崗斑岩、石英、長石のフラグメントからなる。褐色を呈する基質には局所的に粘土鉱物が見られるが、全体に少ない。
- 花崗斑岩
径0.1mm～2mmの石英、長石からなる。

赤枠内の拡大



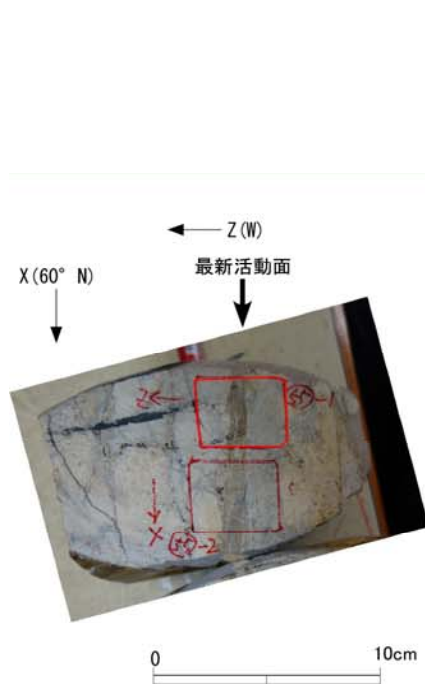
単ニコル



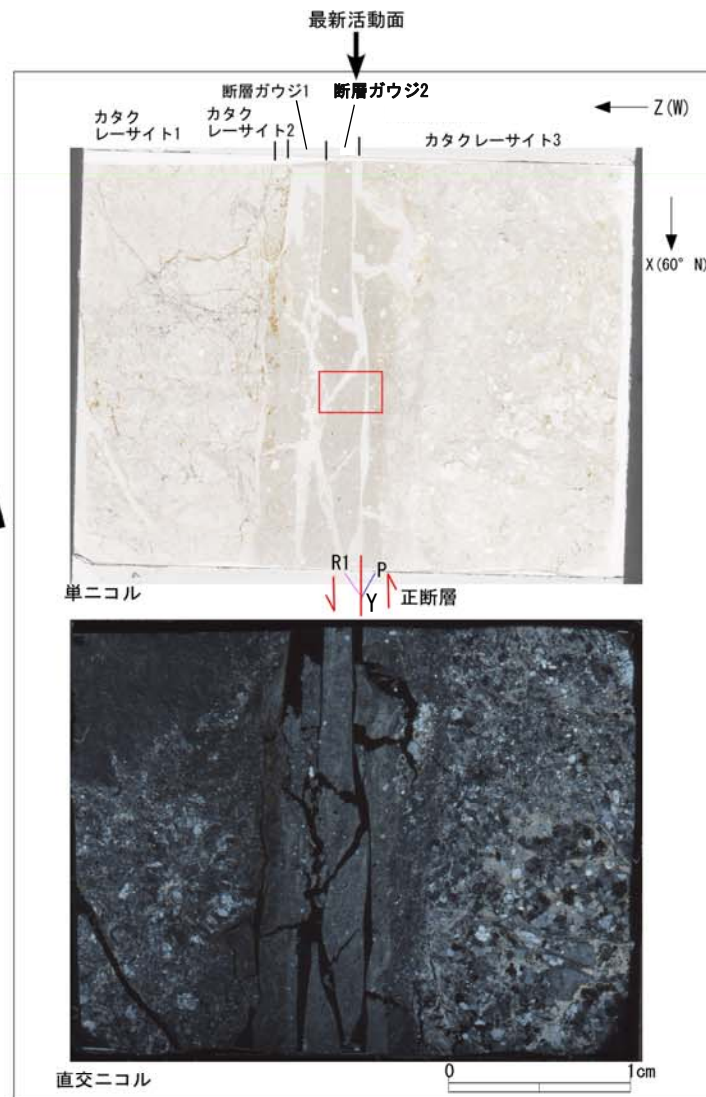
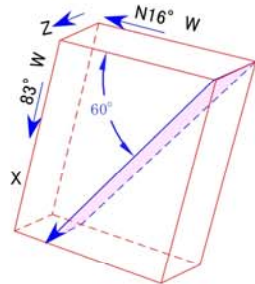
直交ニコル

0 1cm

第7.4.4.24図 (5) D-1 破碎帯 薄片観察記録 (2号炉原子炉建屋付近) (H27-B-3孔)

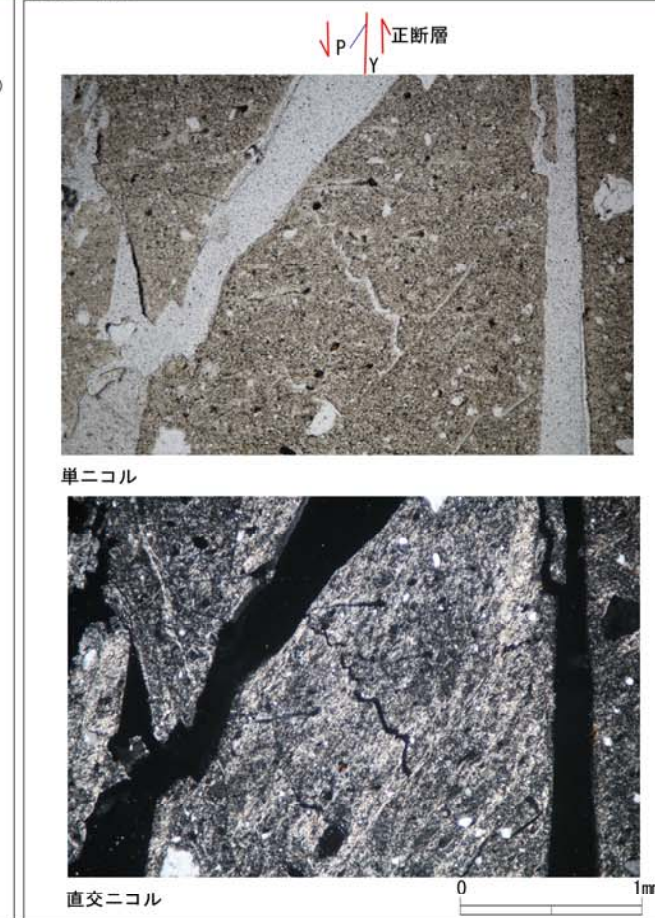


走向・傾斜 N16° W83° W

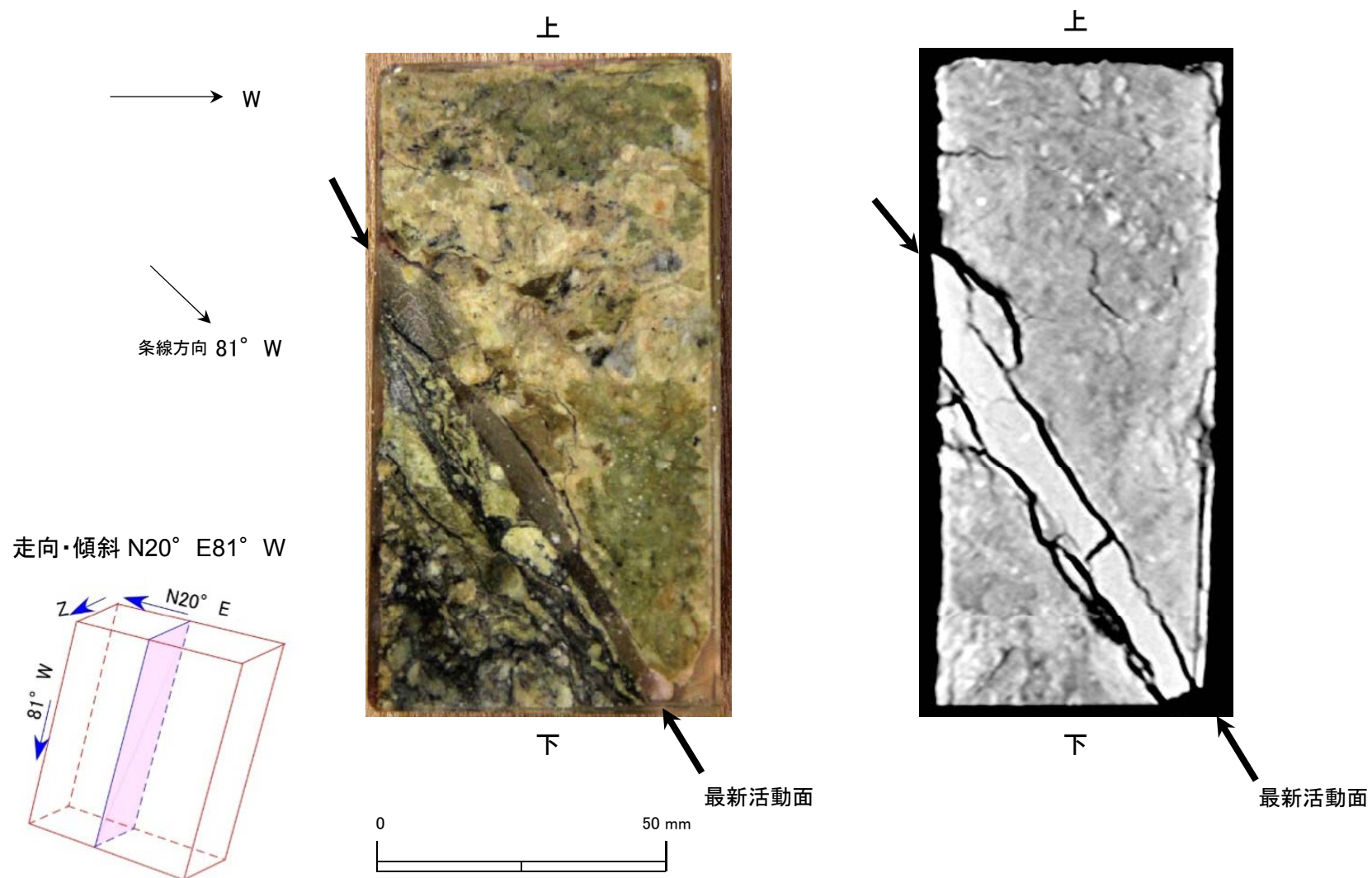


- ・カタクレーサイト1
灰白色を呈する細粒の基質及び径0.01~0.2mmの垂角礫状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。
基質に粘土鉱物は少ない。
- ・カタクレーサイト2
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01~0.05mmの垂角から垂円礫状の石英、長石のフラグメントからなる。
基質に粘土鉱物は少ない。P面およびR1面から正断層の変位センスが判読される。
- ・断層ガウジ1
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01mm~0.2mmの垂円~垂角礫状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。
基質には粘土鉱物をが多い。P面から正断層の変位センスが判読される。
- ・断層ガウジ2 (最新活動面)
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01mm~0.1mmの垂円礫状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。
基質には粘土鉱物がが多い。P面およびR1面から正断層の変位センスが判読される。
- ・カタクレーサイト3
灰白色を呈する細粒の基質及び径0.01~4mmの垂角礫状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。
基質に粘土鉱物は少ない。

赤枠内の拡大

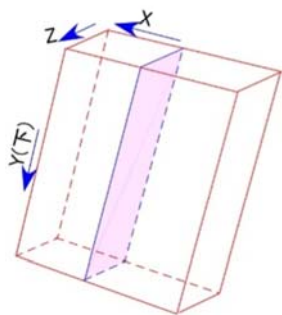


第7.4.4.24図 (6) D-1 破碎帯 薄片観察記録 (2号炉原子炉建屋付近) (H27-B-4孔)

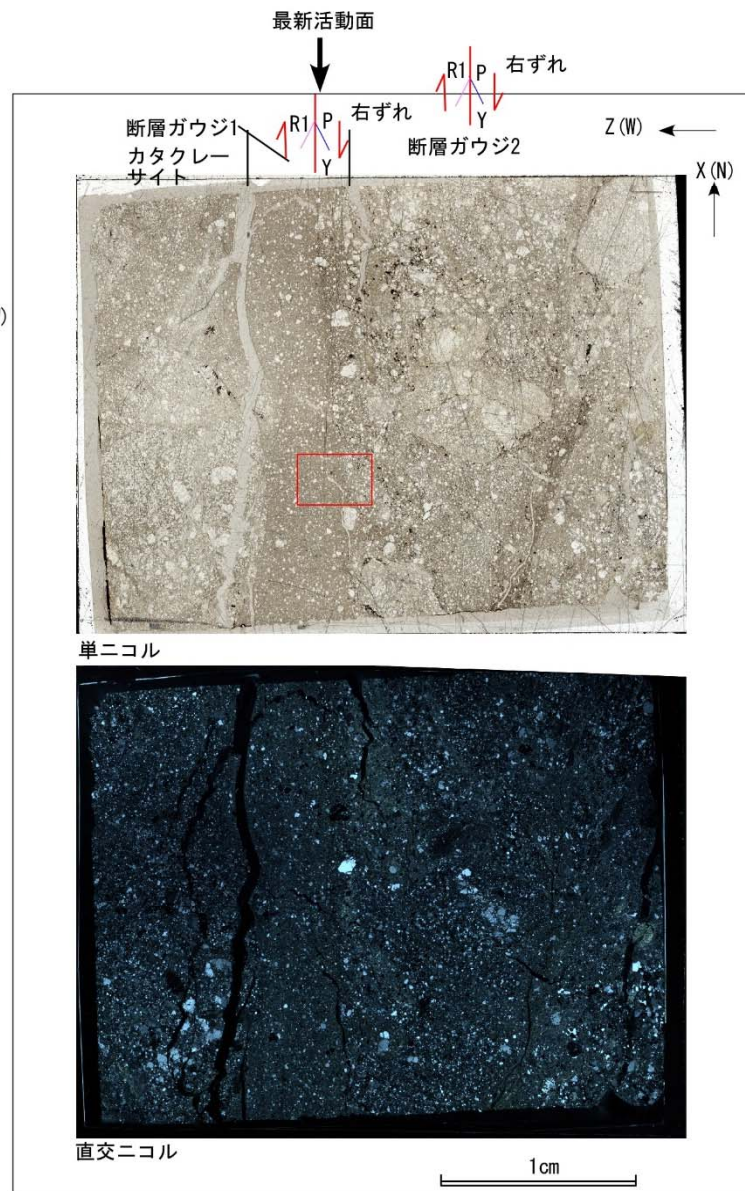
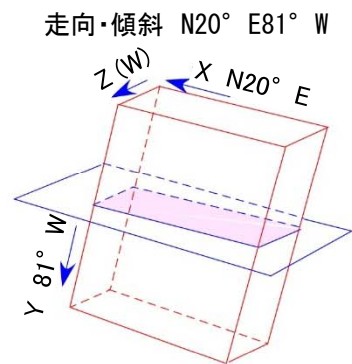
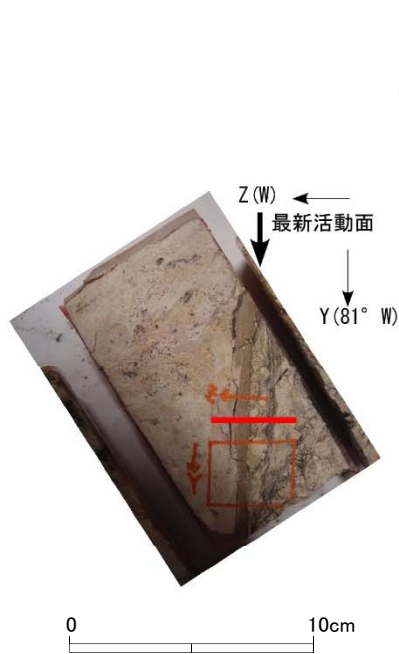


第7.4.4.25図 (1) D-1 破碎帯 研磨片試料及びC T画像 (2号炉原子炉建屋南方) (H19-No. 14孔)

走向・傾斜 NNE-SSW W傾斜
(走向・傾斜不明)

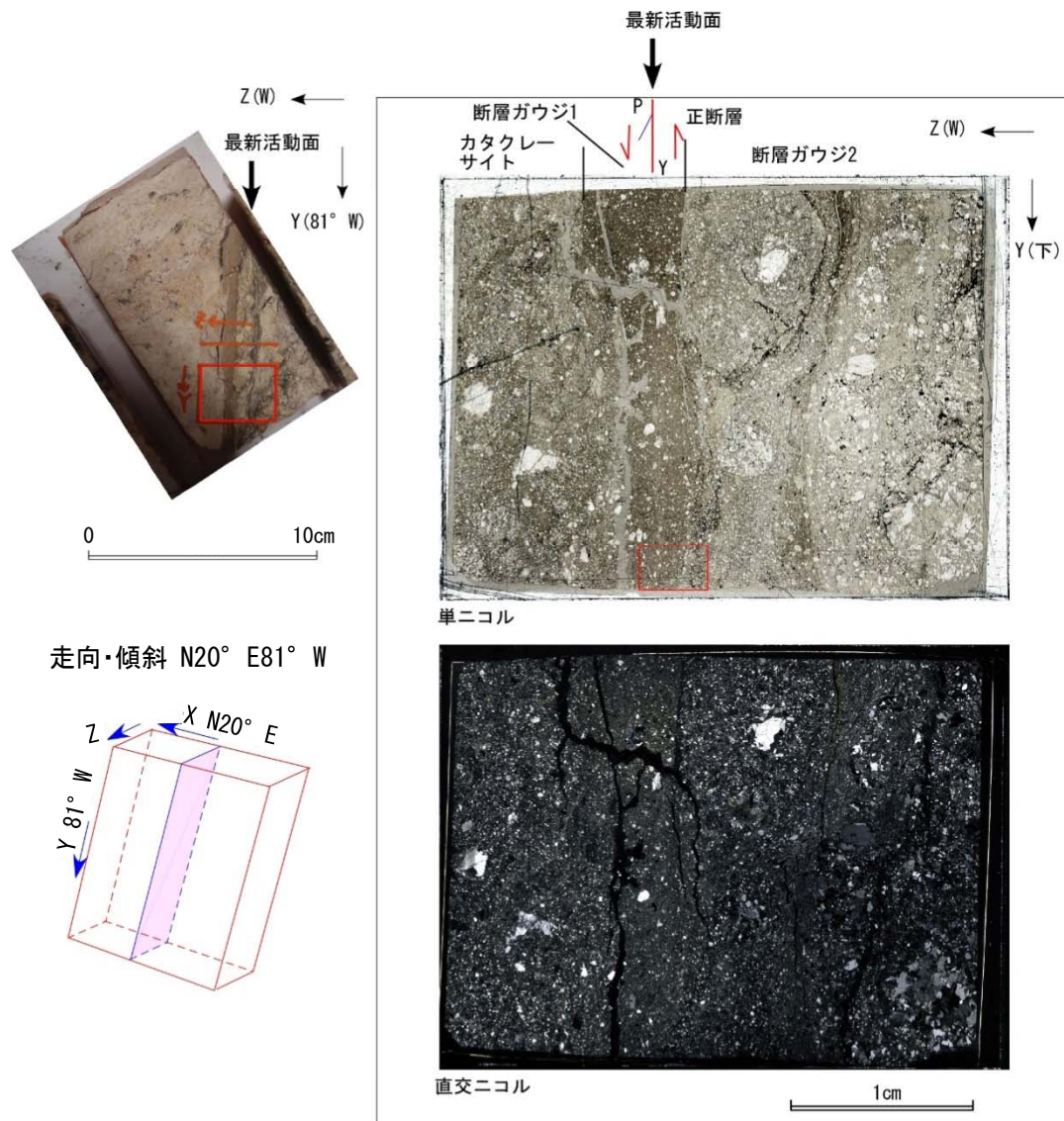


第7. 4. 4. 25図 (2) D-1 破碎帯 研磨片試料及びC T画像 (2号炉原子炉建屋南方) (H20-No. ②-1孔)



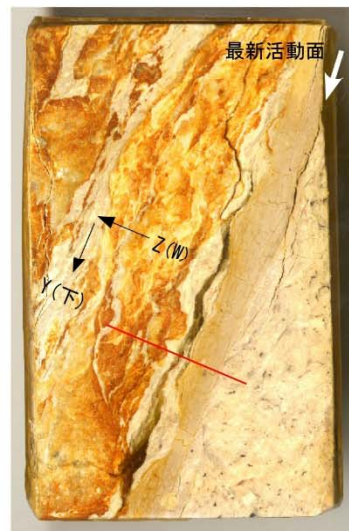
- ・カタクレーサイト
- ・褐色を呈する細粒の基質及び径0.1～8mmの垂円～垂円礫状の石英、長石、花崗斑岩、カタクレーサイトのフラグメントからなる。基質には粘土鉱物が多い。R1面及びP面から右ずれの変位センスが判読される。
- ・断層ガウジ1 (最新活動面)
- ・褐色を呈する細粒の基質及び径0.1mm～5mmの垂円～垂角礫状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。基質には粘土鉱物を多く含む。R1面及びP面から右ずれの変位センスが判読される。
- ・断層ガウジ2
- ・褐色を呈する細粒の基質及び径0.1mm～3mmの垂円～垂角礫状の石英、長石、花崗斑岩、カタクレーサイトのフラグメントからなる。基質には粘土鉱物を多く含む。R1面及びP面から右ずれの変位センスが判読される。

第7. 4. 4. 26図 (1) D-1 破碎帯 薄片試料観察結果 (2号炉原子炉建屋南方) (H19-No. 14孔) (その1)



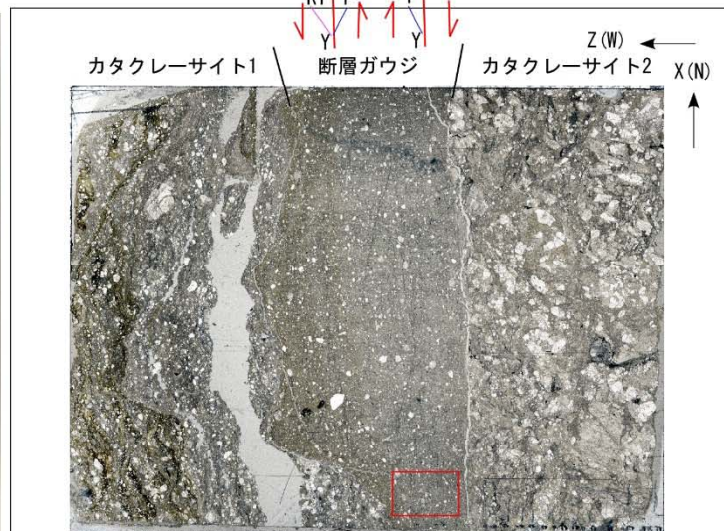
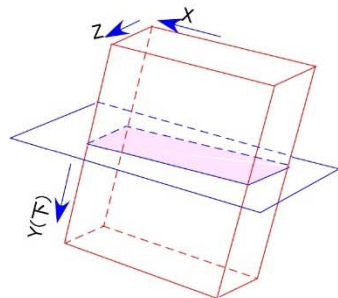
- ・カタクレーサイト
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.1~4mmの垂円~垂円礫状の石英、長石、花崗斑岩、カタクレーサイトのフラグメントからなる。
基質には粘土鉱物は少ない。P面から正断層の変位センスが判読される。
- ・断層ガウジ1 (最新活動面)
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.1mm~1mmの垂円~垂角礫状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。
基質には粘土鉱物を多く含む。P面から正断層の変位センスが判読される。
- ・断層ガウジ2
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.1mm~10mmの垂円~垂角礫状の石英、長石、花崗斑岩、カタクレーサイトのフラグメントからなる。
基質には粘土鉱物を多く含む。R1面及びP面から正断層の変位センスが判読される。

第7.4.4.26図 (2) D-1 破碎帯 薄片試料観察結果 (2号炉原子炉建屋南方) (H19-No.14孔) (その2)



0 5cm

NNE-SSW走向・W傾斜



単ニコル



直交ニコル

赤枠内の拡大



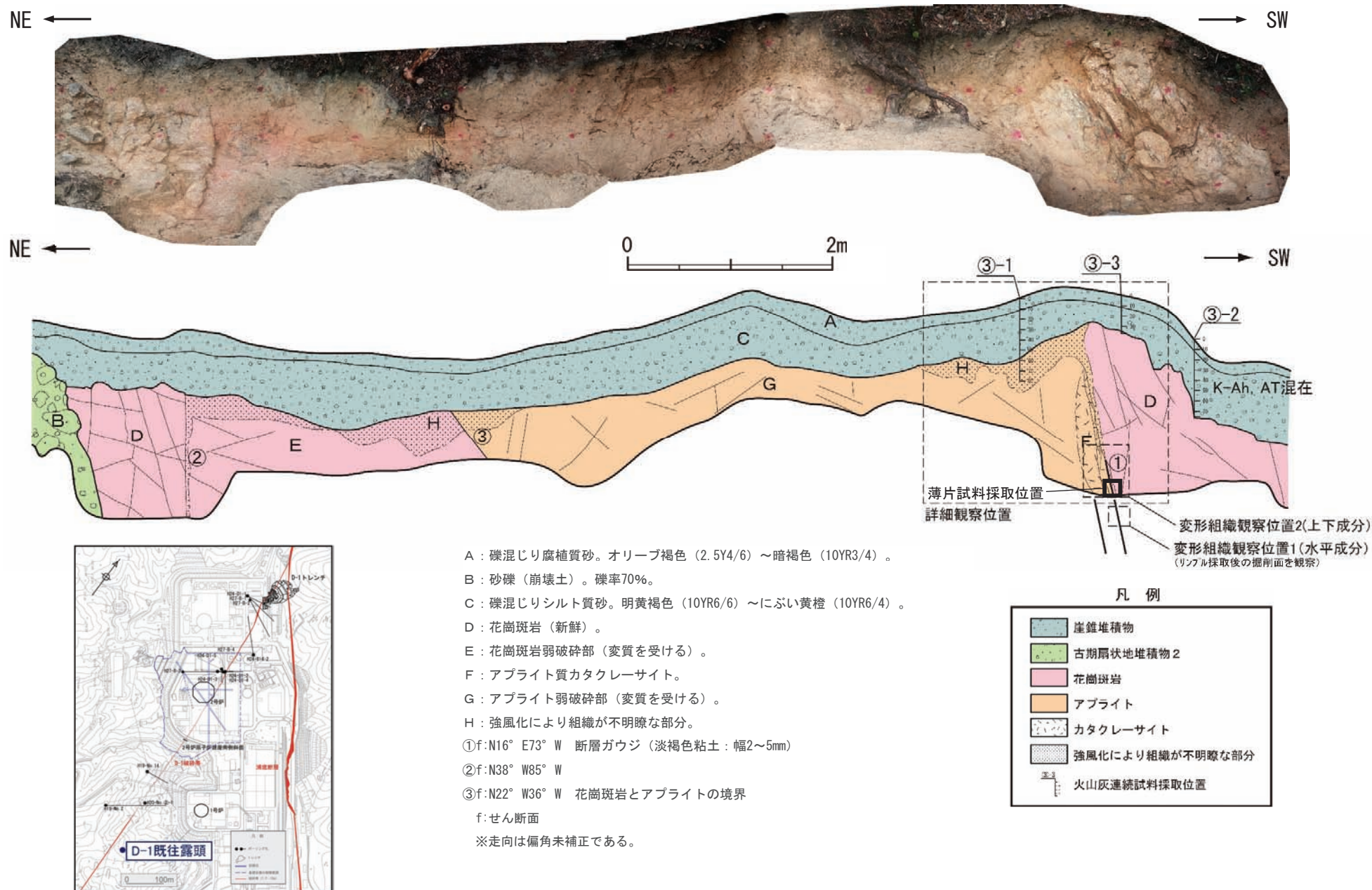
単ニコル



直交ニコル

- ・カタクレーサイト1
灰白色を呈する細粒の基質及び径0.1mm～2mmの亜角礫状の花崗斑岩岩片、石英、長石のフラグメントからなる。粘土鉱物を縞状に多く含む。P面及びこれを切るR1面から左横ズレの変位センスが判読される。
- ・断層ガウジ（最新活動面）
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.1mm～1mの亜円礫状の石英、長石のフラグメントからなる。粘土鉱物を多く含む。P面から右横ズレの変位センスが、R1面から左横ズレの変位センスが判読される。
- ・カタクレーサイト2
径1mm～10mmの亜角礫状の花崗斑岩岩片、石英、長石のフラグメントからなる。粘土鉱物は少ない。

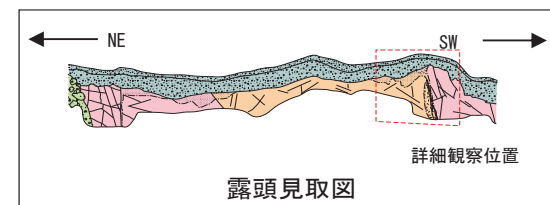
第7.4.4.26図 (3) D-1 破碎帯 薄片試料観察結果 (2号炉原子炉建屋南方) (H20-No. ②-1孔) (その1)



第7.4.4.27図 (1) D-1 破碎帯 露頭調査結果 (D-1 既往露頭) (その1)



割れ目に沿って風化が進んでいる

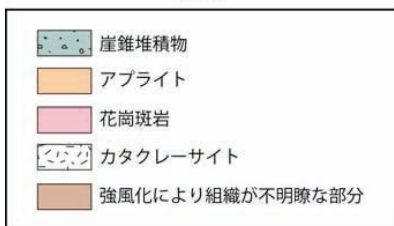


露頭見取図

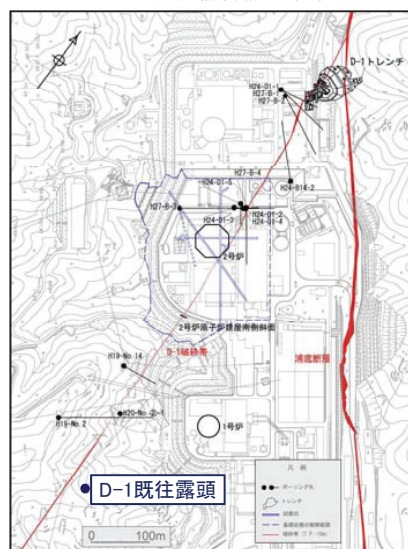
- ① f : N28° E67° W 断層ガウジ (淡褐色粘土 : 幅2~5mm)
- ② f : N26° E66° W 断層ガウジ (淡褐色粘土 : 幅0~1mm)
- ③ j : N6° W63° W マンガン付着
- ④ j : N27° E66° W
- ⑤ j : N28° W65° W マンガン付着
- j : 節理
- f : せん断面

※走向は偏角未補正である。

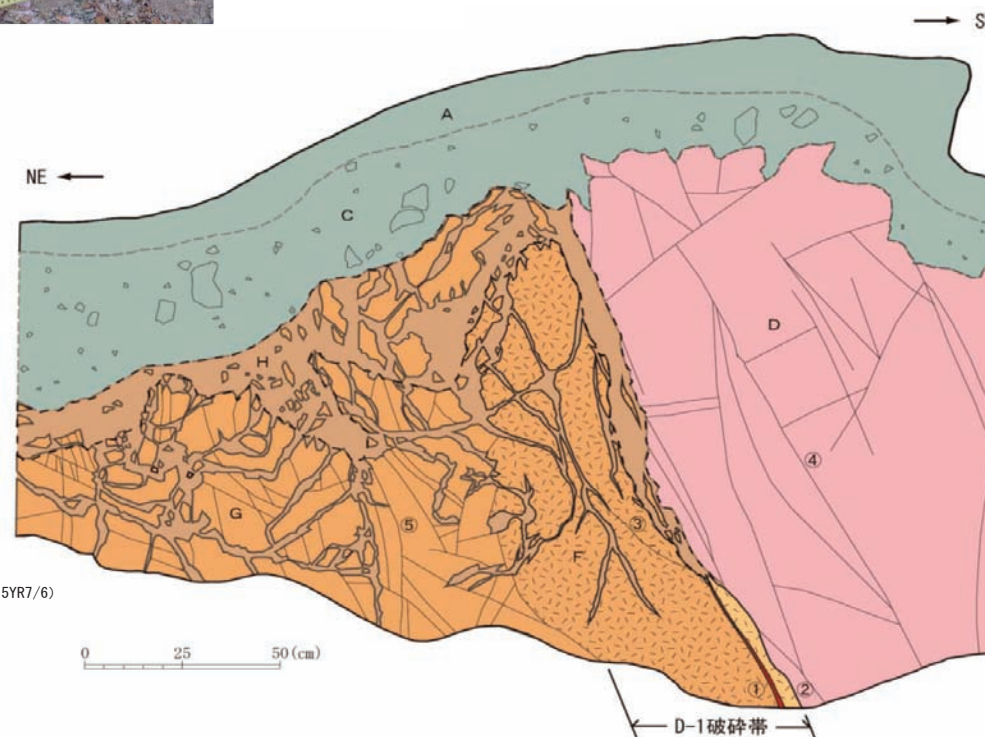
凡例



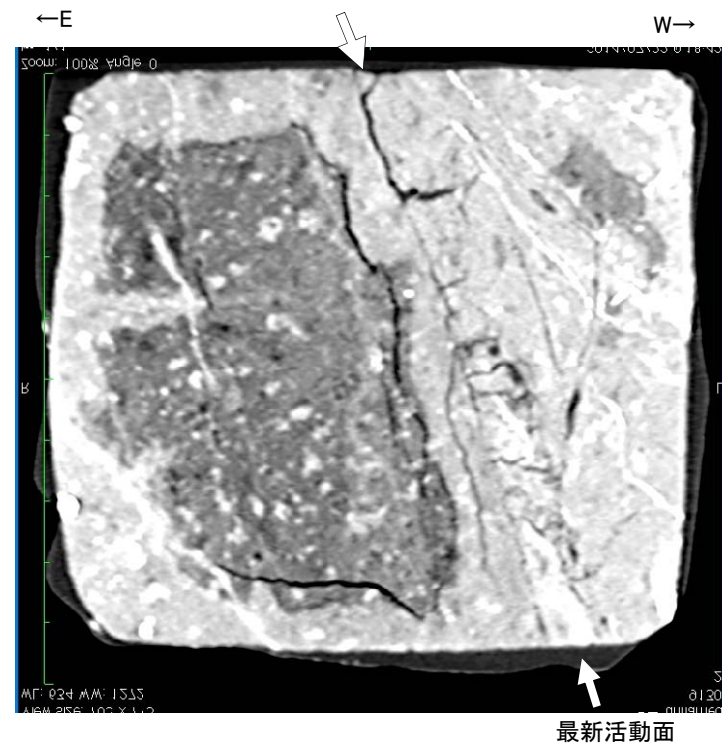
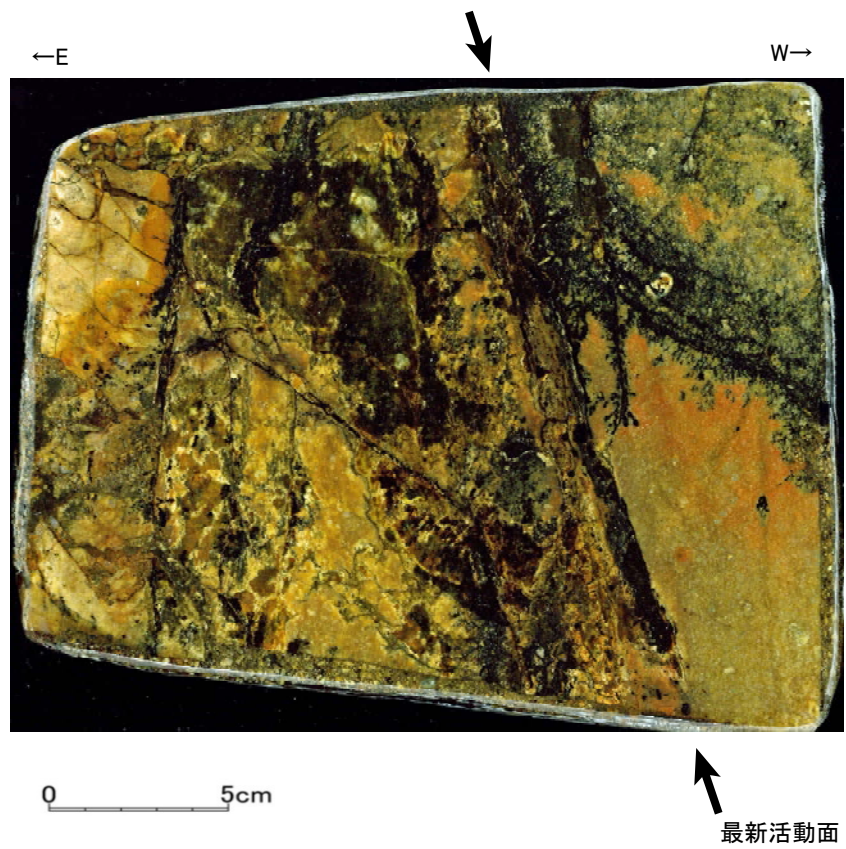
- A : 腐植質シルト質砂 黄褐色 (10YR5/2)
- C : 礫混じりシルト質砂 にぶい黄橙 (10YR6/4)。礫率10%
- D : 花崗斑岩 浅黄橙色 (7.5YR8/3)
- F : アプライト質カタクレーサイト
- G : アプライト 風化し、軟質。浅黄橙色 (10YR8/4)
- H : アプライト (強風化部) 砂質シルト状。浅黄橙色 (10YR8/3) ~ 橙色 (7.5YR7/6)



調査位置図



第7.4.4.27図 (2) D-1 破砕帯 露頭調査結果 (D-1 既往露頭) (その2)

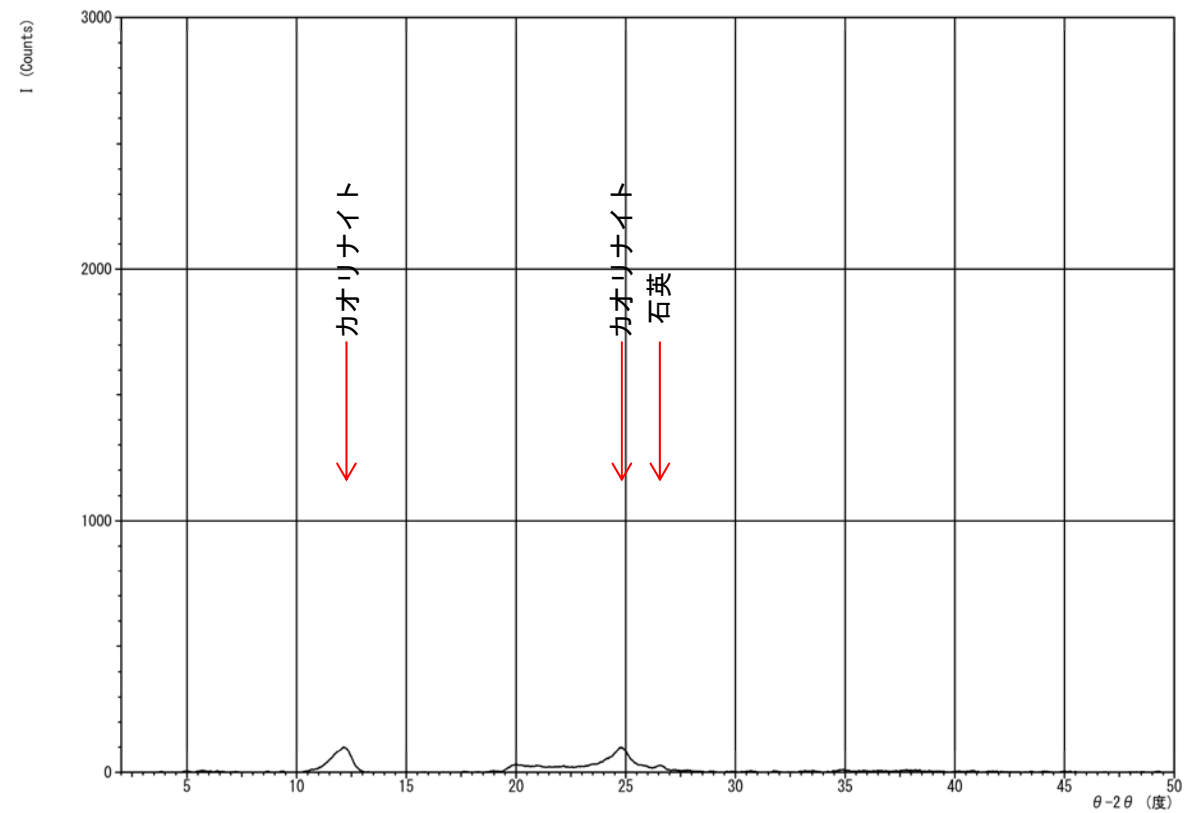
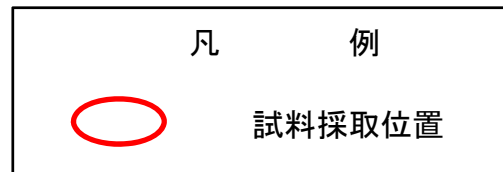


第7.4.4.28図 D-1 破碎帯 研磨片試料及びC T画像 (D-1 既往露頭)

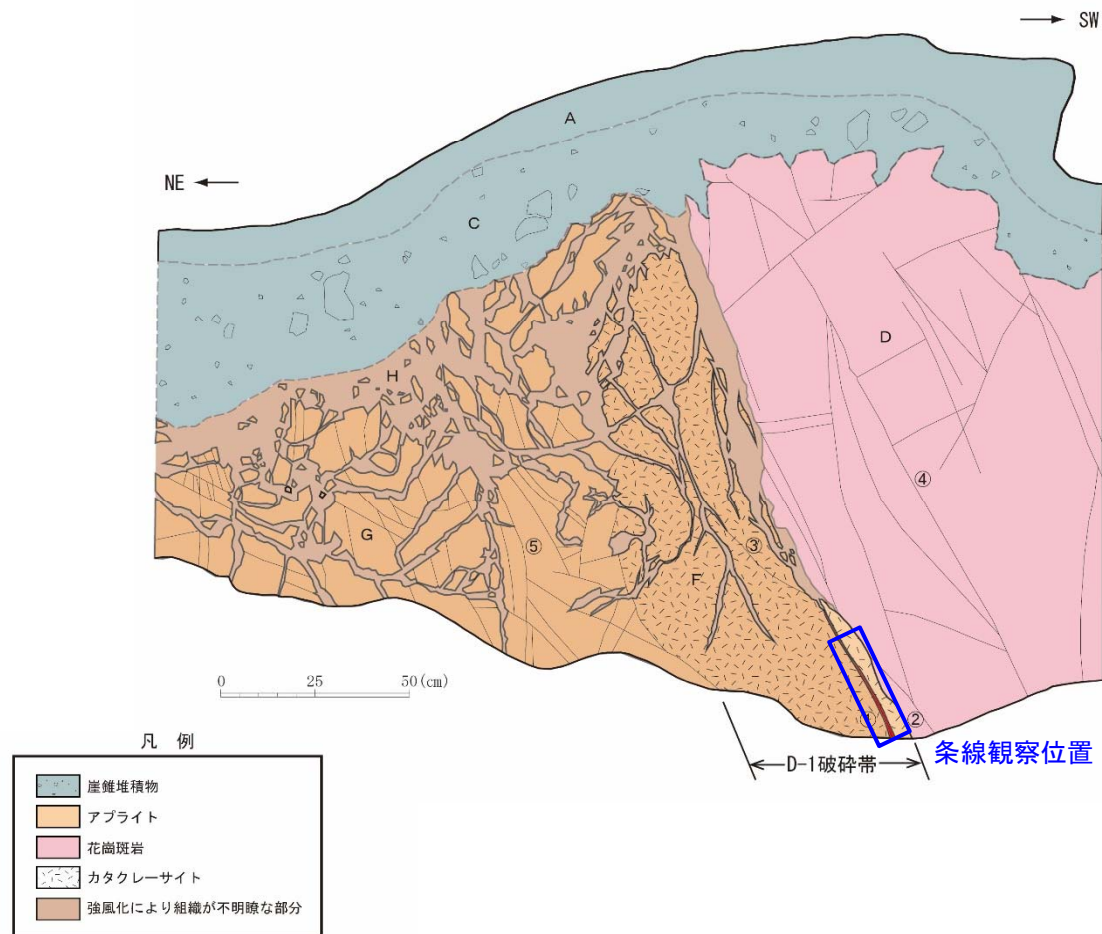
NE ← → SW



0 20cm



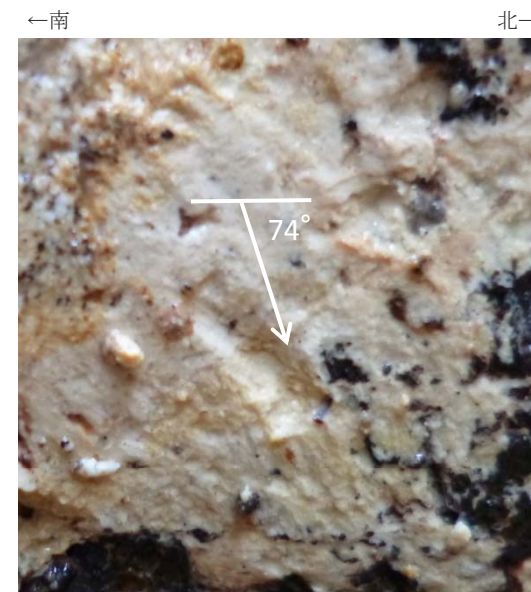
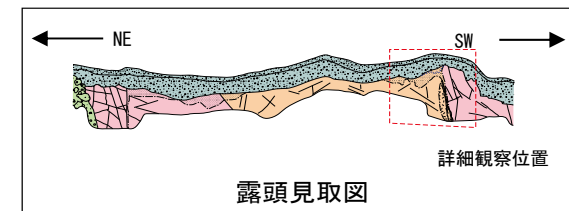
第7. 4. 4. 29図 D-1 破碎帯 X線回折分析結果 (D-1 既往露頭)



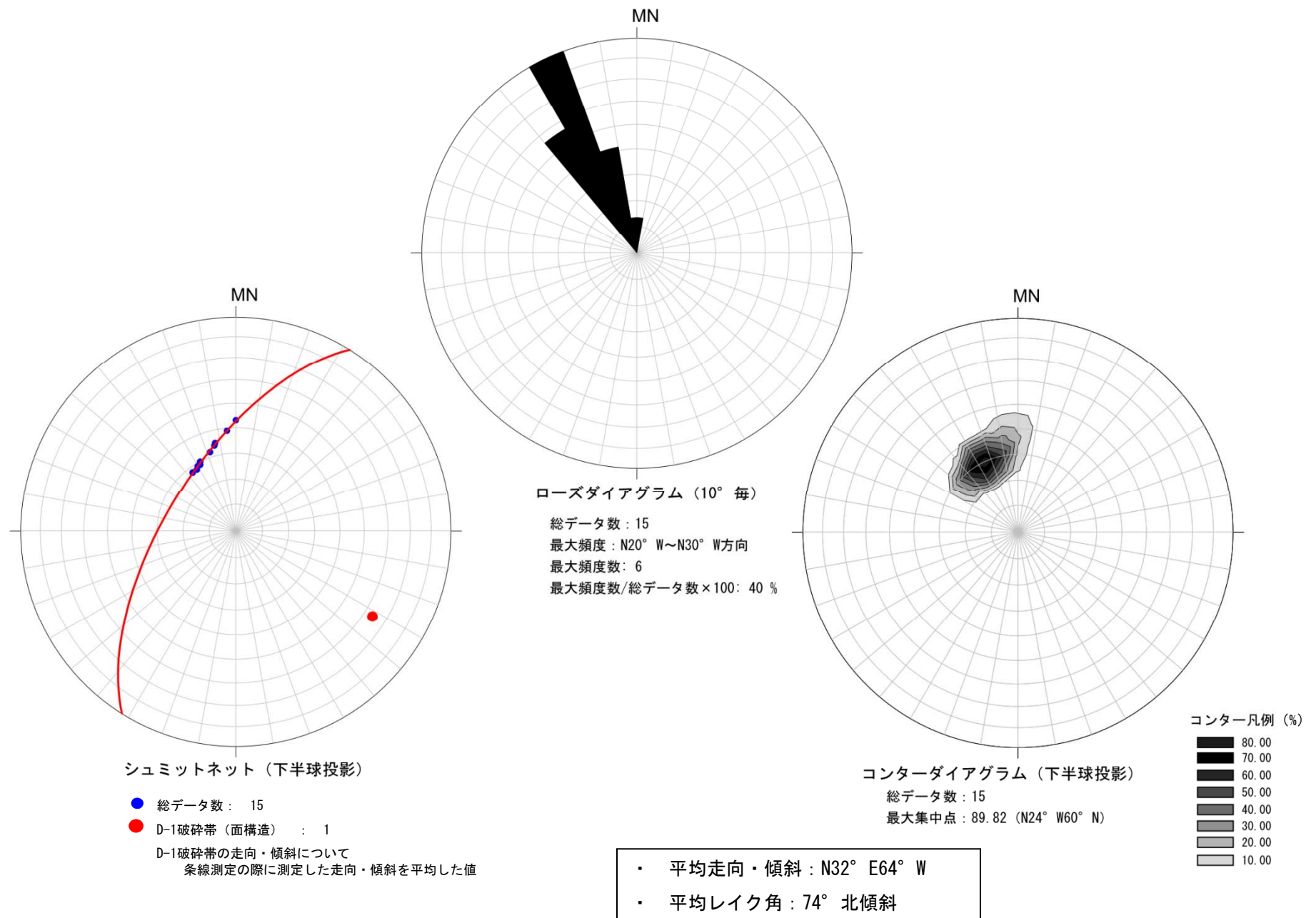
A : 腐植質シルト質砂 黄褐色 (10YR5/2)
 C : 礫混じりシルト質砂 にぶい黄橙 (10YR6/4)。礫率10%
 D : 花崗斑岩 浅黄橙色 (7.5YR8/3)
 F : アブライト質カタクレサイト
 G : アブライト 風化し、軟質。浅黄橙色 (10YR8/4)
 H : アブライト (強風化部) 砂質シルト状。浅黄橙色 (10YR8/3) ~ 橙色 (7.5YR7/6)

- ① f:N28° E67° W 断層ガウジ (淡褐色粘土: 幅2~5mm)
 - ② f:N26° E66° W 断層ガウジ (淡褐色粘土: 幅0~1mm)
 - ③ j:N6° W63° W マンガン付着
 - ④ j:N27° E66° W
 - ⑤ j:N28° W65° W マンガン付着
- j: 節理
 f: せん断面
 ※走向は偏角未補正である。

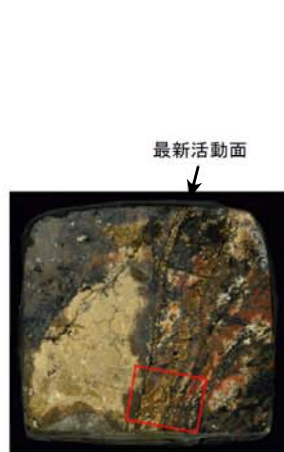
- 平均走向・傾斜: N32° E64° W
- 平均レイク角: 74° 北傾斜



条線写真(下盤側から撮影)

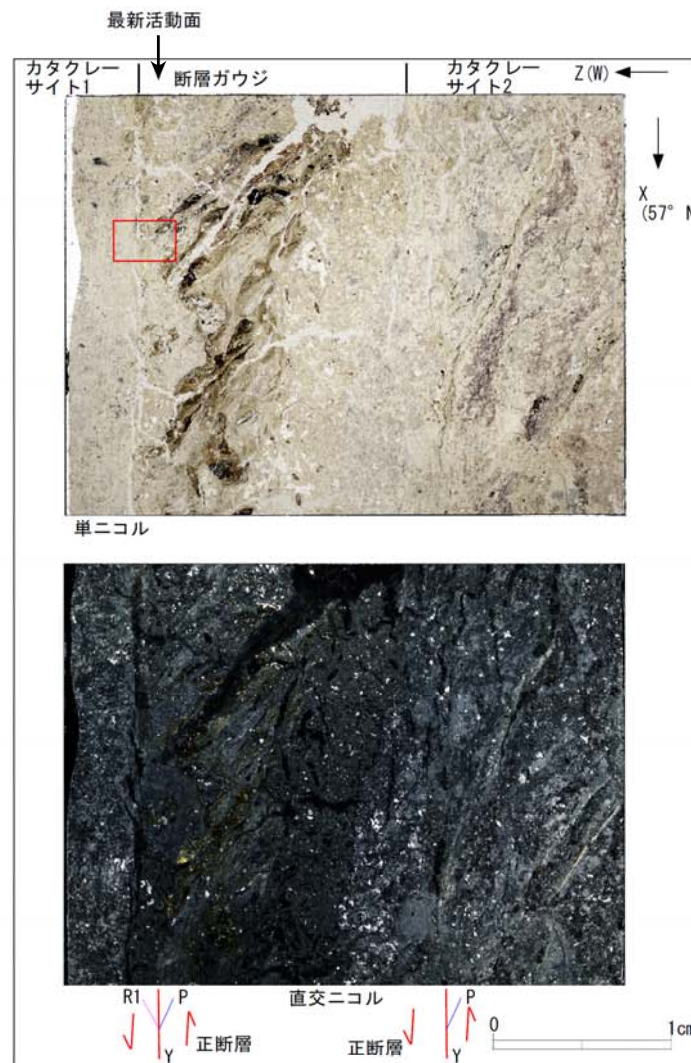
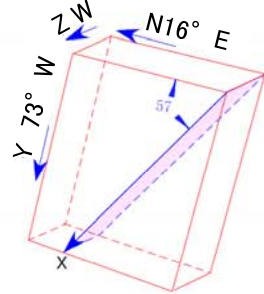


第7.4.4.30図 (2) D-1 破砕帯 条線観察結果 (D-1 既往露頭) (その2)

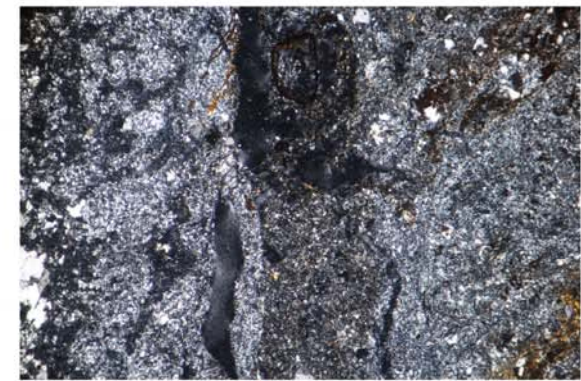
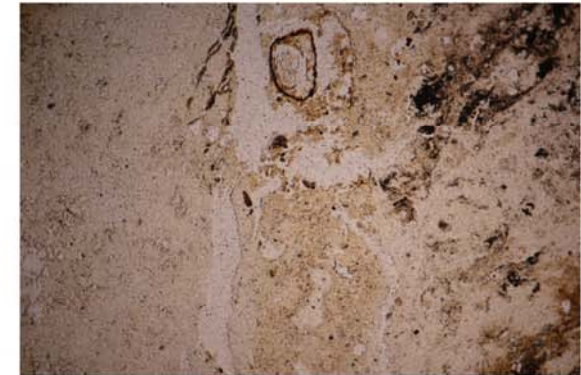


0 10cm

走向・傾斜N16° E73° W

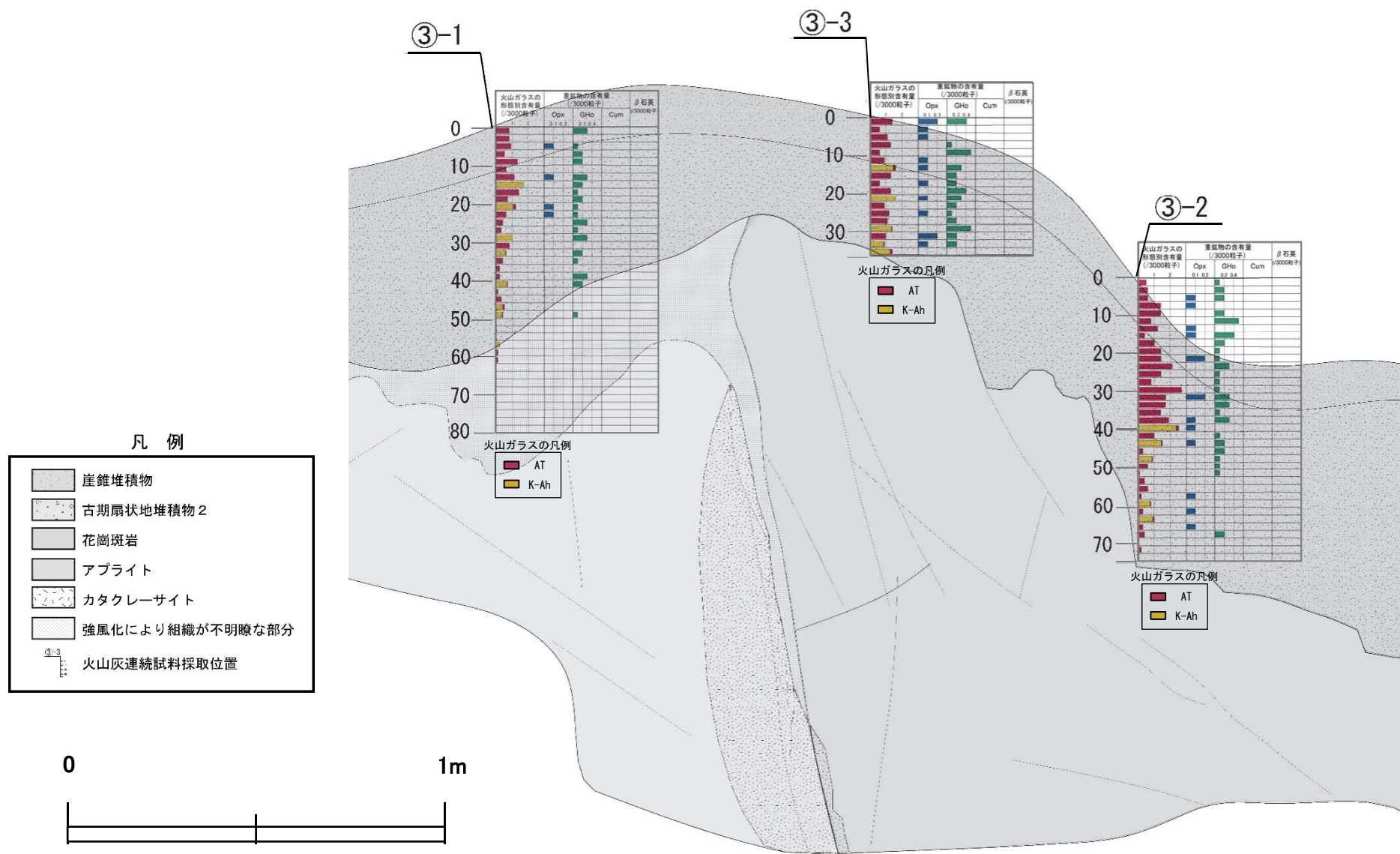


赤枠内の拡大

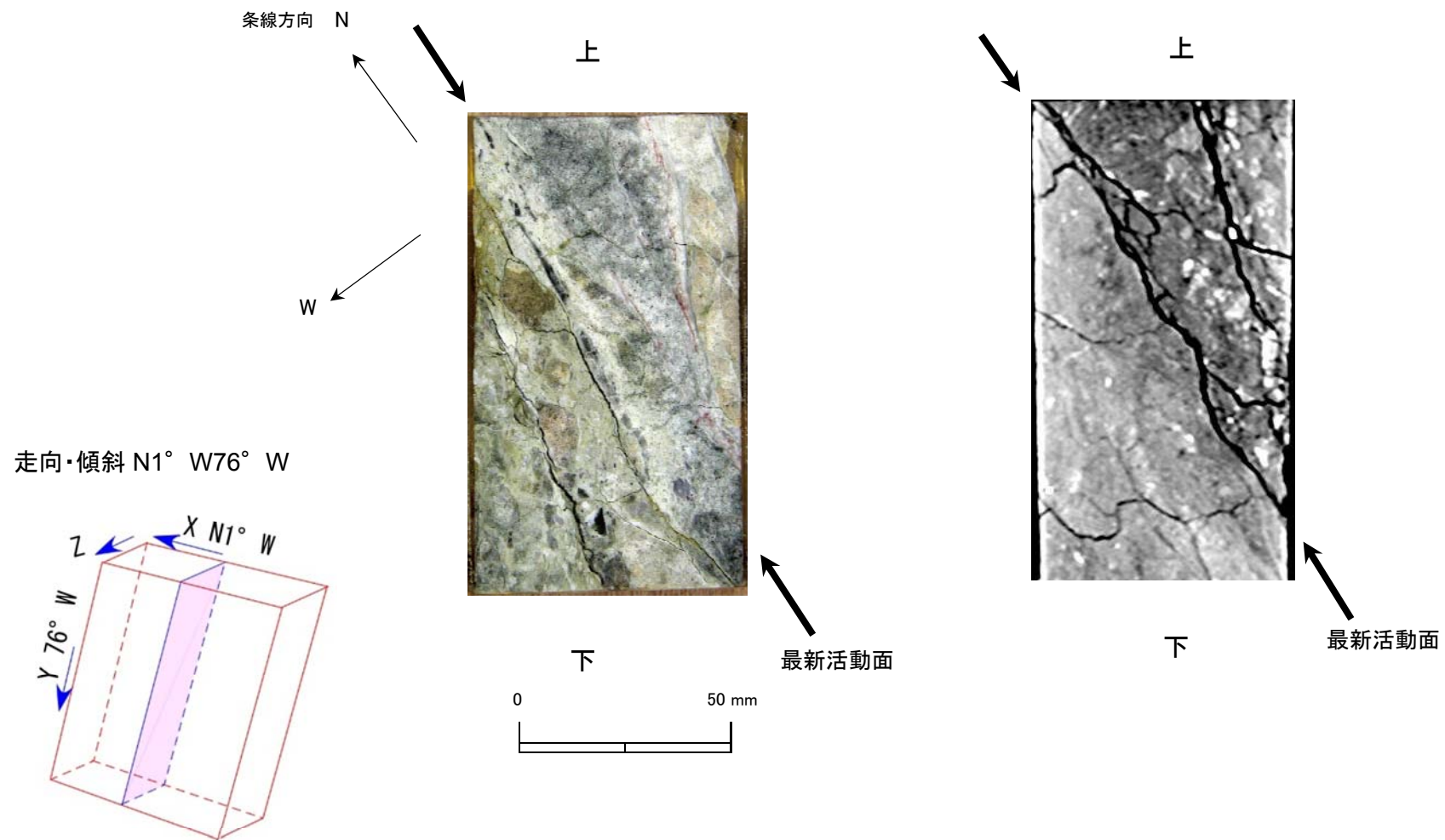


- ・カタクレサイト1
灰白色を呈する細粒の基質及び径0.1mm～2mmの垂角礫状の花崗斑岩、石英、長石のフラグメントからなる。
基質には粘土鉱物が少ない。
- ・断層ガウジ（最新活動面）
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～2mmの垂円～垂角礫状の石英、長石、カタクレサイトのフラグメントからなる。フラグメントは円磨されているものが多い。
R1面及びP面から正断層の変位センスが判読される。条線方向から右ずれを伴うと判断される。
- ・カタクレサイト2
灰白色を呈する細粒の基質及び径0.1mm～2mmの垂角礫状の花崗斑岩、石英、長石のフラグメントからなる。
P面から正断層の変位センスが判読される。

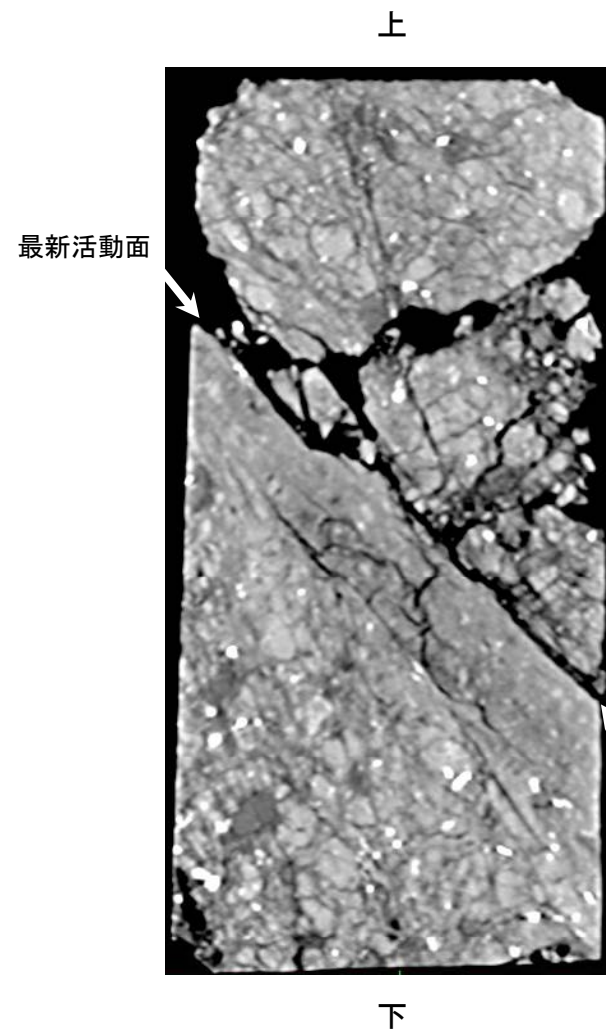
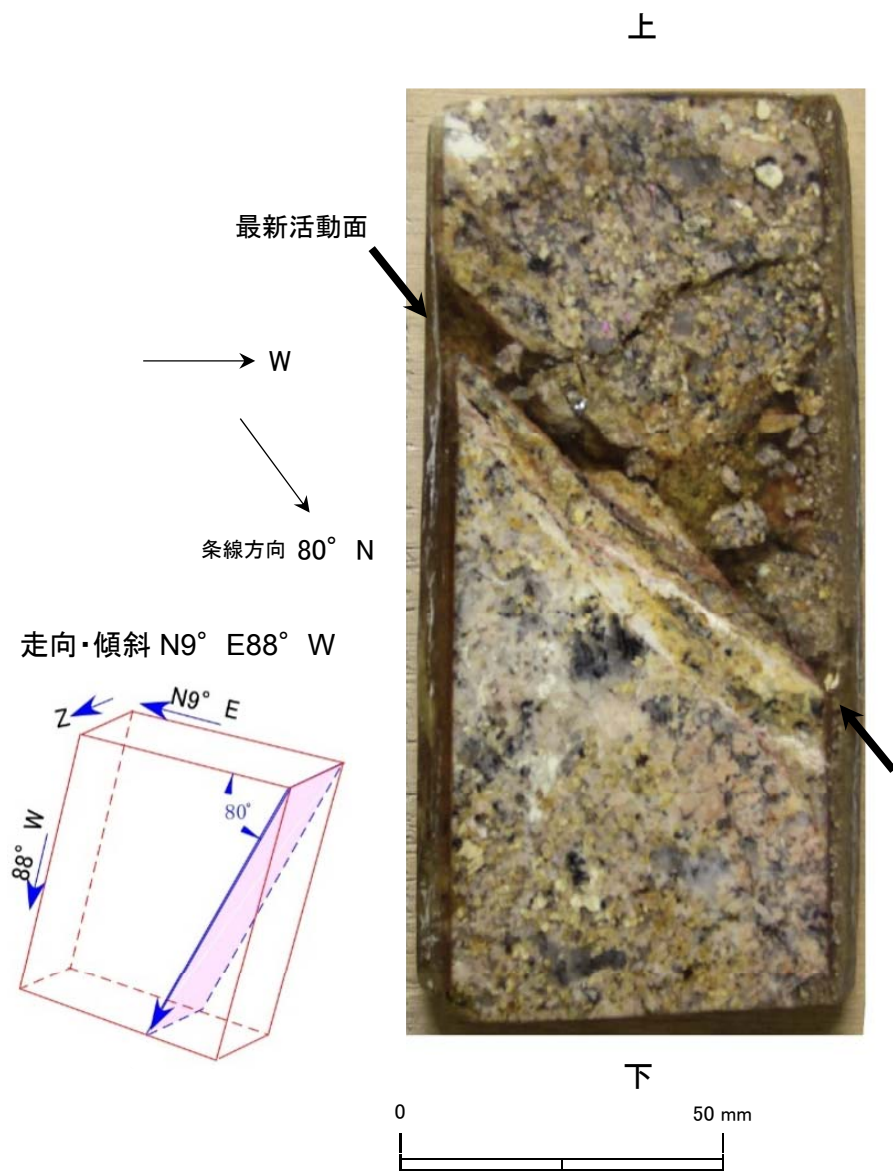
第7.4.4.31図 D-1 破碎帯 薄片試料観察結果（D-1 既往露頭）



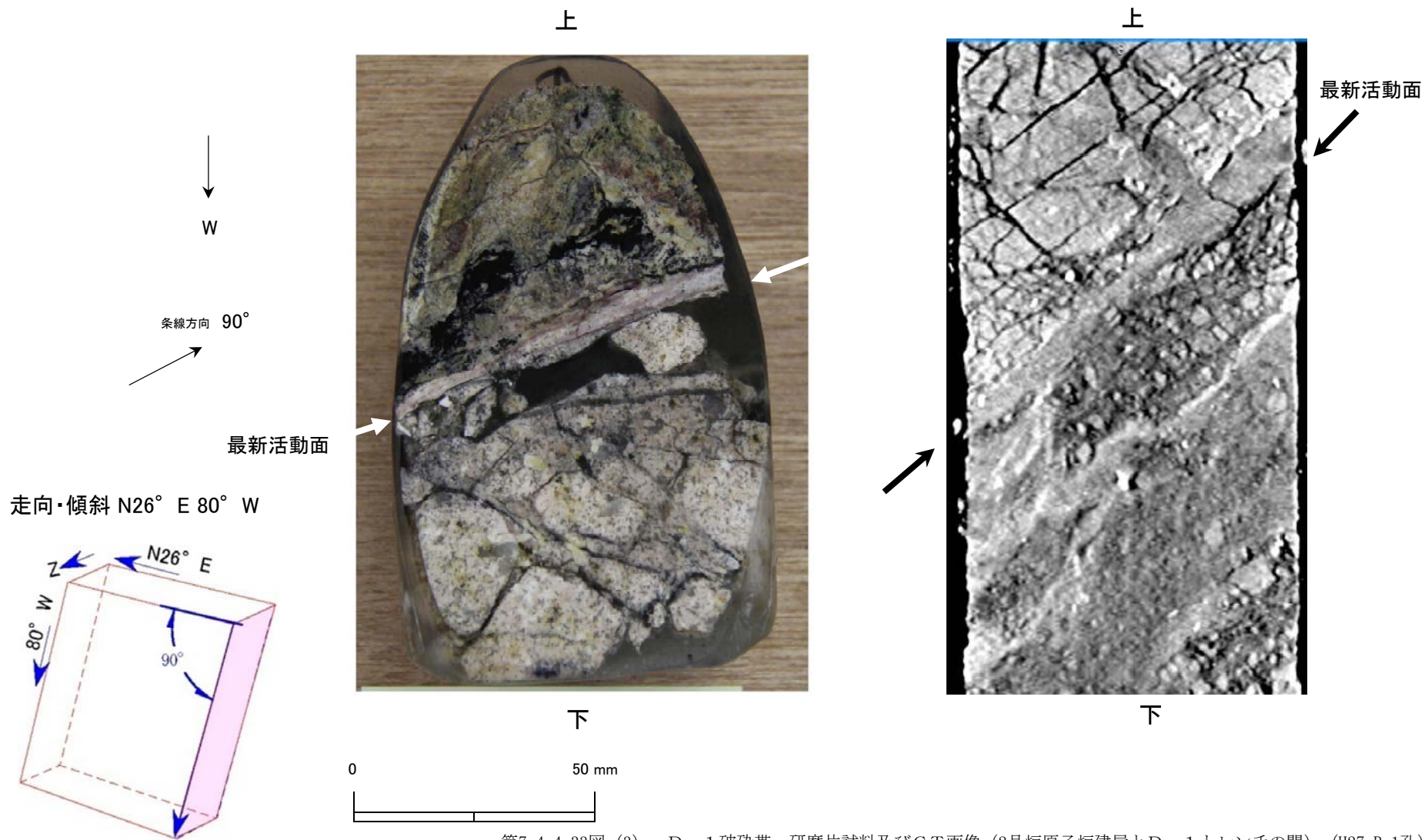
第7.4.4.32図 D-1 破碎帯 テフラ分析結果 (D-1 既往露頭)



第7.4.4.33図 (1) D-1 破碎帯 研磨片試料及びC T画像 (2号炉原子炉建屋とD-1 トレンチの間) (H24-B14-2孔)

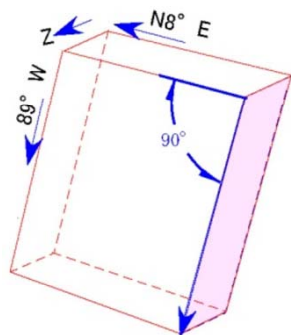


第7.4.4.33図 (2) D-1 破碎帯 研磨片試料及びC T画像解析 (2号炉原子炉建屋とD-1 トレンチの間) (H24-D1-1孔)



第7.4.4.33図 (3) D-1 破碎帯 研磨片試料及びC T画像 (2号炉原子炉建屋とD-1 トレンチの間) (H27-B-1孔)

走向・傾斜 $N8^{\circ} E89^{\circ} W$



W ←

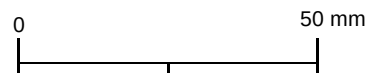
90°

最新活動面



上

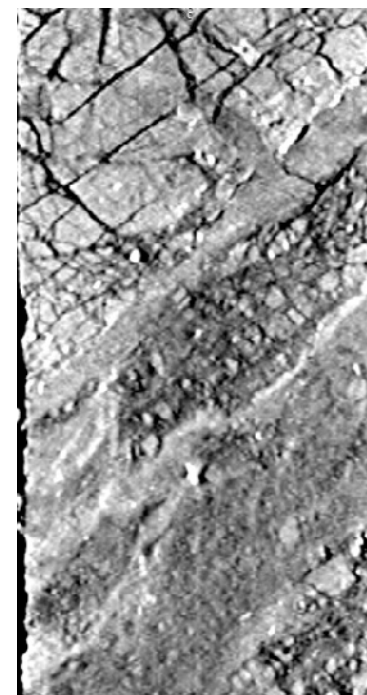
下



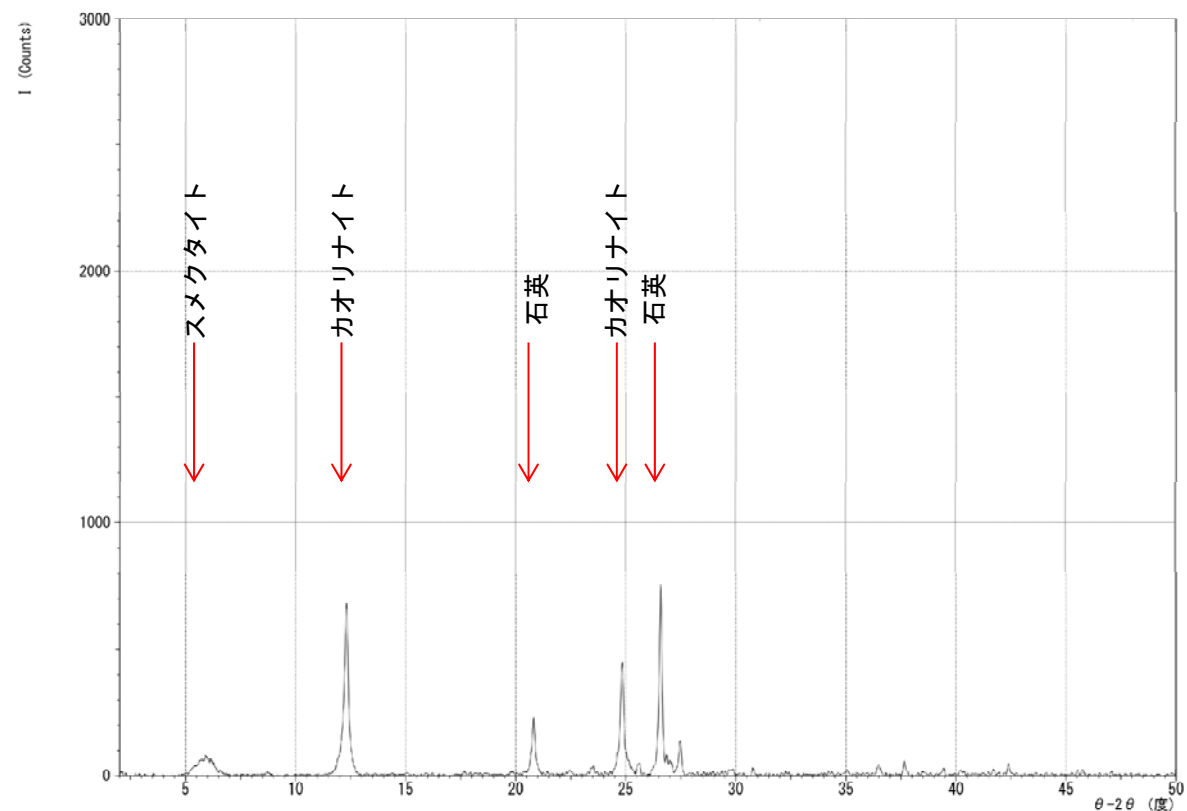
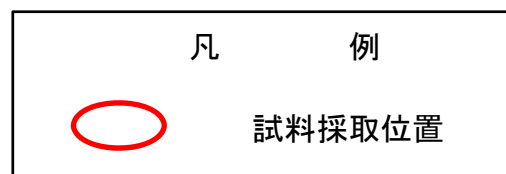
上

下

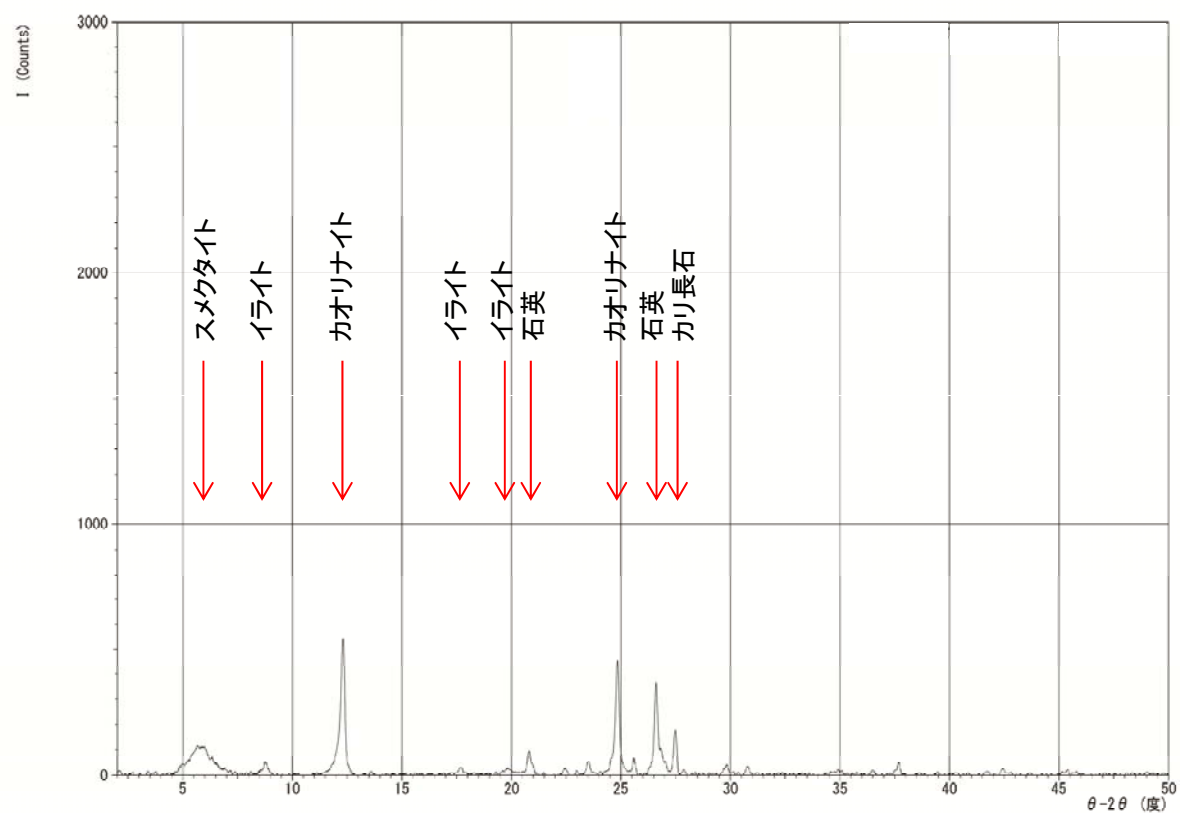
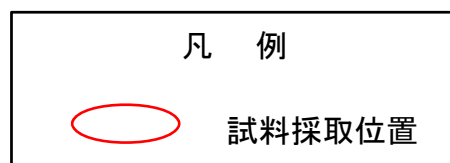
最新活動面



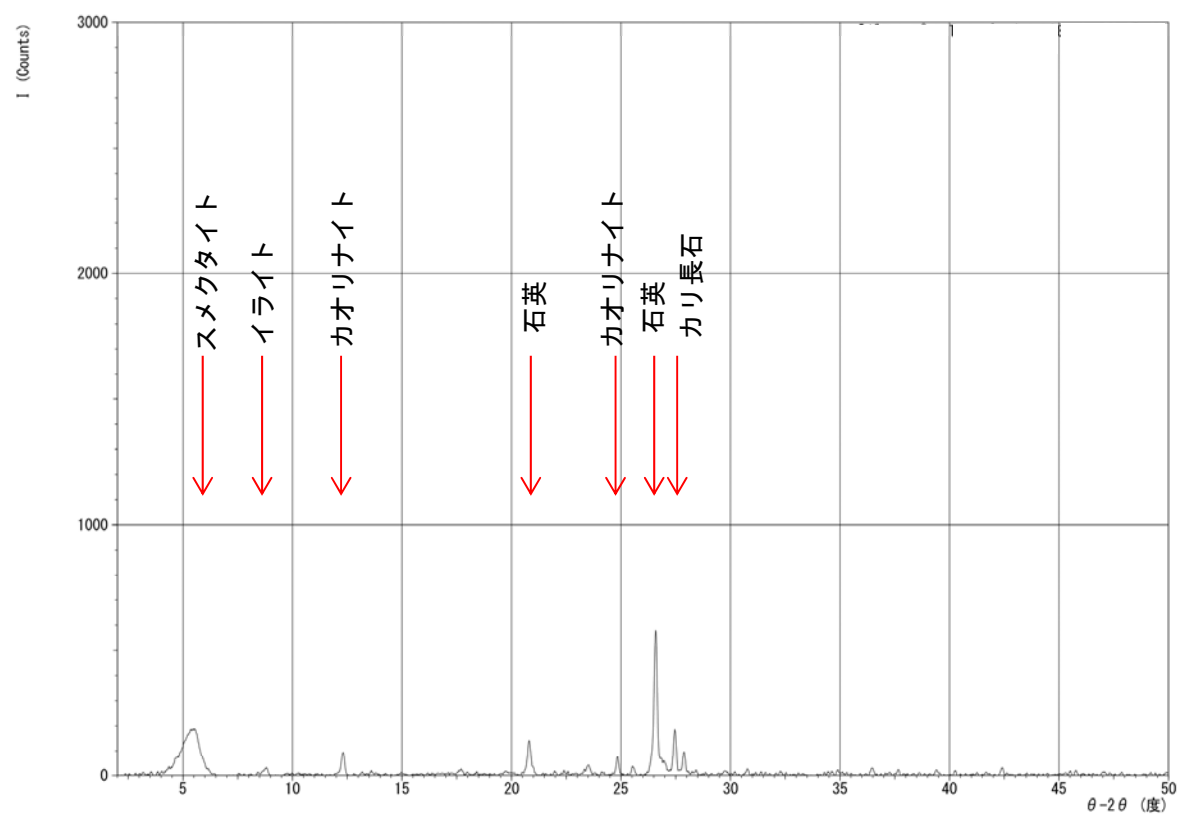
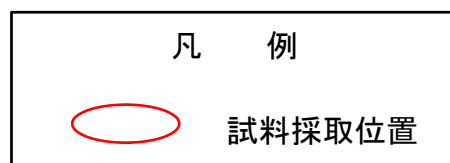
第7.4.4.33図 (4) D-1 破碎帯 研磨片試料及びCT画像 (2号炉原子炉建屋とD-1 トレンチの間) (H27-B-2孔)



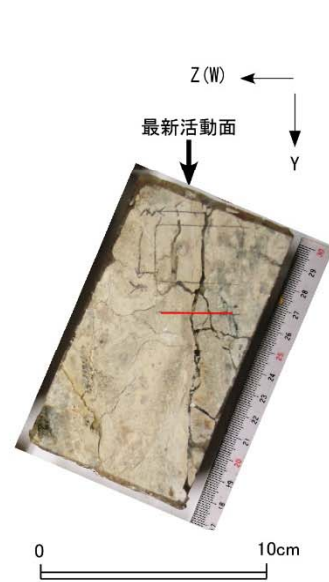
第7.4.4.34図 (1) D-1 破碎帯 X線回折分析結果 (2号炉原子炉建屋とD-1 トレンチの間) (H24-B14-2孔)



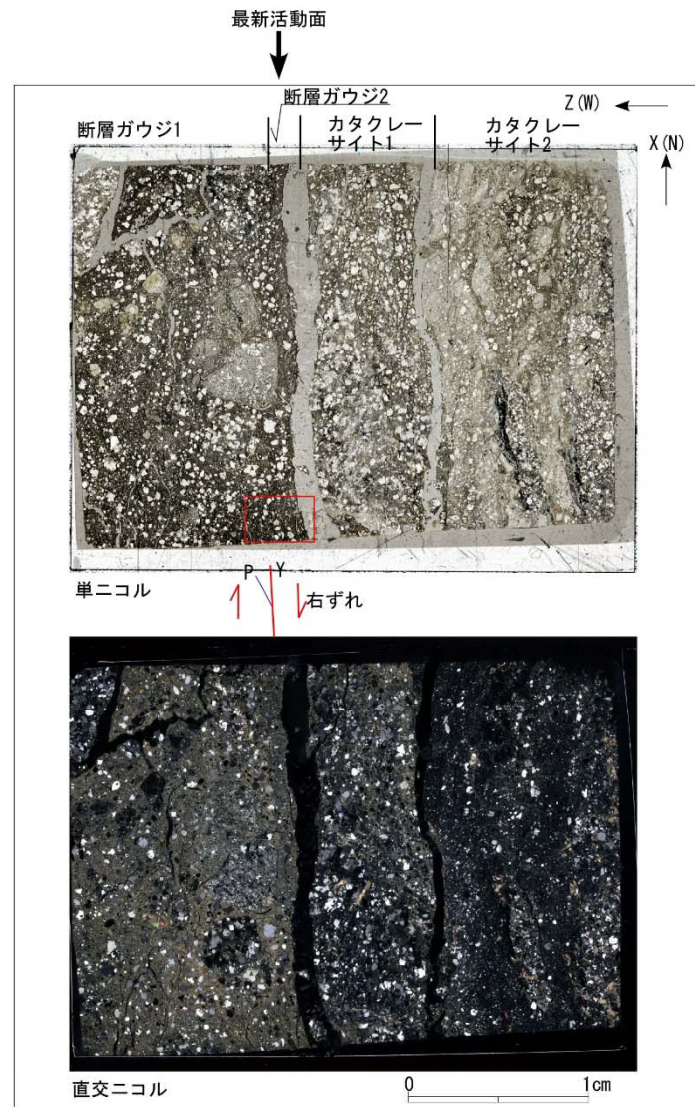
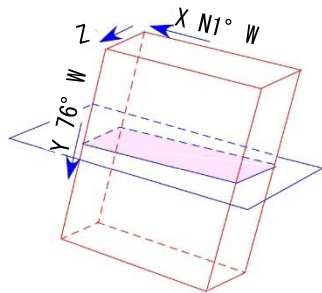
第7.4.4.34図 (2) D-1 破碎帯 X線回折分析結果 (2号炉原子炉建屋とD-1 トレンチの間) (H27-B-1孔)



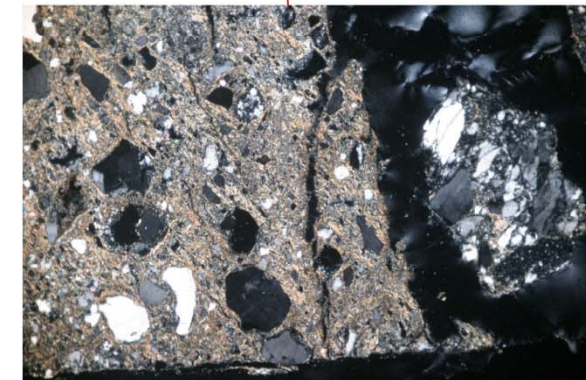
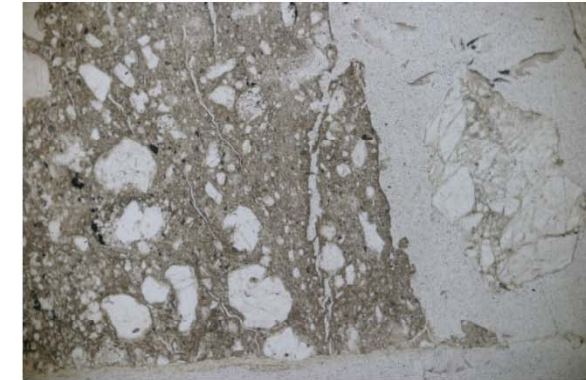
第7.4.4.34図 (3) D-1 破碎帯 X線回折分析結果 (2号炉原子炉建屋とD-1 トレンチの間) (H27-B-2孔)



走向・傾斜 N1° E76° W

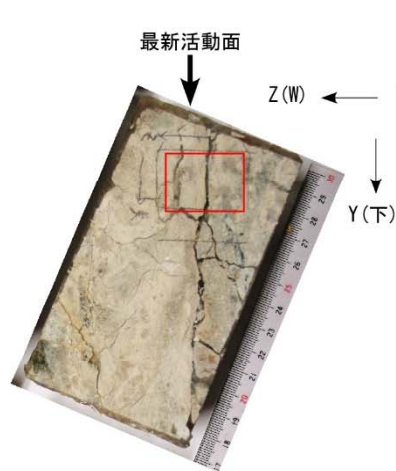


赤枠内の拡大



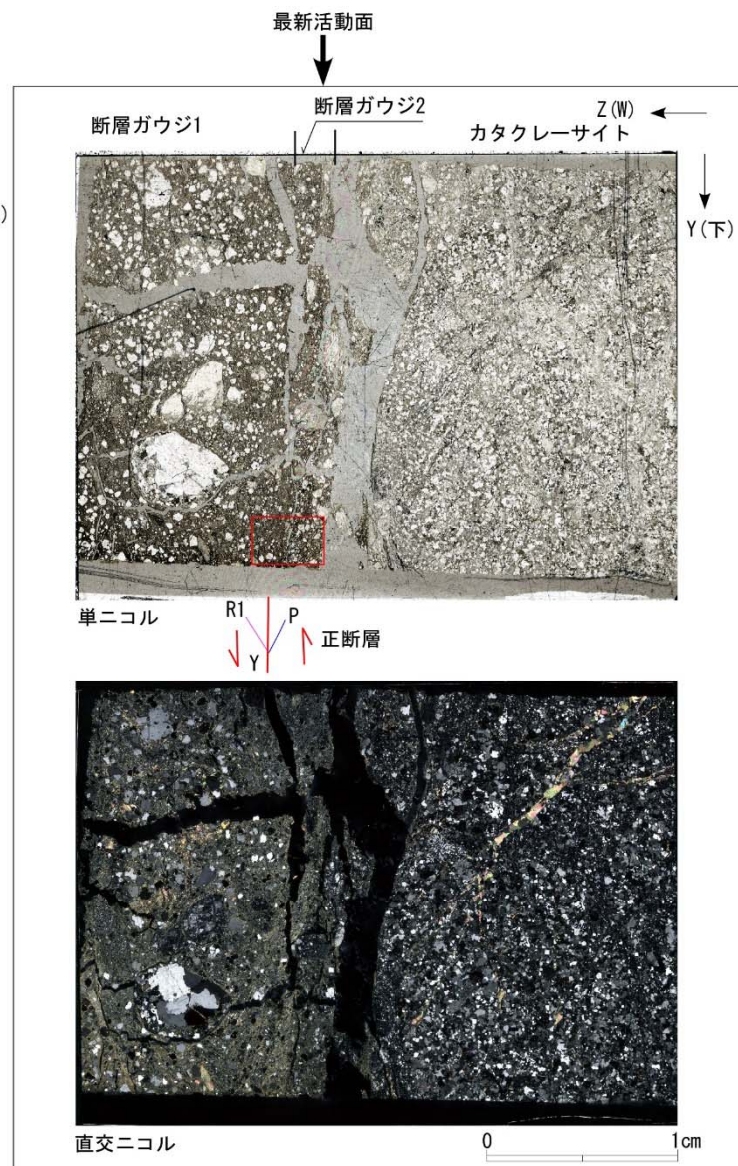
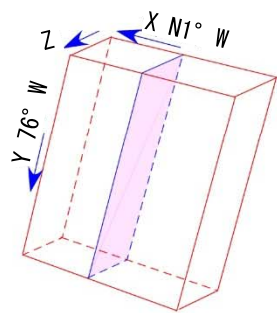
- 断層ガウジ1
褐色を呈する細粒の基質及び径0.02mm～7mmの亜円～亜角礫状の石英、長石、アブライト、カタクレーサイトのフラグメントからなる。
基質には粘土鉱物及び方解石を多く含む。
- 断層ガウジ2（最新活動面）
褐色を呈する細粒の基質及び径0.02mm～1mmの亜円～亜角礫状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。
基質には粘土鉱物を多く含む。P面から右ずれの変位センスが判読される。
- カタクレーサイト1
褐色を呈する細粒の基質及び径0.1mm～8mmの亜角～亜円礫状の石英、長石、アブライト、カタクレーサイトのフラグメントからなる。
基質には粘土鉱物がやや多い。
- カタクレーサイト2
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.1mm～8mmの亜角～亜円礫状の石英、長石、カタクレーサイト、アブライトのフラグメントからなる。
基質には粘土鉱物が少ない。方解石が多い。

第7.4.4.35図 (1) D-1 破碎帯 薄片試料観察結果 (2号炉原子炉建屋とD-1 トレンチの間) (H24-B14-2孔)

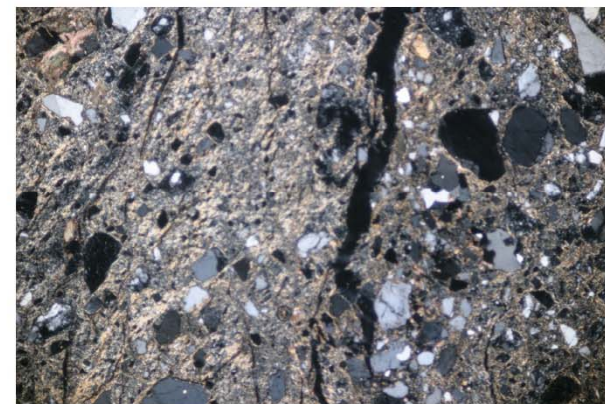


0 10cm

走向・傾斜 $N1^{\circ} E76^{\circ} W$

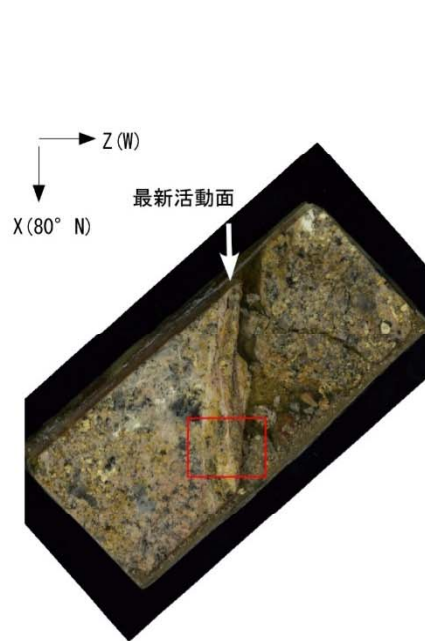


赤枠内の拡大



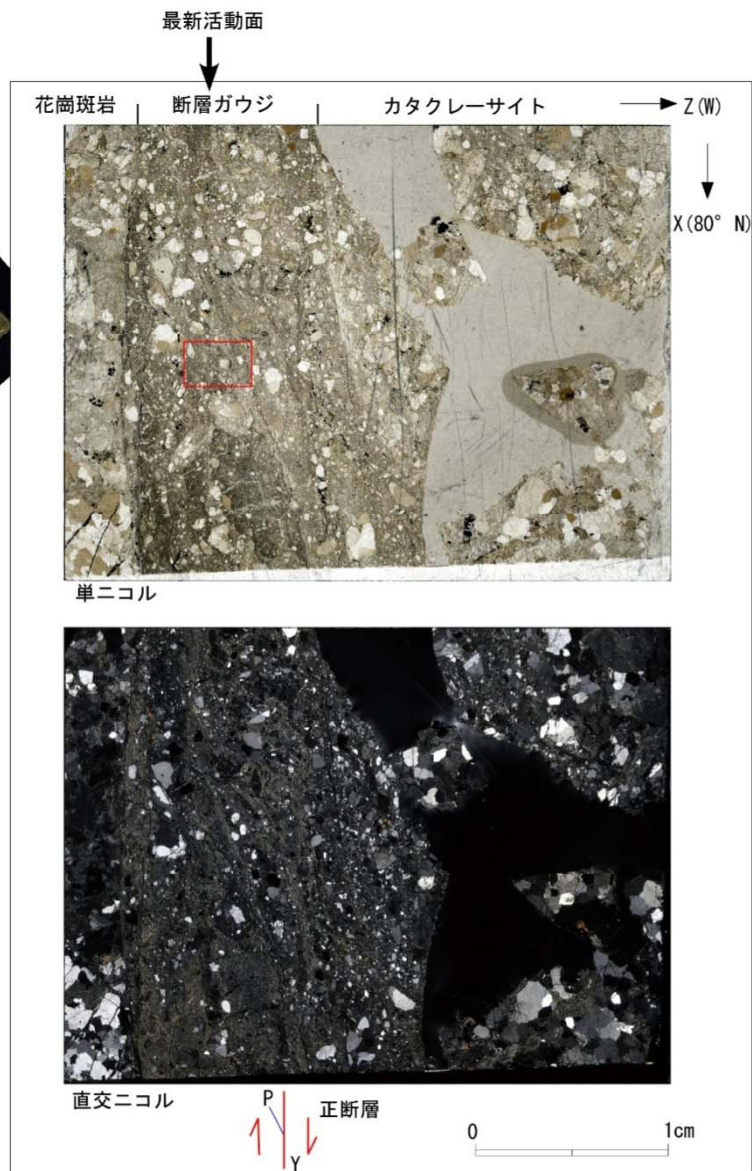
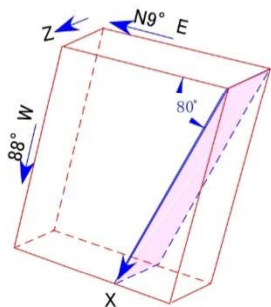
- ・断層ガウジ1
褐色を呈する細粒の基質及び径0.02mm～5mmの垂円～垂角礫状の石英、長石、花崗斑岩、カタクレーサイトのフラグメントからなる。
基質には粘土鉱物及び方解石を多く含む。
- ・断層ガウジ2（最新活動面）
褐色を呈する細粒の基質及び径0.02mm～1mmの垂円～垂角礫状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。フラグメントは円磨されたものが多い。
基質には粘土鉱物を多く含む。P面から正断層の変位センスが判読される。
- ・カタクレーサイト
灰色を呈する細粒の基質及び径0.1～1mmの垂角～垂円礫状の石英、長石、アブライト、カタクレーサイトのフラグメントからなる。
基質には粘土鉱物は少ない。方解石脈が見られる。

第7.4.4.35図 (2) D-1 破碎帯 薄片試料観察結果 (2号炉原子炉建屋とD-1 トレンチの間) (H24-B14-2孔)



0 10cm

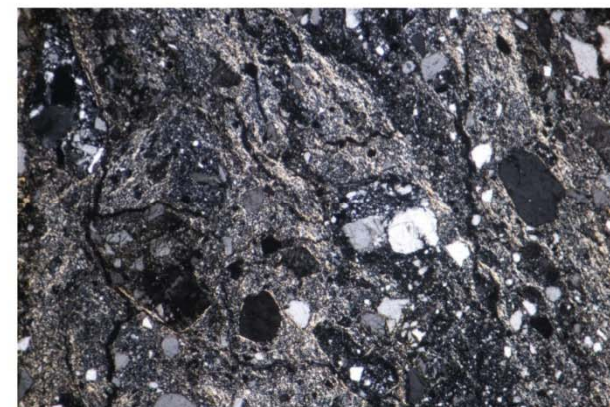
走向・傾斜 N9° E88° W



赤枠内の拡大



単ニコル

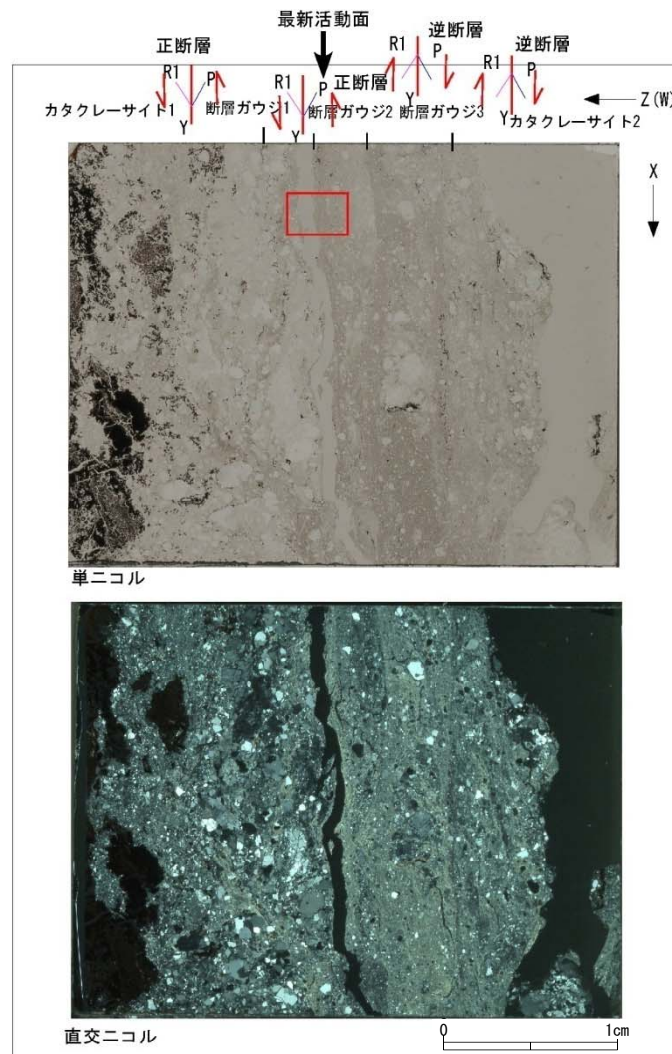
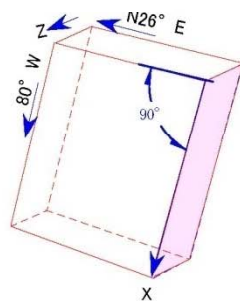
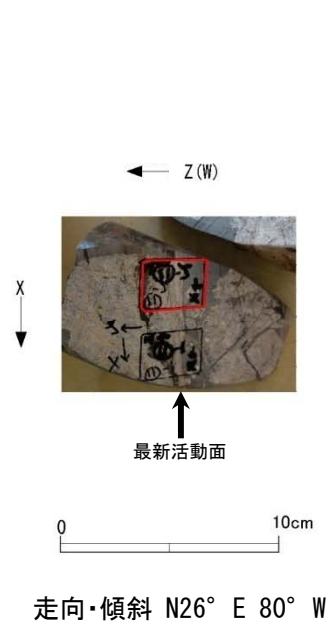


直交ニコル



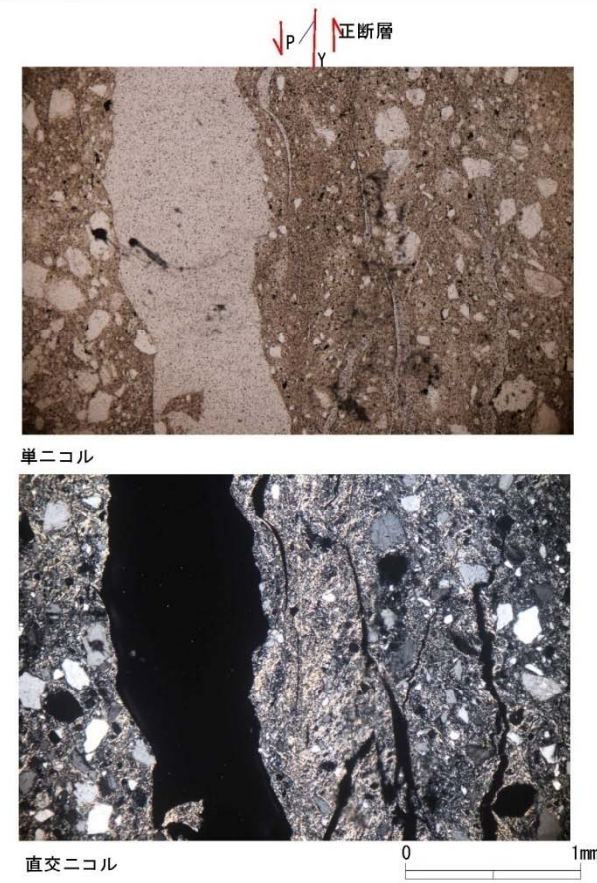
- ・花崗斑岩
石英、カリ長石、斜長石からなる。
- ・断層ガウジ（最新活動面）
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～3mmの垂円～垂角礫状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。フラグメントは円磨されたものが多い。基質には粘土鉱物を多く含む。P面から正断層の変位センスが判読される。フラグメントは0.3程度の円形度を示す。
- ・カタクレーサイト
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.1mm～3mmの垂角礫状の花崗斑岩、石英、長石のフラグメントからなる。基質には粘土鉱物が少ない。

第7.4.4.35図 (3) D-1 破砕帯 薄片試料観察結果 (2号炉原子炉建屋とD-1 トレンチの間) (H24-D1-1孔)

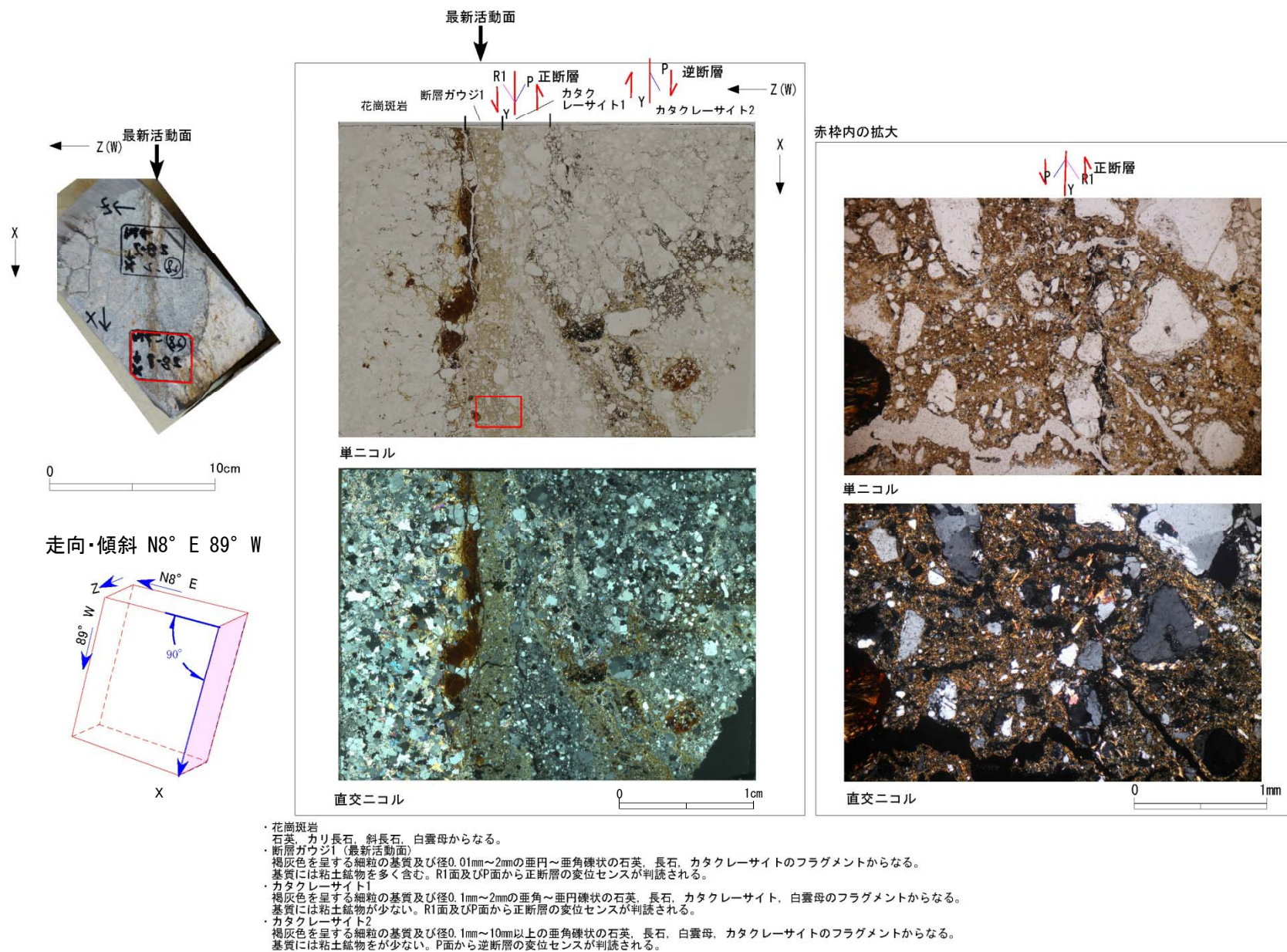


- ・カタクレーサイト1
灰色を呈する細粒の基質及び径0.1mm～3mmの垂角～亜円稜状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。基質には粘土鉱物が少ない。R1面及びP面から正断層の変位センスが判読される。
- ・断層ガウジ1
褐色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～5mmの垂角～亜円稜状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。基質には粘土鉱物を多く含む。R1面及びP面から正断層の変位センスが判読される。
- ・断層ガウジ2 (最新活動面)
褐色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～2mmの垂角～亜円稜状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。基質には粘土鉱物を多く含む。R1面及びP面から正断層の変位センスが判読される。
- ・断層ガウジ3
褐色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～4mmの垂角～亜円稜状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。基質には粘土鉱物を多く含む。P面から逆断層の変位センスが判読される。
- ・カタクレーサイト2
灰色を呈する細粒の基質及び径0.1mm～2mmの垂角～亜円稜状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。基質には粘土鉱物が少ない。R1面及びP面から逆断層の変位センスが判読される。

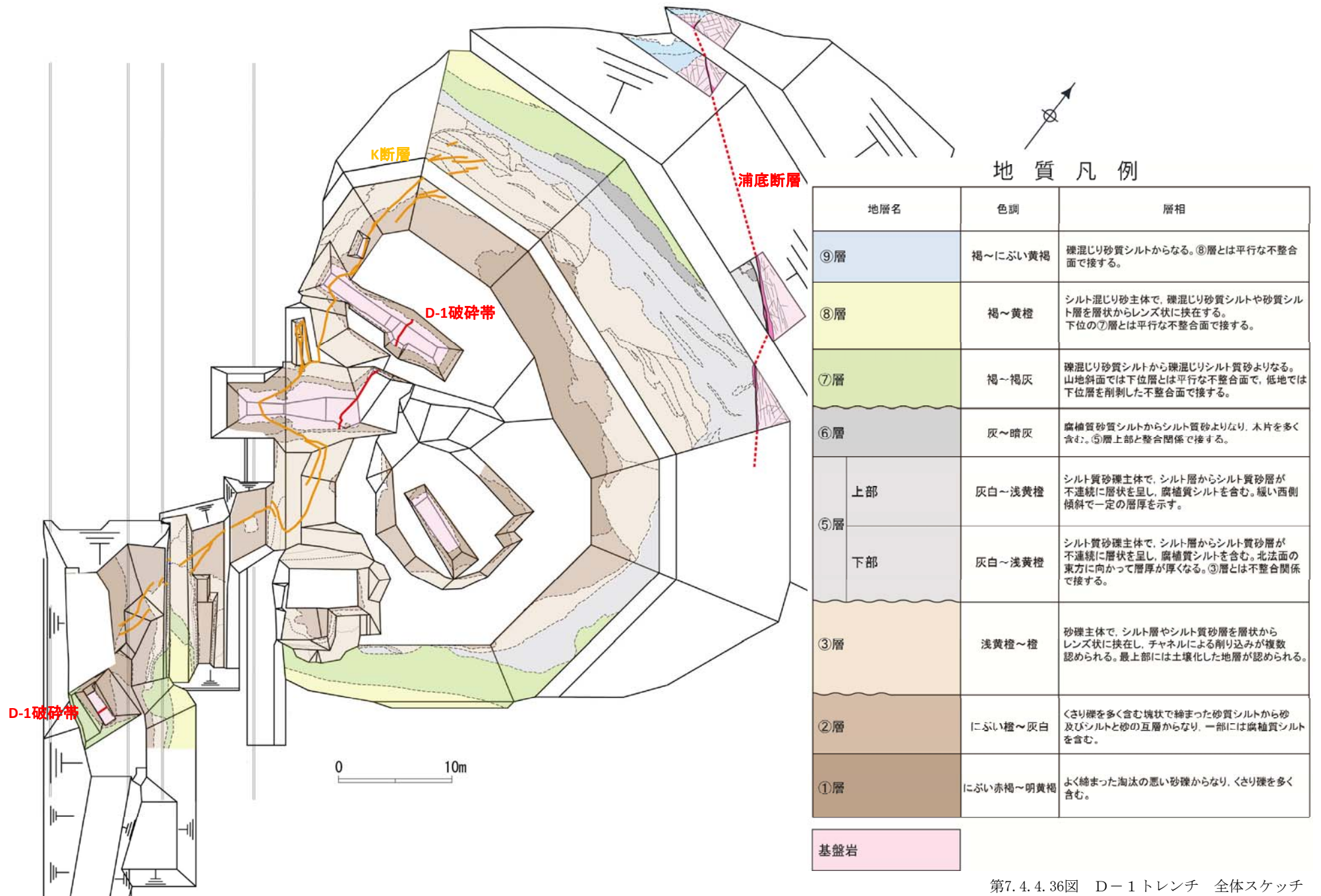
赤枠内の拡大

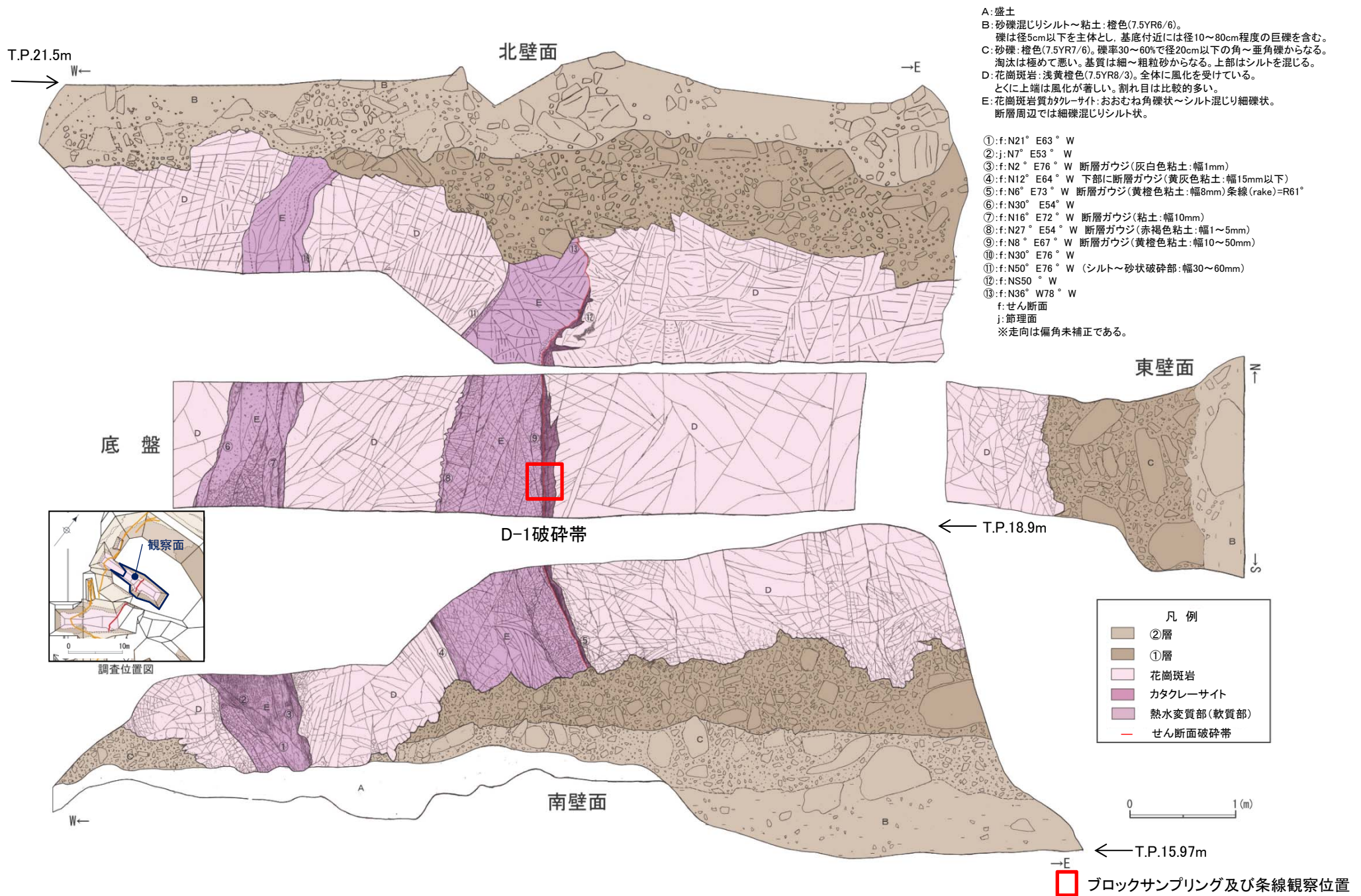


第7.4.4.35図 (4) D-1 破碎帯 薄片試料観察結果 (2号炉原子炉建屋とD-1 トレンチの間) (H27-B-1孔)

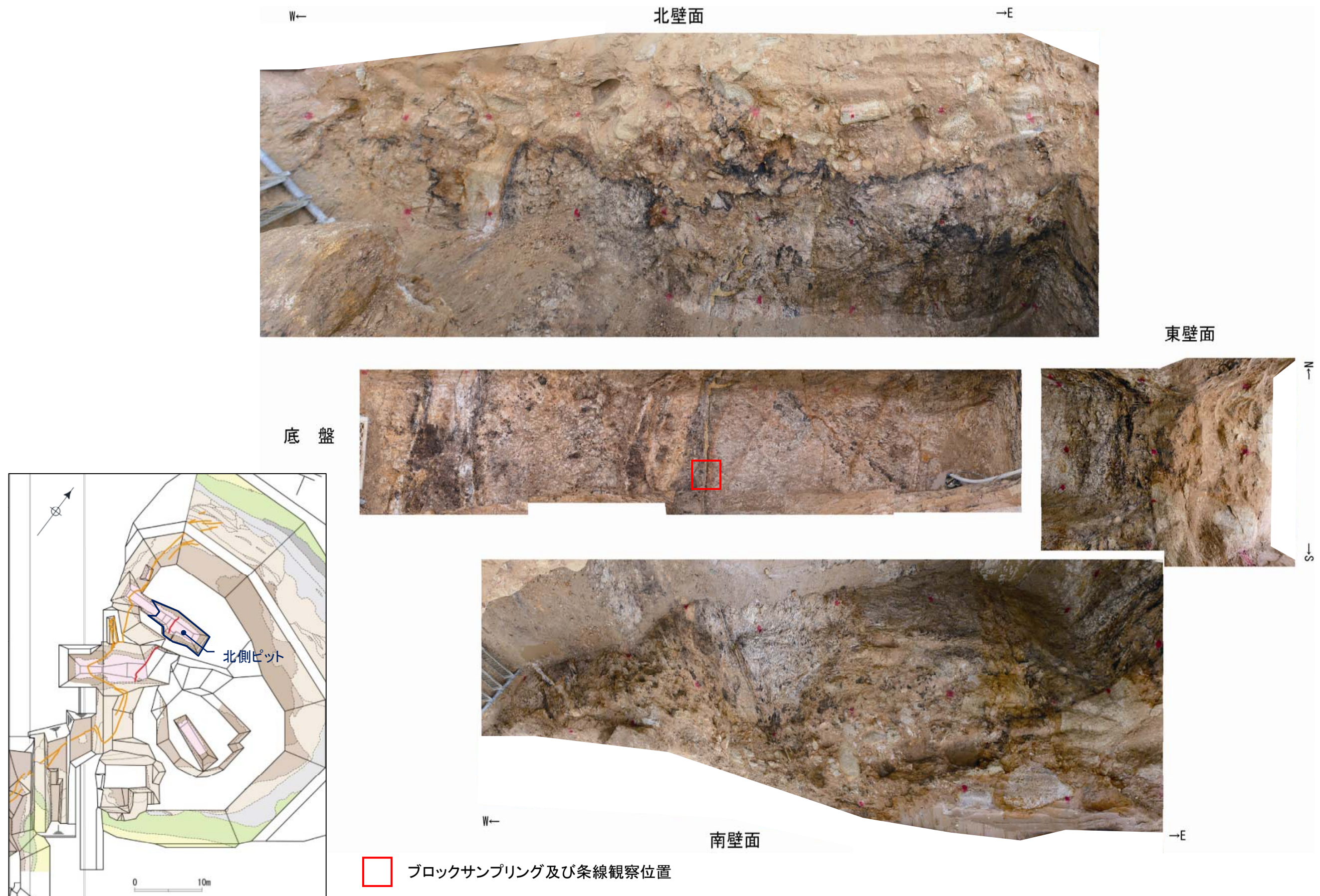


第7.4.4.35図 (5) D-1 破碎帯 薄片試料観察結果 (2号炉原子炉建屋とD-1 トレンチの間) (H27-B-2孔)

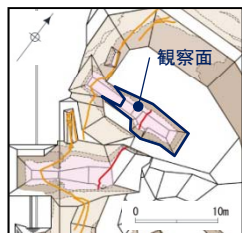




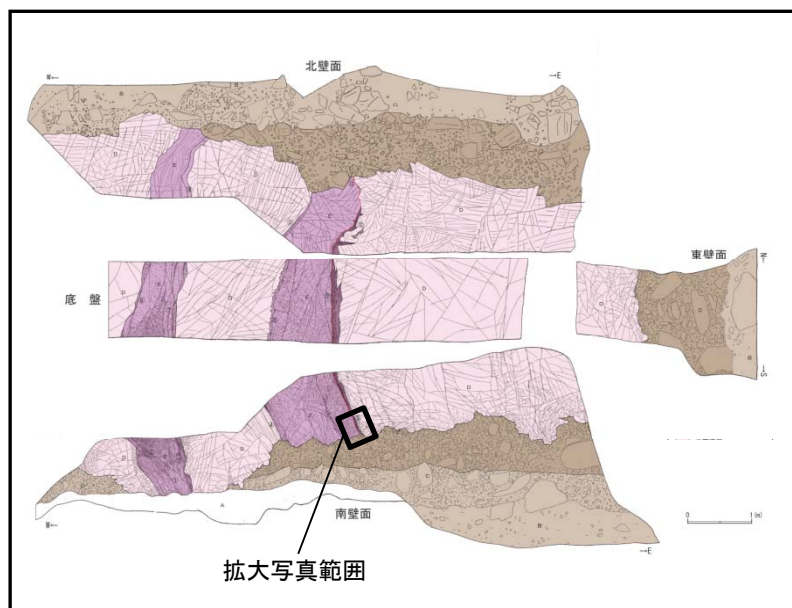
第7.4.4.37図 (1) D-1 破碎帯 ピット調査結果(北側ピット) (その1)



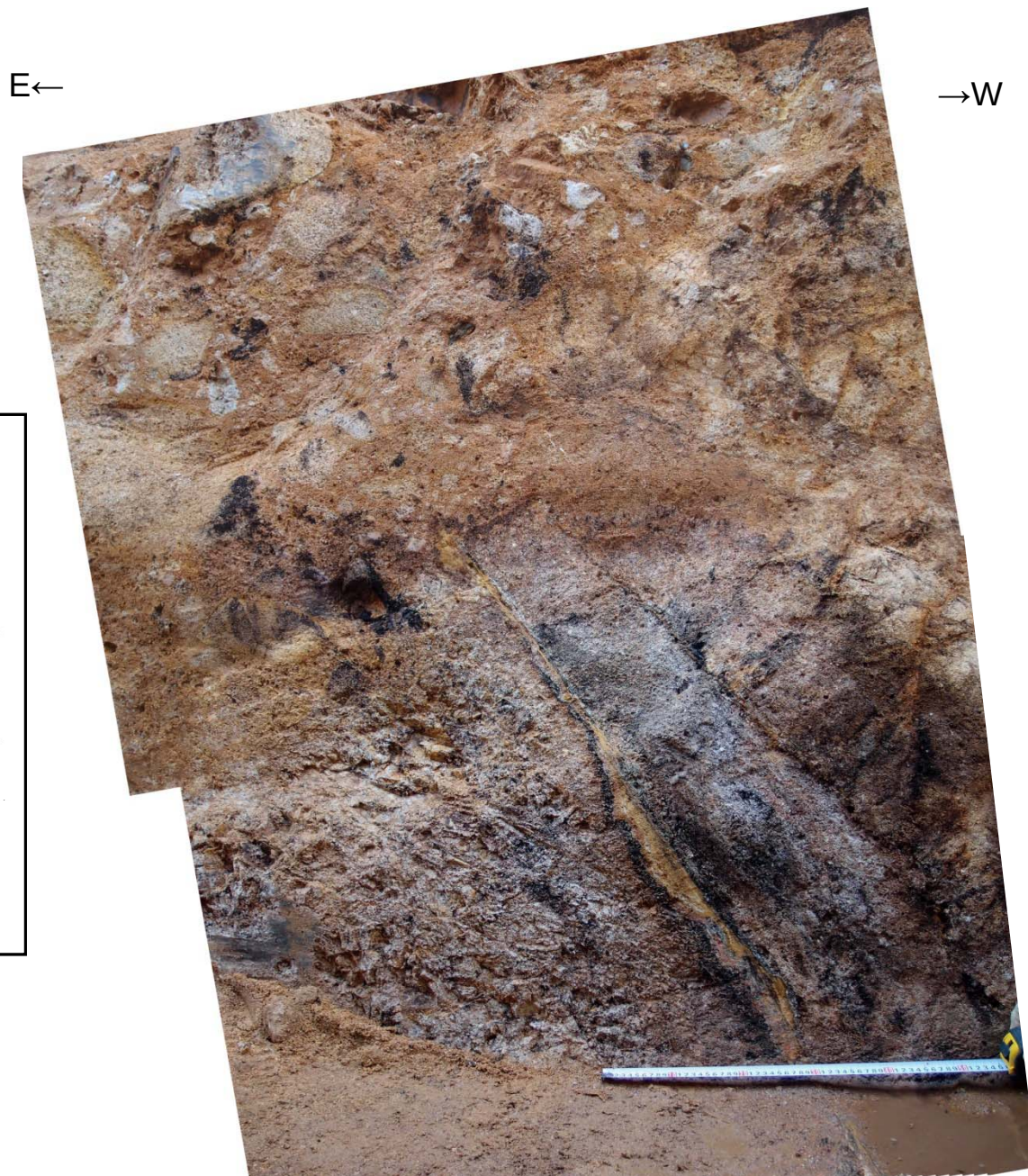
第7.4.4.37図 (2) D-1 破碎帯 ピット調査結果 (北側ピット) (その2)



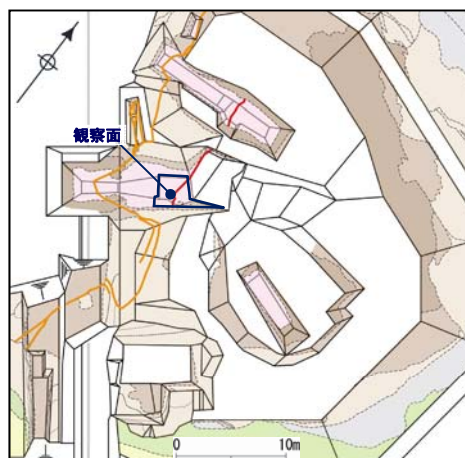
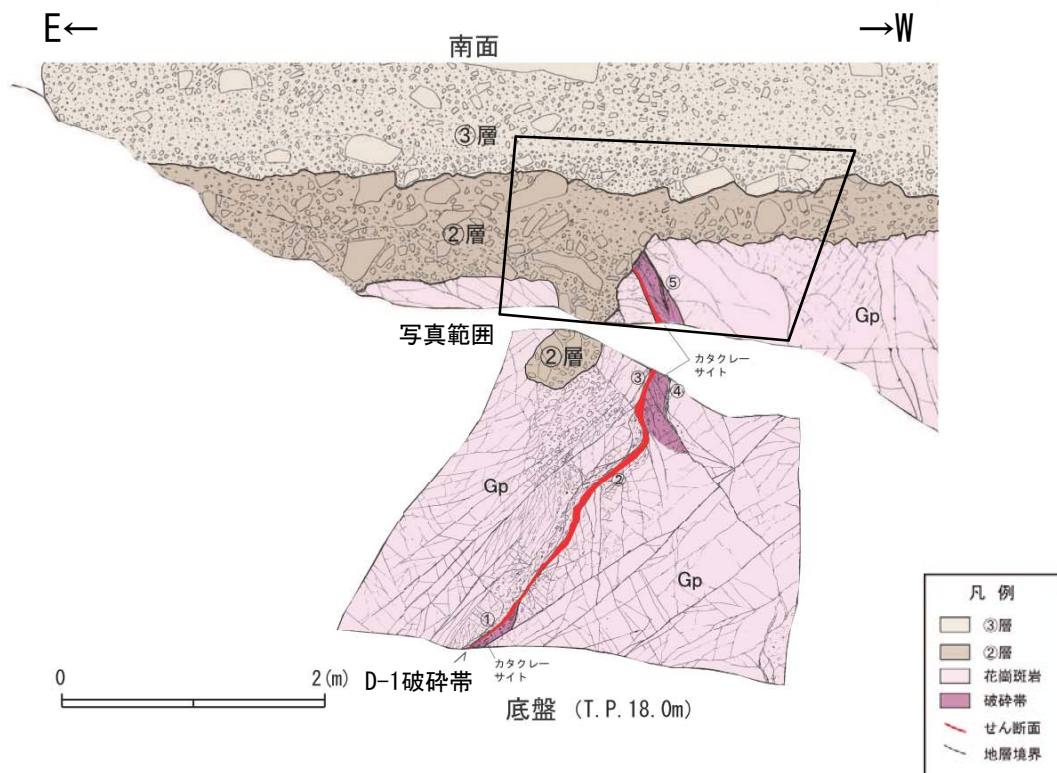
調査位置図



拡大写真範囲



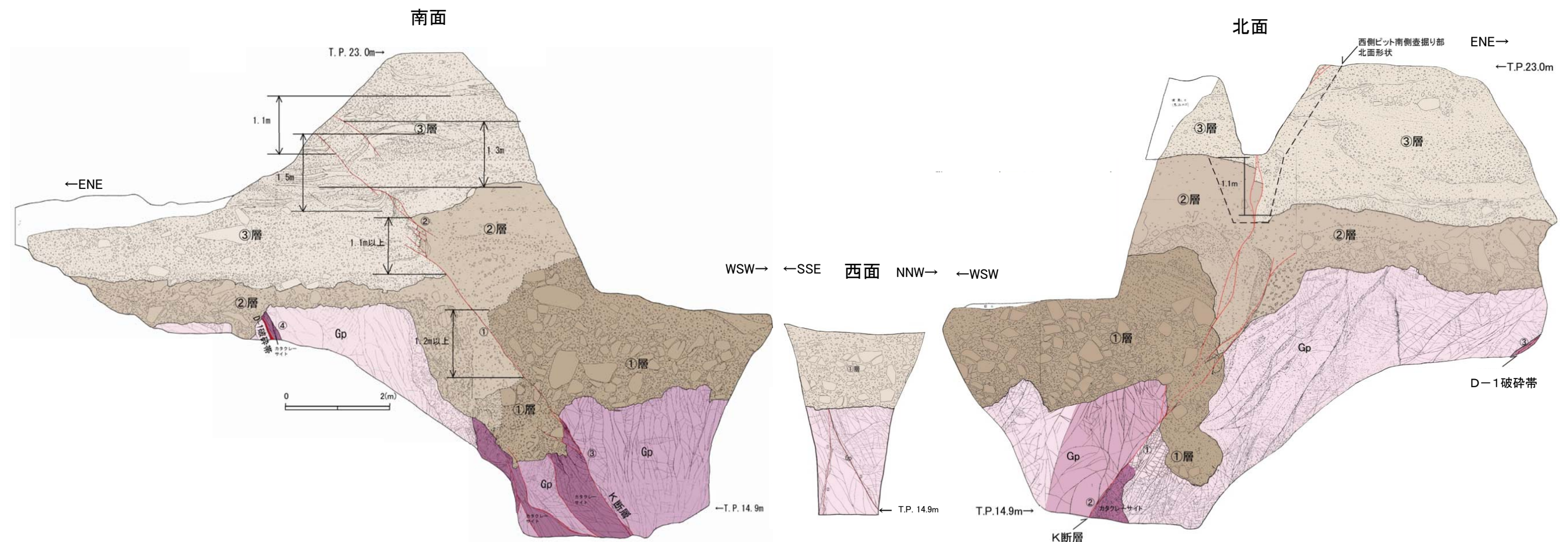
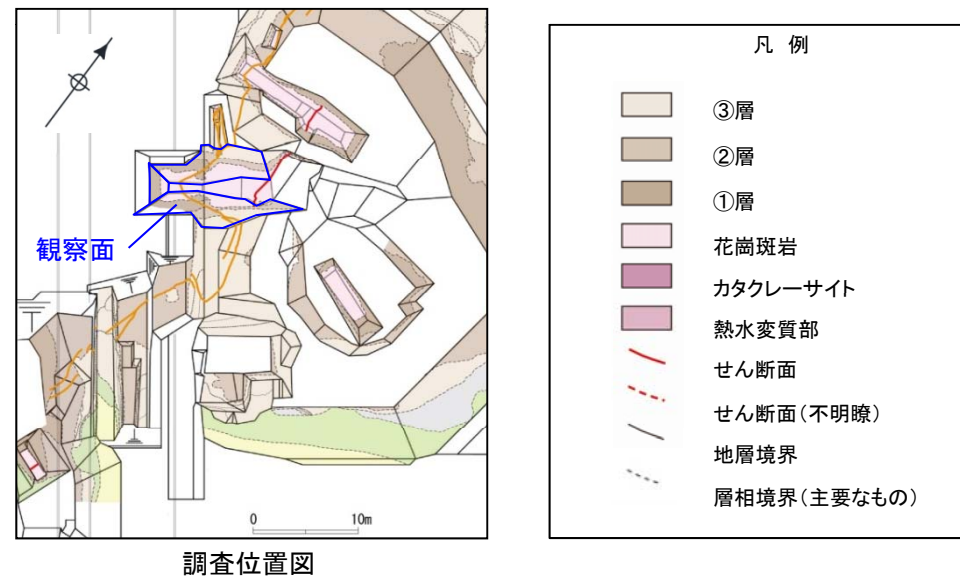
第7.4.4.37図 (3) D-1 破碎帯 ピット調査結果 (北側ピット) (その3)



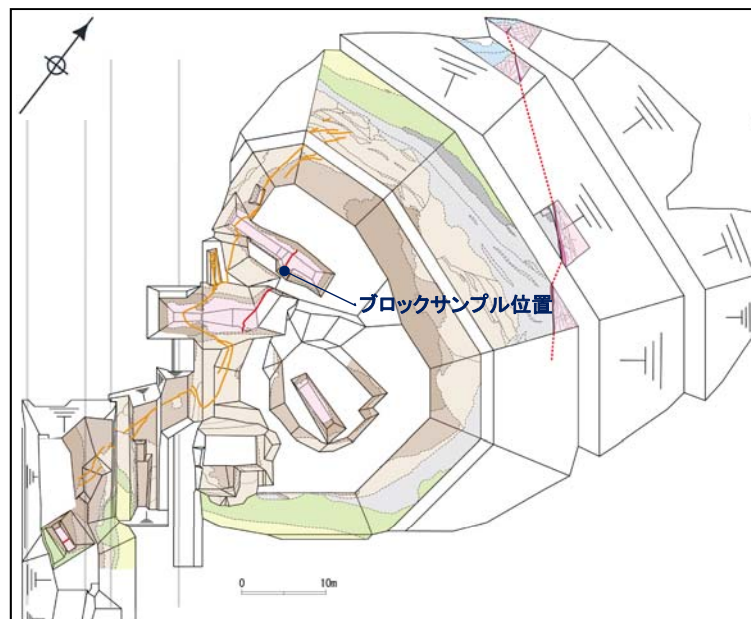
- ①: f: N17° E63° W 断層ガウジ (灰白色砂混じり粘土状: 幅5mm)
- ②: f: N10° E69° W 断層ガウジ (灰白色砂混じり粘土状: 幅30~50mm)
- ③: f: N1° E73° W 断層ガウジ (灰白色砂混じり粘土状: 幅10~30mm)
- ①~③の断層ガウジ周辺において、橙色~浅黄橙色 (7.5YR7/6~10YR8/3) を呈する珪質部を伴い、非常に軟質。
- ④: f: N9° W69° E 断層ガウジ (灰白色粘土状: 幅5~15mm)
- ⑤: f: N2° W62° W 断層ガウジ (灰白色粘土状: 幅12~20mm)
- f: せん断面
- ※走向は偏角未補正である。

- Gp: 花崗斑岩 (強風化部): 浅黄橙色~にぶい黄橙色 (7.5YR8/3~10YR7/4)。シルト混じり砂質礫状。全体的に変質を受け、軟質である。また、断層周辺部では、灰白色 (7.5YR8/2) を呈する花崗斑岩質カタクレーサイトが分布し、礫混じりシルト質砂状を呈する。
- ②層: シルト質砂礫: 浅黄橙色 (7.5YR8/3)。礫率20~40%で径20cm以下の角~亜角礫主体。基質はシルト及び細~中砂からなる。
- ③層: 砂礫を主体とする。浅黄橙色 (10YR8/3)。礫率25~50%で径20cm以下 (最大径70cm) の亜角礫からなる。基質は中~粗粒砂からなり、淘汰は悪い。また、上部には砂質シルト~シルトをレンズ状~層状に挟在する。

第7.4.4.38図 (1) D-1 破碎帯 ピット調査結果 (1-1ピット) (その1)



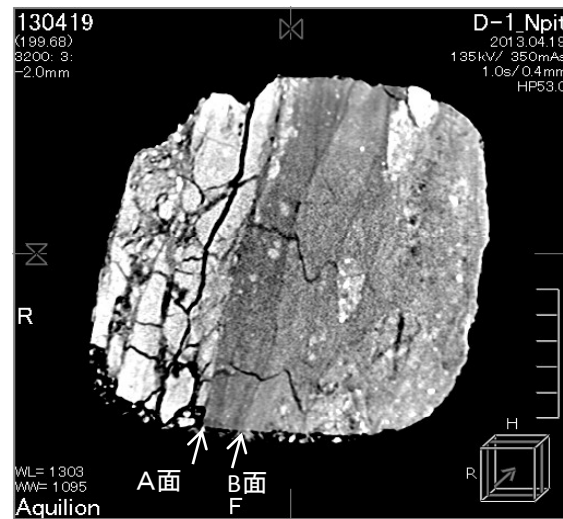
第7.4.4.38図 (2) D-1 破碎帯 ピット調査結果 (1-1ピット) (その2)



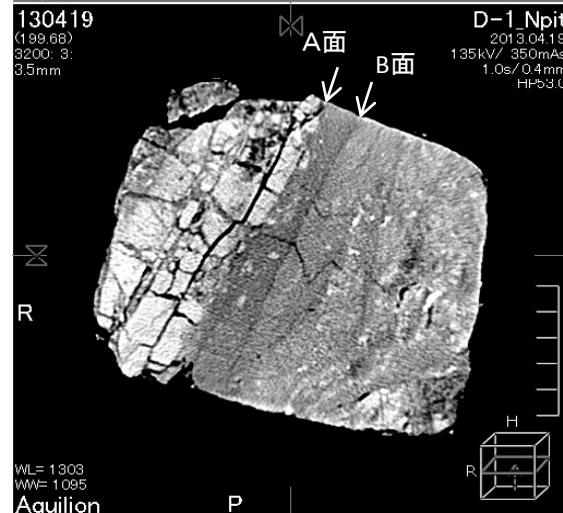
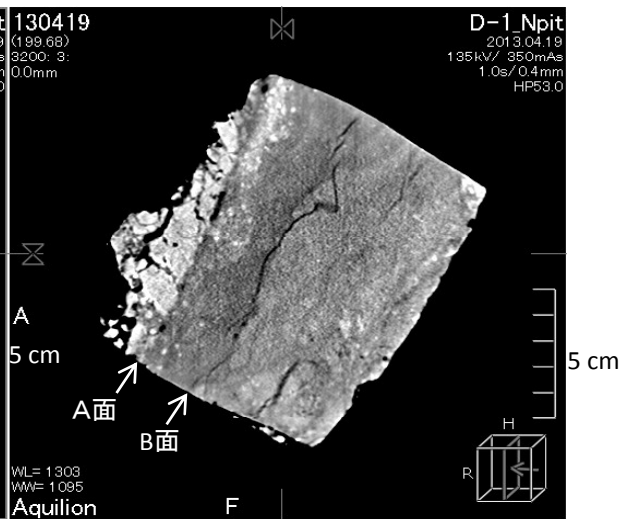
調査位置図



水平スライス断面

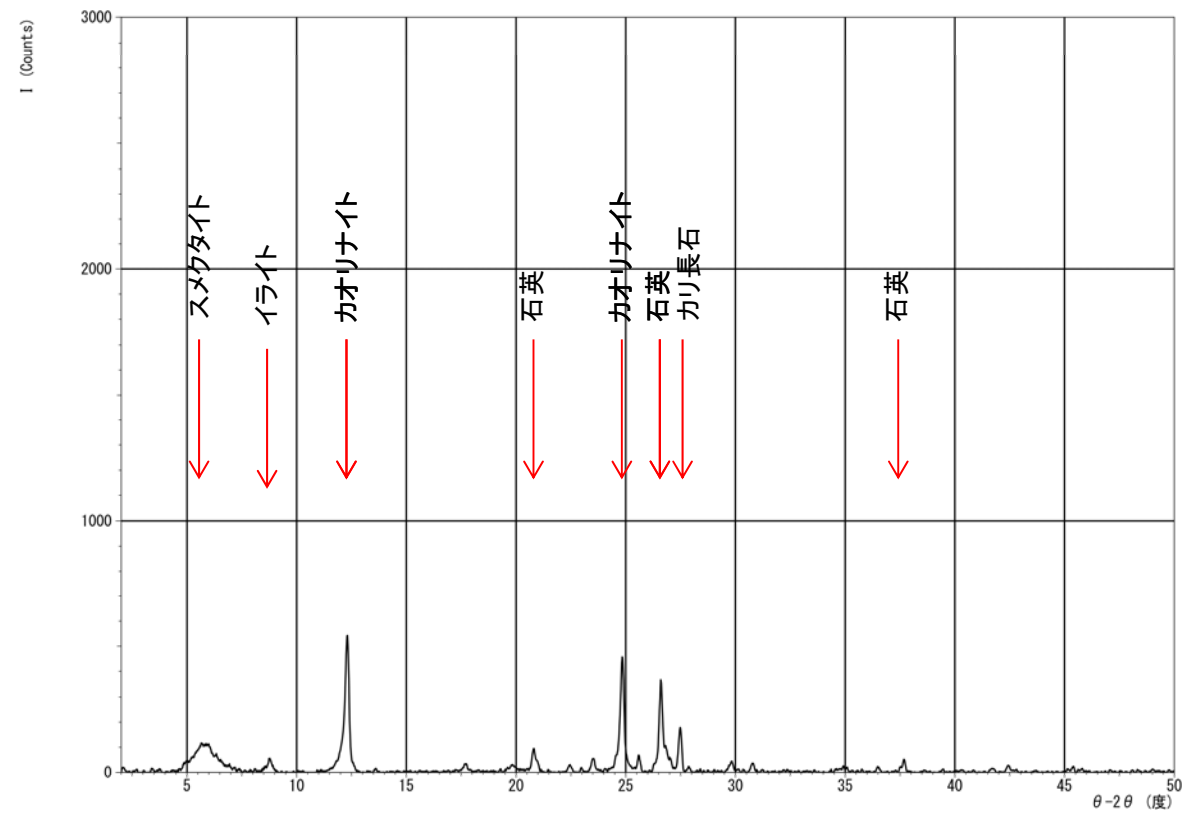
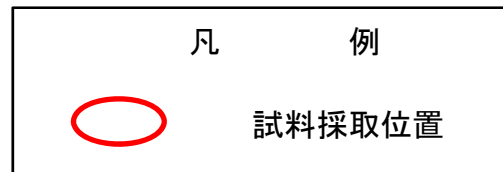


鉛直断面

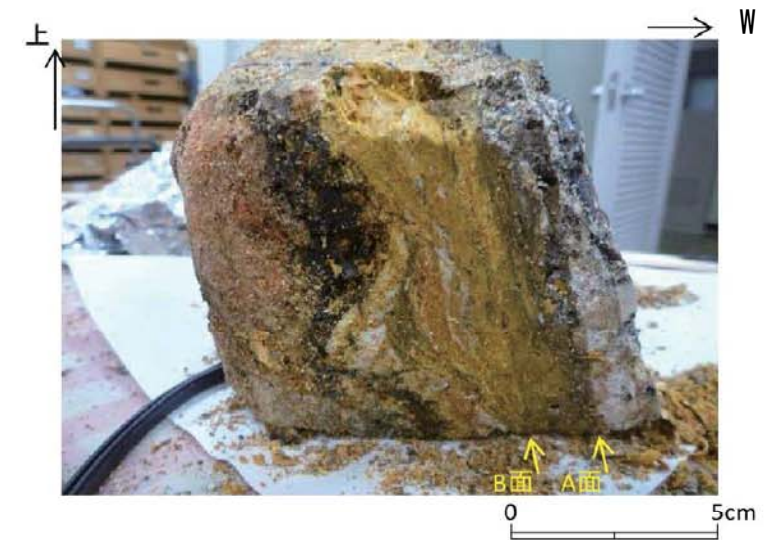
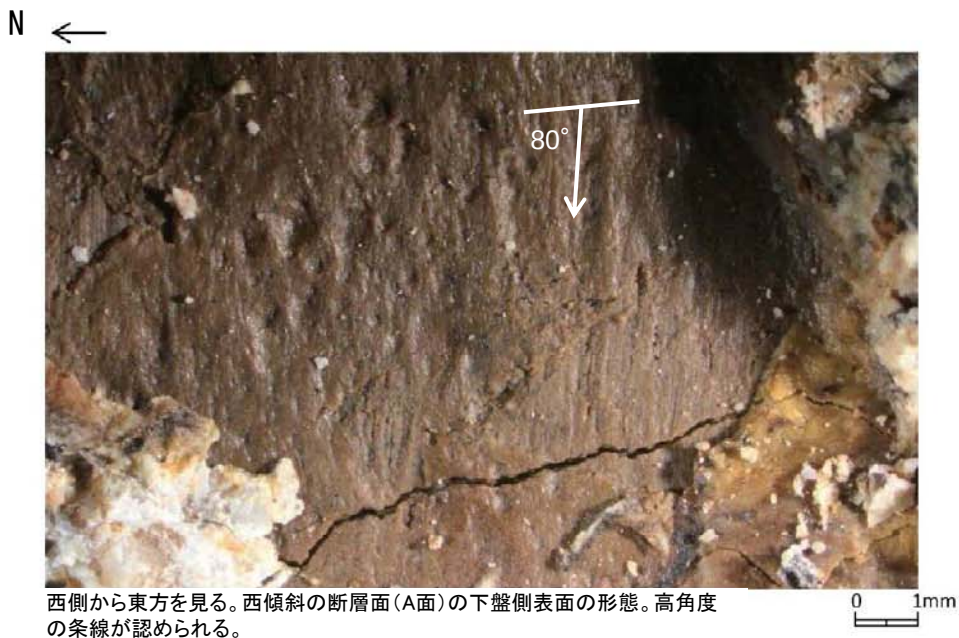


鉛直断面

第7.4.4.39図 D-1 破碎帯 ブロックサンプル及びCT画像（北側ピット）



第7.4.4.40図 D-1 破碎帯 X線回折分析結果 (北側ピット)

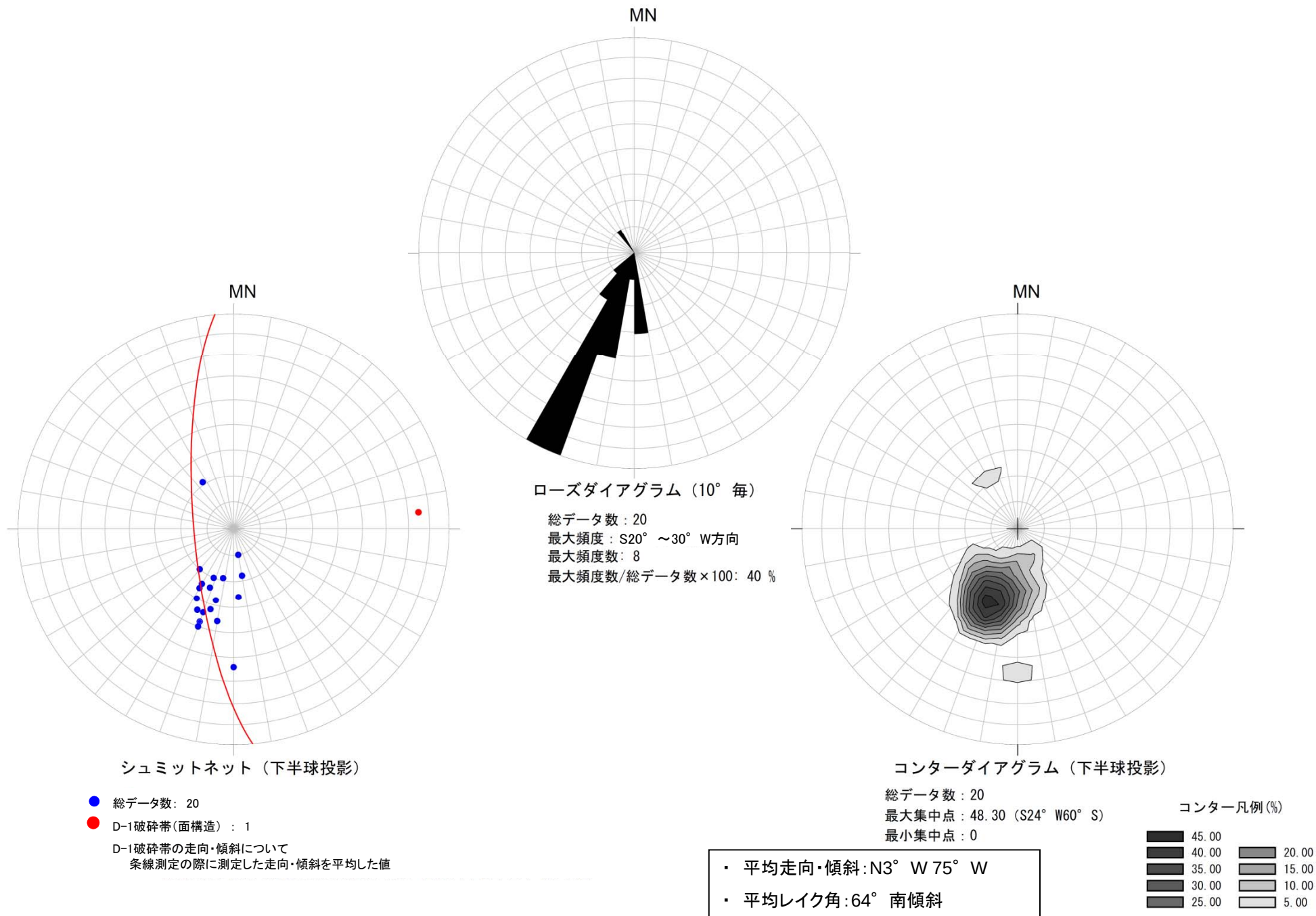


A面上の条線観察

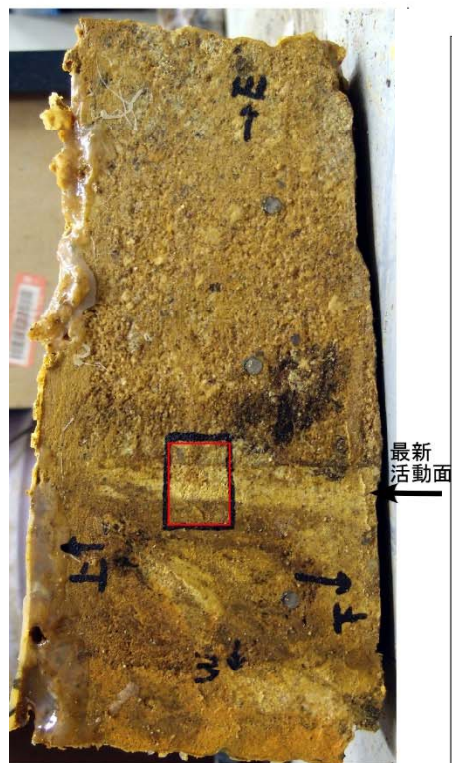


B面上の条線観察

第7.4.4.41図 (1) D-1 破碎帯 条線観察結果(北側ピット) (その1)

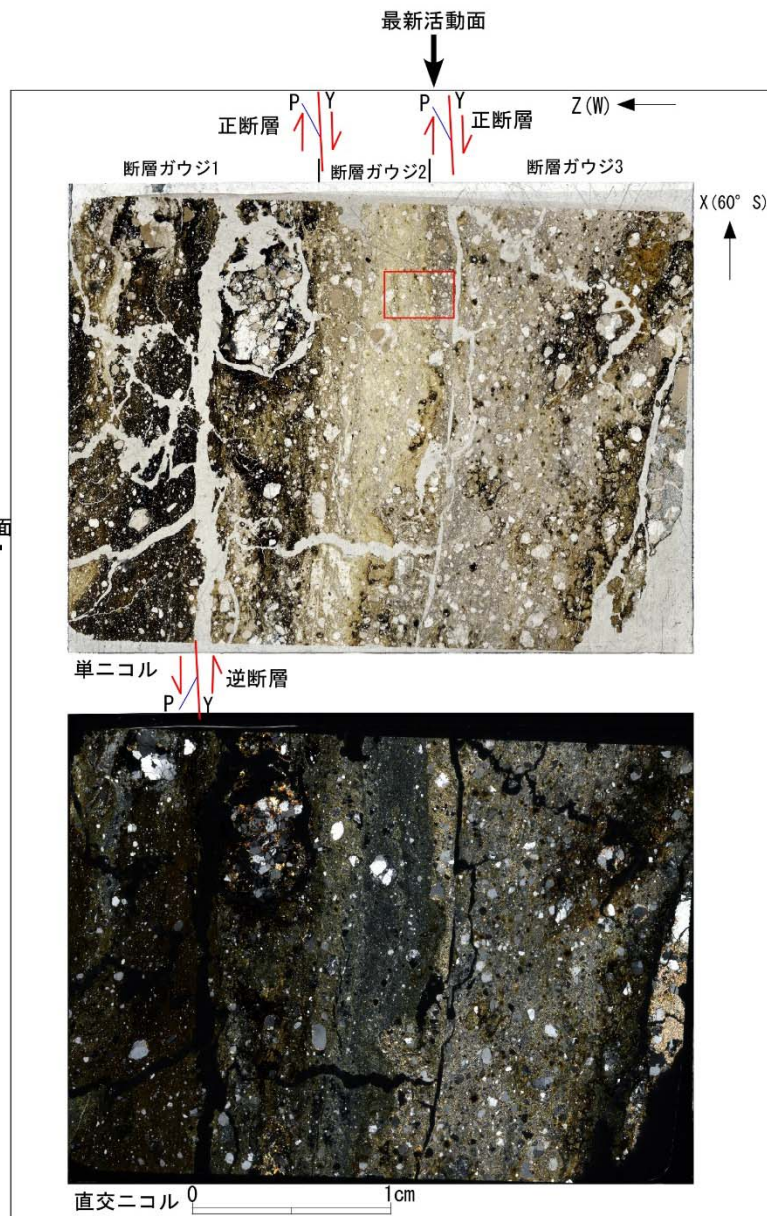
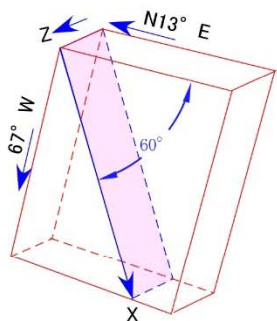


第7.4.4.41図 (2) D-1 破砕帯 条線観察結果 (北側ピット) (その2)
6-7-4-785



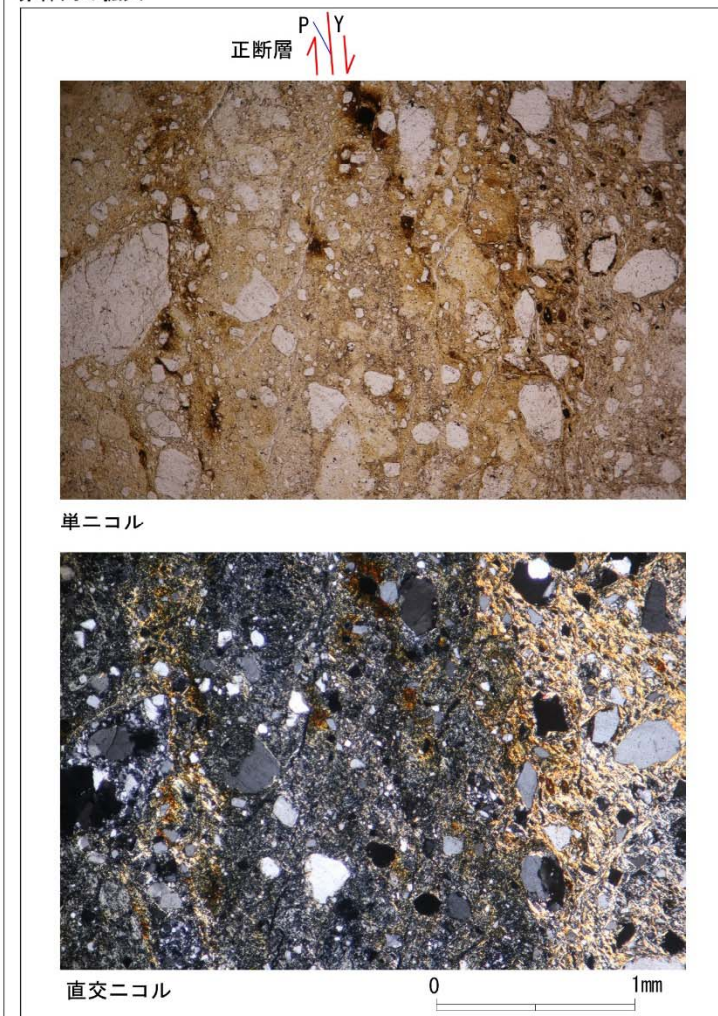
0 10cm

走向・傾斜 N13° E67° W



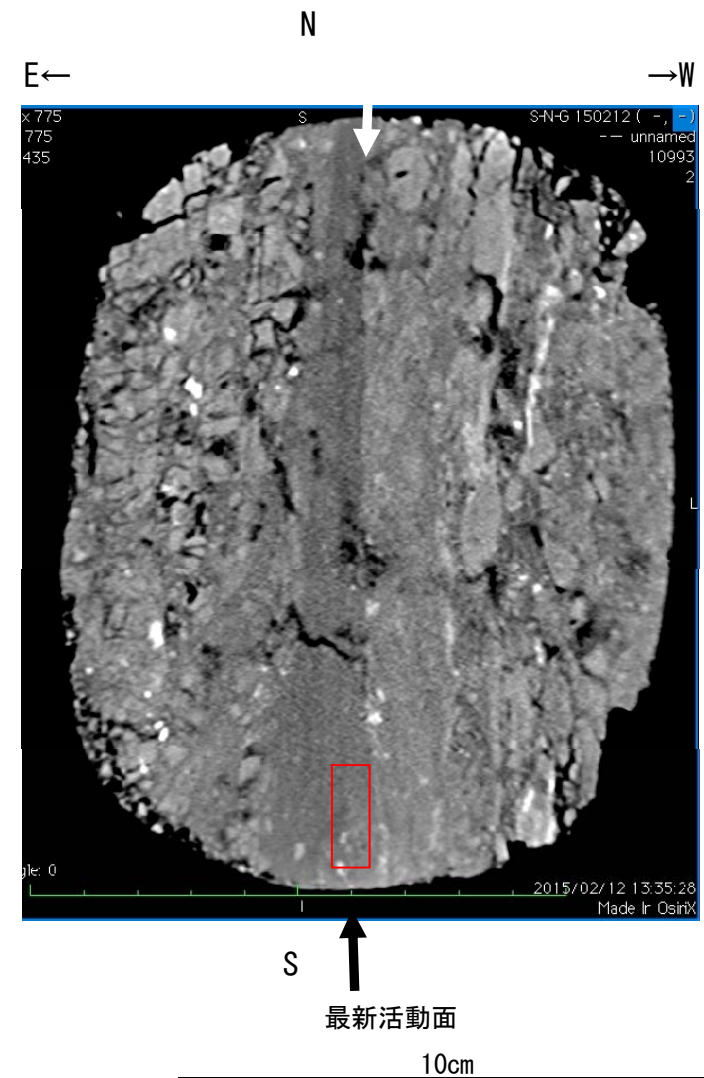
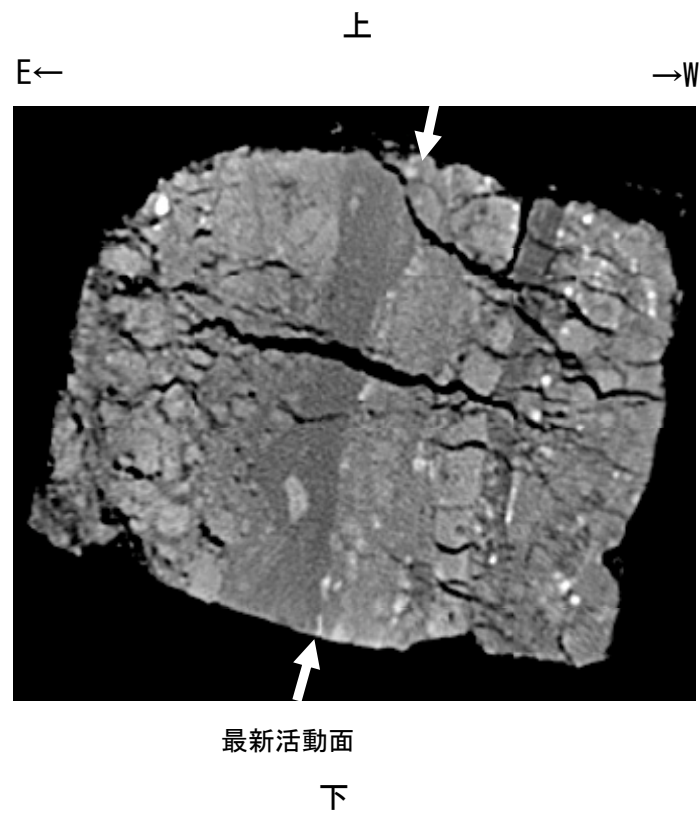
- 断層ガウジ1
褐色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～6mmの垂角～垂円礫状の石英、長石、カタクレサイトのフラグメントからなる。
基質には粘土鉱物を含む。不明瞭であるがP面から逆断層の変位センスが判読される。
- 断層ガウジ2 (最新活動面)
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～3mmの垂円～垂角礫状の石英、長石、カタクレサイトのフラグメントからなる。
基質には粘土鉱物が多い。不明瞭であるがP面から正断層の変位センスが判読される。フラグメントは円磨されたものが多い。
- 断層ガウジ3
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01mm～0.3mmの垂角～垂円礫状の石英、長石、カタクレサイトのフラグメントからなる。
基質には粘土鉱物が多い。不明瞭であるがP面から正断層の変位センスが判読される。

赤枠内の拡大



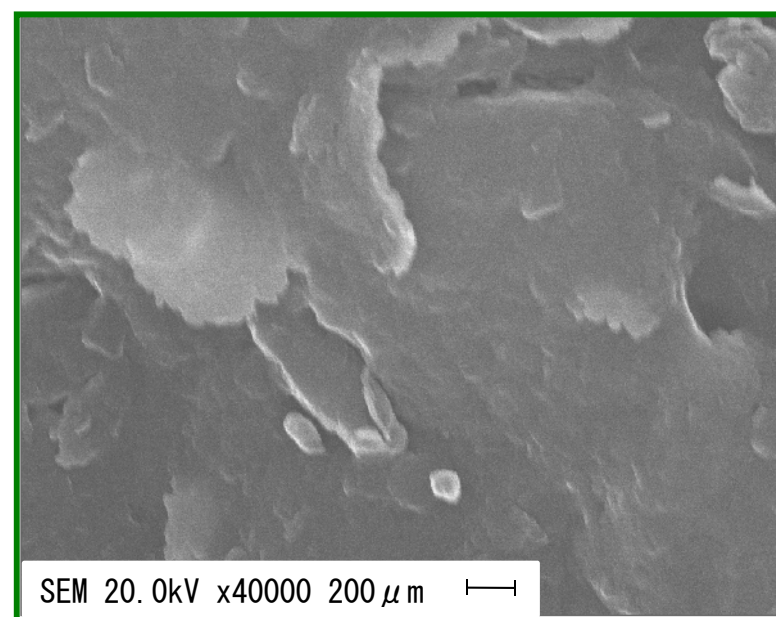
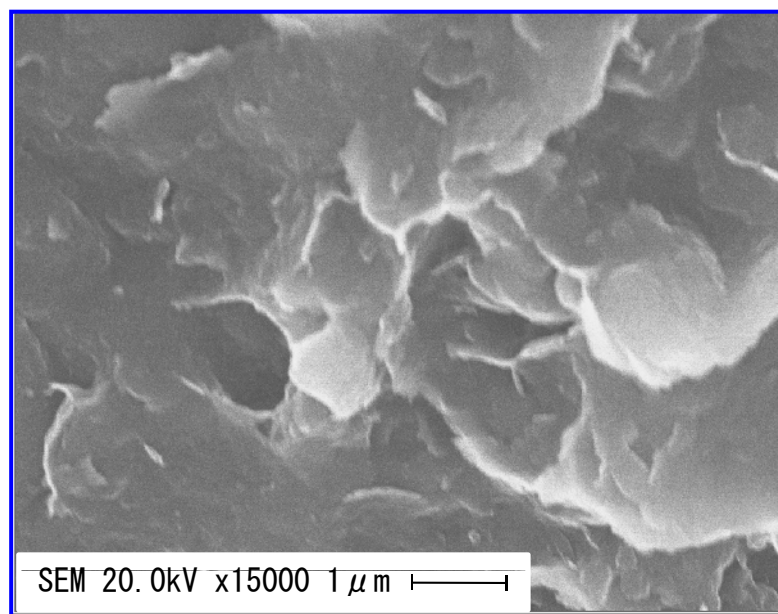
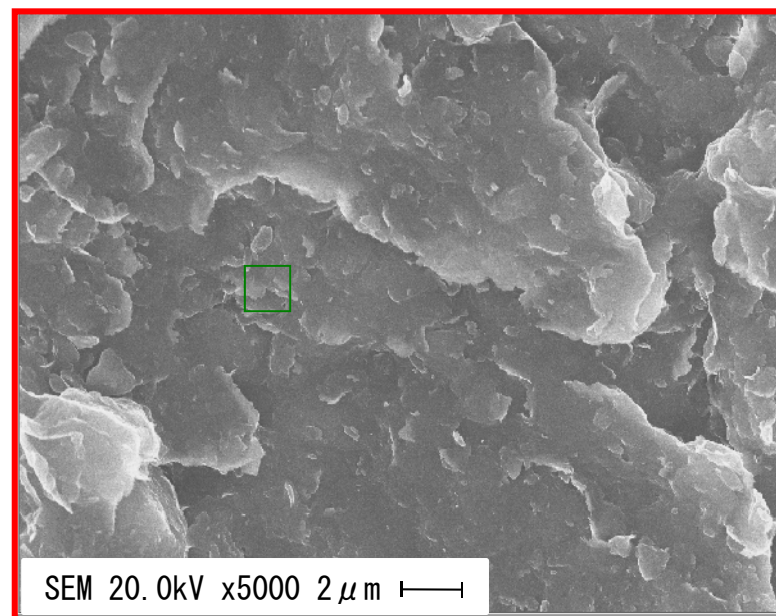
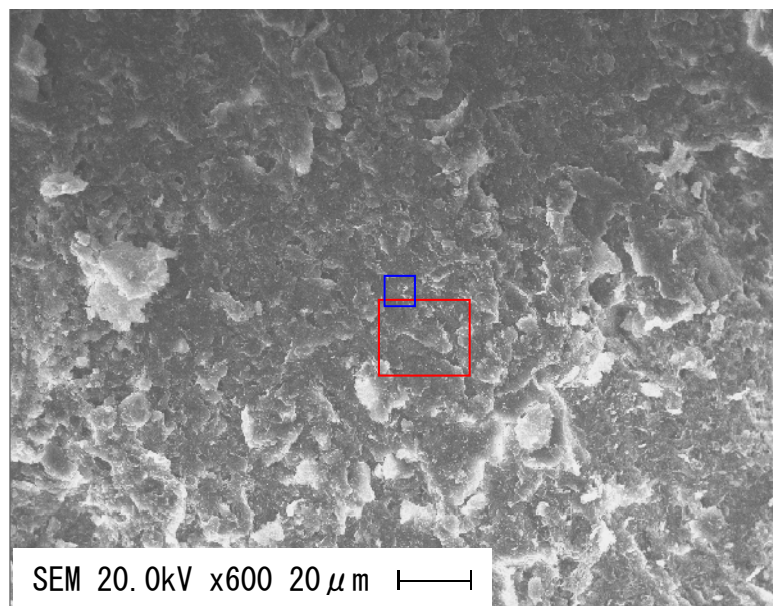
第7.4.4.42図 D-1 破砕帯 薄片試料観察結果 (北側ピット)

6-7-4-786



電子顕微鏡観察位置

第7.4.4.43図 (1) D-1 破碎帯 電子顕微鏡観察結果 (北側ピット) (その1)



第7.4.4.43図 (2) D-1 破碎帯 電子顕微鏡観察結果 (北側ビット) (その2)